

# Santen



## 一步「跳」ねる。

Double Benefit

### 広範囲抗菌点眼剤

薬価基準収載

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

## クラビット®点眼液

### Cravit® ophthalmic solution

レボフロキサシン点眼液



●禁忌 (次の患者には投与しないこと)  
本剤の成分、オフロキサシン及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

#### 【効能・効果】

レボフロキサシン感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、マイクロコッカス属、腸球菌属、コリネバクテリウム属、シュードモナス属、緑膿菌、ヘモフィルス属 (インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス (コッホ・ウィークス菌))、モラクセラ (ブランハメラ)・カタラーリス、モラクセラ属、モラー・アクセンフェルト菌、セラチア属、クレブシエラ属、プロテウス属、アシネトバクター属、エンテロバクター属、アクネ菌による下記感染症  
眼瞼炎、麦粒腫、涙囊炎、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎、角膜潰瘍、術後感染症

#### 【用法・用量】

通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。

#### ＜用法・用量に関連する使用上の注意＞

1. 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。  
2. 本剤におけるメチシリン耐性ブドウ球菌 (MRSA) に対する有効性は証明されていないので、MRSAによる感染症が明らかであり、臨床症状の改善が認められない場合、速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与すること。

#### 【使用上の注意】

##### 1. 副作用

承認時迄の調査及び使用成績調査の総症例2,418例中、副作用が認められたのは22例 (0.91%) であった。主な副作用は眼刺激感5件 (0.21%)、眼瞼痒感4件 (0.17%) 等であった。(第4回安全性定期報告時)

- 1) 重大な副作用 (まれに:0.1%未満、ときに:0.1~5%未満、副詞なし:5%以上又は頻度不明)  
ショック、アナフィラキシー様症状: ショック、アナフィラキシー様症状を起すことがあるので、観察を十分に行い、紅斑、発疹、呼吸困難、血圧低下、眼瞼浮腫等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) その他の副作用  
副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

| 種類  | 頻度 | 頻度不明           | 0.1~5%未満                     |
|-----|----|----------------|------------------------------|
| 過敏症 |    | 発疹、蕁麻疹         | 眼瞼炎 (眼瞼発赤・浮腫等)、<br>眼瞼皮膚炎、掻痒感 |
| 眼   |    | 結膜炎 (結膜充血・浮腫等) | 刺激感、びまん性表層<br>角膜炎等の角膜障害      |

##### 2. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。  
〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない〕

##### 3. 適用上の注意

- 1) 投与経路: 点眼用のみ使用すること。
- 2) 投与時: 薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意するよう指導すること。

●詳細は添付文書をご参照下さい。

製造発売元 **参天製薬株式会社**  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

提携 **第一製薬株式会社**  
東京都中央区日本橋3-14-10

2003年10月作成  
CVO3JBSF

# 第32号

## 栃木県眼科医会報

特集

## 栃木県眼科医会の50年

2004年6月発行  
栃木県眼科医会

# 栃木県眼科医会報 (第32号) 目 次

巻頭言 — この1年をふりかえって —……………稲葉 光治 …………… 1

**特集**

— 栃木県眼科医会の50年 —  
 栃木県眼科医会の50年のあゆみ…………… 3

記念文集

眼科医会入会の頃の思い出……………原 博…………… 6  
 眼科医会入会の思い出……………田口 太郎…………… 7  
 栃木県眼科医会と私……………早津 尚夫…………… 8  
 栃眼医入会から……………柏瀬 宗弘……………10  
 栃木県眼科医会と私……………原 孜……………11  
 眼科医会入会当時の思い出……………稲葉 光治……………13  
 栃木県眼科医会の思い出……………関 亮……………15  
 眼科医会入会の頃の思い出……………嶋田 孝吉……………16  
 17年の栃木県眼科医会会員としての想出……………小暮 文雄……………17  
 栃木県眼科医会と私……………鈴木 光……………19  
 栃木県眼科医会と私……………水流 忠彦……………20  
 栃木県眼科医会と私……………小原 喜隆……………21  
 栃木県眼科医会と私……………松島 博之……………22

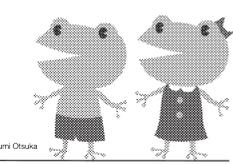
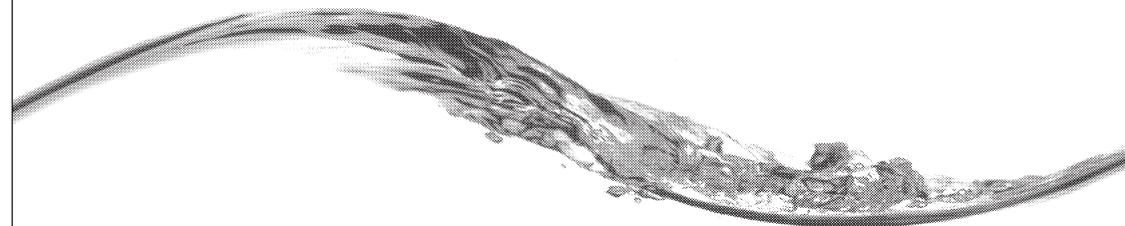
**特集**

— 栃木県眼科医会の50年 (資料編) —

1、年表 (栃木県眼科医会の50年)……………77  
 2、会員数の推移……………96  
 3、栃眼歴代役員……………97  
 4、学術行事記録  
 (1)栃木県眼科集談会 (春)……………99  
 (2) (秋)……………101  
 (3)獨協医科大眼科栃木県眼科医会合同講演会……………103  
 (4)栃眼医研究会……………107  
 (5)下野眼科談話会……………111  
 (6)栃木眼科セミナー……………112  
 (7)栃木県眼科手術談話会……………113  
 (8)栃木県総合医学会眼科研究発表……………114  
 5、コメディカル行事記録  
 (1)OMA 講習会および試験……………117  
 (2)栃木県眼科医療従事者講習会……………118  
 6、目の愛護デー行事記録  
 (1)目の愛護デー行事実施状況……………119  
 (2)目の愛護デー行事への参加状況……………120  
 (3)目の健康講座……………121  
 (4)下野新聞への寄稿……………122  
 7、栃眼医ゴルフコンペ実績……………123  
 8、栃眼医麻雀大会実績……………124  
 9、参考文献……………125

TEARBALANCE®

## 角結膜上皮障害に ヒアルロン酸ナトリウム 点眼液



**■ 効能・効果**

下記疾患に伴う角結膜上皮障害  
 ●シェーグレン症候群、スティーブンス・ジョンソン症候群、眼球乾燥症候群(ドライアイ)等の内因性疾患  
 ●術後、薬剤性、外傷、コンタクトレンズ装着等による外因性疾患

**■ 使用上の注意**

1.副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

|                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
|                    | 頻度不明                                |
| 過敏症 <sup>(注)</sup> | 眼瞼炎、眼瞼皮膚炎                           |
| 眼 <sup>(注)</sup>   | 痒痒感、刺激感、結膜炎、結膜充血、びまん性表層角膜炎等の角膜障害、眼脂 |

**■ 用法・用量**

1回1滴、1日5～6回点眼し、症状により適宜増減する。なお、通常は0.1%製剤を投与し、重症疾患等で効果不十分の場合には、0.3%製剤を投与する。

注)発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。  
 2.適用上の注意 (1)投与経路：点眼用のみ使用すること。(2)投与時：1)点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。2)ソフトコンタクトレンズを装着したまま使用しないこと。 2002年5月添付文書作成

**角結膜上皮障害治療用点眼剤**

指定医薬品 **ティアバランス®0.1%点眼液**

TEARBALANCE®0.1% OPHTHALMIC SOLUTION

ヒアルロン酸ナトリウム点眼液 薬価基準収載

※ 使用に際しては、警告・禁忌を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。 資料請求先：千寿製薬(株)学術情報部

製造 千寿製薬株式会社 販売 武田薬品工業株式会社  
 大阪市中央区平野町二丁目5番8号 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

## 学 術

### 第47回栃木県眼科集談会

- 特別講演「ぶどう膜炎の診断と治療—最近のトピックス—」…望月 学 ……23  
一般講演抄録 ……23

### 第30回栃木県眼科医会研究会

- アレルギー性結膜炎—鑑別診断と治療のポイント ……高村悦子 ……26  
裂孔原性網膜剥離の診断概念の問題点 ……田中住美 ……27

### 第9回栃木眼科セミナー

- 加齢黄斑変性の画像診断と治療の現状 ……寺崎浩子 ……28

### 第14回下野眼科談話会

- 特別講演「白内障手術・過去から未来へ向けて」…田澤 豊 ……29  
一般講演抄録 ……29

### 平成15年度栃木県眼科医療従事者講習会

- 平成15年度栃木県眼科医療従事者講習会報告 ……井上成紀 ……32

## 報 告

- 平成16年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会 ……宮下 浩 ……34  
日眼医代議員会総務常任委員会 ……柏瀬宗弘 ……36  
関プロ連絡協議会（平成15年度第2回）…早津尚夫 ……38  
平成16年度栃眼医総会開催報告 ……宮下 浩 ……41  
平成15年度栃眼医会務報告 ……43  
平成15年度栃眼医会報会計報告 ……49  
平成15年度栃眼医会会計報告 ……50  
平成15年度医事対策費及び日本眼科医連盟会費収支決算報告 ……51  
平成16年度栃眼医会事業計画 ……52  
平成16年度栃眼医会収支予算 ……53  
平成16年度栃眼医会医事対策費予算 ……54  
栃木県社保国保審査委員連絡会（平成15年度第2回）…千葉桂三 ……55  
保険診療Q & A ……千葉桂三 ……56  
関プロ会報編集委員会報告 ……城山力一 ……58  
栃木県眼科学校医実態調査アンケート結果 ……苗加謙応 ……59  
平成15年度日眼医全国勤務医連絡協議会出席報告 ……上田昌弘 ……63  
平成15年度栃眼医忘年会開催報告 ……松島雄二 ……65  
第60回栃木県眼科医会ゴルフコンペ ……田口太郎 ……66  
会員寄稿 「コンタクト診療と法律」 ……旭 英幸 ……67  
留学だより ……菊池通晴 ……69  
新規開業ご挨拶 ……大柳静香 ……70  
自治医大の近況 ……牧野伸二 ……71  
会務日誌 ……72  
会員消息 ……73  
大学外来診療担当者表 ……74  
ご投稿のお願い ……126  
編集後記 ……城山力一 ……126



## この1年をふりかえって… これからの眼科医会

会長 稲葉 光治 (宇都宮市)

昨年4月、会長を仰せつかってから、1年が経ちました。予定いたしました事業は計画通り終了いたしました。これも役員、理事の先生方のご努力、会員の皆様方のご協力によるものと、深く感謝申し上げます。

会の事務的な事柄につきましては、加藤副会長、事務局を前年度から引き続きお引き受け下さった、前会長、現監事の早津先生のお骨折りもあり、順調に事は運びました。

会の事業を振り返りますと、メインの行事である、学術集会（主催、共催、後援含め）7回、「目の愛護デー」記念行事（目の無料相談、目の健康講座）を市民保健センターで、医療従事者講習会（県医師会講堂）と順調に運びました。自治医大 水流教授、獨協医大 小原教授始め医局の先生方のご協力、製薬会社のお力添えに感謝いたします。

眼科学校医に対する批判の多い昨今ですが、眼科学校医アンケートを実施いたしました。結果は今号に掲載予定ですが、これ等を資料として今後の「学校医のあり方」について検討致したいと思っております。

昨年度から色覚検査が学校健康検査必須項目から外されました。昨年、県教育委員会を訪れ、色覚検査の必要性を説明、プライバシーを守り、希望者に健康相談の形で実施することで、了解を得ました。各郡市教育委員会にも説得、了解を得る必要が有るかと思っておりますが、（宇都宮市教育委員会は問題なしとの事でした）後は、眼科学校医による、学校現場の校長、擁護教諭の説得により、色覚検査の実施をお願い致します。

保険関係では、昨年は白内障手術を始め、点数の引き下げがありました。会員からの要望、不満

の声は日眼医の代議員会などで多く噴出しておりますが、この声が、中央社会保険審議会、厚生労働省にどのようにして届き、その影響力は？これ等の審議過程は全く情報が伝わって来ません。昨年の白内障点数引き下げ時に前日眼医佐野会長も、この事は、寝耳に水であった、とおっしゃって居りました。昨日の新聞に、診療報酬決定に関して、贈収賄容疑で歯科医師会の会長の逮捕が報じられております。この事は医師連盟、眼科医連盟等の活動のあり方を根本的に変える必要が有ることを示唆しております。もっと医療費に関しオープンな審議、議論に耐えるよう、客観的なデータを示し（材料費、人件費、技術料、設備投資額、治療の効果、機能回復による個人的、社会的効果、安全対策に対する経費など具体的に）現状を訴えるべきと思います。

しかし、今後如何に医療費が下がっても、医療に対する責任は今後益々重くなり、この事は、経済的問題とは全く別問題と考えるべきでしょう。

最近、医療ミス、事故のマスコミ報道が相次ぎ、医師と患者の良い信頼関係を作り難くしております。社会の我々に向けられる目は一層厳しくなり、医療の質に対して要求は高まるばかりです。

今後更に、医師として、適正な医療に勤め、患者との良い人間関係の構築に真剣に取り組まねばなりません。我々に一層の努力が求められています。

以上、昨年度を振り返り、最近の我々医師に対して社会の求めるもの、医師としてなすべき事につき想いを述べさせて頂きました。

平成16年度の事業につきましては、例年同様に実施致す予定です。

今年度当会後援の行事としまして、第21回関東

眼科学会が5月15日(土)、16日(日)自治医大眼科 水流教授主催で東京平河町 シェーンバッハ・サボア（砂防会館）で開催されます。この学会の盛会、成功を願っております。

これは眼科医会の行事、主催ではありませんが、全日本眼科医ゴルフ選手権が、9月19日(日)日光カンツリー倶楽部で開催されます。昨年、同選手権で小山の斎藤信一郎先生が優勝し、幹事役を仰せつかり、栃木県眼科医会後援となりました。日光CCは、昨年日本オープンゴルフ選手権が開催された名門コースです。現在83名のエントリーがあります。

以上、今年度も会の運営につきましては、役員、理事、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

栃木県眼科医会は、日本眼科医会が創立された昭和26年、日本眼科医会栃木県支部として、設立されました。既以来50年を過ぎておりますが、この機会に、栃木県眼科医会の歴史を記録に留めようとの企画で、この32号を50周年記念特集といたしました記念文集と、資料編の構成となっておりますが、栃眼医の歴史の辞書とも言える詳細な記録、資料編は、前会長、現監事 早津先生のご努力によるものです。早津先生、会報編集長の城山先生のお骨折りに感謝いたします。

代謝型プロスタグランジン系  
緑内障・高眼圧症治療剤

**レスキュラ®**点眼液

Rescula® Eye Drops

薬価基準収載

指定医薬品

【イソプロピル ウンプロストン点眼液】

●効能・効果、用法・用量、使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

販売 資料請求先  
**藤沢薬品工業株式会社**  
大阪市中央区道修町3-4-7 〒541-8514

製造  
**株式会社アールテック・ウエノ**  
兵庫県三田市テクノパーク4番1

作成年月2004年1月

## 栃木県眼科医会50年のあゆみ

日本眼科医会は昭和6年の創立とされるが、当時は入会も支部結成も任意であったようで、栃木県支部が結成されたという記録はなく、同業者が不定期に集まって会食をする程度であったらしい。当時の話題は、診療料金の下限を決めたり、一律休診日を設定したり、などであったという。

栃木県眼科医会が設立されたのは、戦後になって日本眼科医会が再発足した昭和26年である。

日本眼科医会再建のきっかけとなったのは、昭和22年に設立された関東眼科集談会（今の臨床眼科学会の前身）で、この世話人の一人として当県から参加したのが稲葉六郎氏（宇都宮市）であった。この関係で稲葉氏は日眼医の再建復興にも関与し、再発足当初の日眼医理事、栃木県眼科医会初代会長として活躍することになる。

創立当初の当会の会員数は40名であった。当時の当会の目的は、会員相互の融和親睦と学術研修が2本柱で、さらに会員福祉向上のため保険診療内容の充実を目指すことも重視された。

学術面では、毎年1回の総会の際に、全国各大学の高名な諸先生方を招いて眼科講習会が行われた。第1回は当時東大分院の桐沢長徳助教授により、小山市の思水荘において臨床講義兼座談会の形式で盛大に行われたという。

又、当時、当県の眼科保険点数が非常に低かったため、講習会の際に中央から保険担当役員に県願、保険研究会も随時行われたようである。

ただ、昭和20、30年代の会務の記録が全く残されていないことは誠に残念である。

当会の活動が多少とも活発になりはじめたのは、昭和40年、関東甲信越地区眼科医会連合会の発足に伴い、毎年各県の持ちまわりでブロック講習会（のちに関東甲信越眼科学会と呼称）を開催することになったためである。当県がはじめて当番県となったのは昭和46年で、稲葉六郎会長により那須ロイヤルホテルで開催された。会員の努力により

成功裡に終了することができたが、当番県として準備の会合を重ねるうちに会員の融和も高まるという副次効果が生じた。

創立後20年位までは会員数もさして増えず、年に1、2回集まる程度で、会則もなく、会報も出さず、目立った公衆衛生活動もやらない、親睦中心の小規模な会として時を経て来た。

ところが、昭和40年代の後半、今まで医大のなかった当県に、自治、獨協の両医科大学が相次いで開学となり、様相が変わって来た。両医大の先生方との協調融和という大目標ができたからである。

昭和50年代に入り、専門医制度発足という事情もあり、集談会、講演会、研究会などが次々と誕生した。勤務医との親睦をはかるためのゴルフ、麻雀等の趣味の会をはじめ、談話会、懇親会も増え、会報も発刊され、会則も制定された。

日本眼科医会の公益法人化に伴い、公衆衛生活動にも力を入れるようになり、「目の愛護デー」行事として健康相談、健康講座も開催するようになった。地域眼科医療を担う責任団体としての自覚のもと、県民のニーズに応えるべく、着実な前進を遂げて来た50年と自負している。

### （歴代会長）

初代会長 稲葉 六郎（宇都宮市）昭26～昭39  
 二代目会長 吉沢 清（鹿沼市）昭39～平1  
 三代目会長 早津 尚夫（宇都宮市）平1～平15  
 四代目会長 稲葉 光治（宇都宮市）平15～

### （会員数）

昭和26年40名で発見したが、両医大開学後の昭和50年頃に100名となり、最近では150名を超えるようになった。平成14年度末現在、A会員55名、B会員67名、C会員31名、会費免除会員4名、合計157名で、開業医より勤務医がはるかに多くなっている。

### 栃木県眼科医会歴代会長



稲葉 六郎  
初代会長



吉沢 清  
二代目会長



早津 尚夫  
三代目会長



稲葉 光治  
四代目会長

### （会議、役員）

総会は年1回4月に開催される。理事会は年6回開かれる。現在の役員は会長のほか副会長2名、理事20名、監事2名、顧問2名、計27名で、理事には両大学より各2名、公立病院より1名、女性代表2名が入っており、勤務医や女性会員の声が反映できるようになっている。

事業部は総務、経理、学術、コメディカル、保険、広報、学校保健、公衆衛生、医療対策、福祉、勤務医の計11部があり、各部の職務を理事が分担している。

### （学術行事）

専門医制度の気運が高まった昭和56年に栃木県眼科集談会が発足した。年2回春と秋に開催され、一般講演の他、特別講演が春は県外、秋は県内の講師によって行われている。

獨協医大と栃眼医との合同講演会は昭和53年から毎年夏に開催されている。

栃眼医研究会も年2回開かれる。最近ではメーカーとの共催になっている。

その他、獨協医大が主催する下野眼科談話会（年1回）、自治医大が主催する栃木眼科セミナー（年2回）に当会が後援させていただいている。

これらの学術行事はどれも出席率がよく盛会であるが、両大学スタッフの先生方のご指導ご協力に負うところが大きい。

### （自治医大、獨協医大との協力）

自治医科大学は昭和47年県南の南河内町に、獨協医科大学は翌48年同じく県南の壬生町に開学し、49年に両医大付属病院が診療を開始した。

### 自治医科大学眼科

初代教授 清水昊幸（昭47～平10）  
 二代目教授 水流忠彦（平10～）

### 獨協医科大学

初代教授 関 亮（昭48～平2）  
 二代目教授 小暮文雄（平2～平8）  
 三代目教授 小原喜隆（平8～）

両大学とも開学以来順調な発展を遂げ、医局スタッフも充実、研究業績、学会活動も顕著である。

両大学が主催した主な学会は下記の通りである。

**自治医大：**眼科顕微鏡手術の会（昭50 宇都宮市）、角膜カンファレンス（昭60 日光市）、網膜剥離学会（昭61 東京都）、眼科手術学会（平3 大宮市）、感染症学会（平3 東京都）、弱視斜視学会（平4 大宮市）、眼窩症患シンポジウム（平13 自治医大）

**獨協医大：**白内障研究会（昭57 宇都宮市）、眼科手術学会（昭60 宇都宮市）、関東眼科学会、日韓眼科ジョイントミーティング（昭63 宇都宮市）、白内障・眼内レンズ学会（平3 宇都宮市）、WHO西太平洋地域失明予防ワークショップ（平5 宇都宮市）、臨床眼科学会（平7 宇都宮市）、白内障学会（平9 仙台市）

上記の学会に当会は物身両面で及ぶ限りの協力をさせていただいている。

かつて無医大県で頼るところがなかった当県開業医にとって今や両大学は大きな拠り所となっており、医会活動も学術面を中心に両大学の協力なしには成り立たない。大学と開業医は、地域医療の担い手として車の両輪のようなものである。お互いの立場を理解し、協力し合えば共存共栄は容易である。幸い両大学から医会に深い理解と協力

### 自治医科大学歴代教授



清水 隼幸  
初代教授

水流 忠彦  
二代目教授

### 獨協医科大学歴代教授



阿 亮  
初代教授

小暮 文雄  
二代目教授

小原 喜隆  
三代目教授

をいただいております、感謝の極みである。

#### (関東甲信越眼科学会開催)

- 第7回(稲葉六郎会長) 昭46 那須町
- 第16回(稲葉六郎会長) 昭55 那須町
- 第24回(吉沢 清会長) 昭63 宇都宮市
- 第34回(早津尚夫会長) 平10 宇都宮市

#### (眼科コメディカル教育)

関東7県の共催で眼科臨床技術研究会に業務委託して、昭和54年以来毎年OMA講習会を行っている。毎年20~40名の受講者があり、試験合格後各眼科において貴重な戦力となっている。定着率が高いのが当県の特徴である。

又、眼科医療従事者講習会を平成11年以来毎年開催しているが、200名近い受講者があり、盛況である。

#### (健保研究会など)

年2回栃木県眼科集談会のあと健保研究会を開催している他、保険診療講習会開催、会報に保険請求についての情報提供を行っている。又、社保国保審査委員連絡会年2回開催による審査基準の統一、審査委員候補者推薦委員会による当会主導での審査委員交代の円滑化をはかっている。

#### (目の愛護デー行事)

10月10日の「目の愛護デー」に目の健康相談を行うようになったのは昭和63年である。はじめは東武宇都宮百貨店で開催していたが、平成6年より会場を宇都宮市保健センターに移し、健康相談のほか健康講座も開催するようになった。健康相談には4~5名の会員に交代で出務いただき、健

康講座には毎年テーマを決めて両大学の教授、助教授、講師の先生方に交代で講演いただいている。大変好評で、相談者、受講者とも年々増加の傾向で、併せて200名を越える年もある。各メーカーから熱心なご協力をいただいております、感謝している。

#### (栃木県アイバンク)

ライオンズクラブの音頭で昭和51年に発足した。当初は低調であったが、最近では年々業績が上昇しており、全国でも上位にランクされるようになった。理事として眼科から両大学の教授と当会会長が運営に参加している。

#### (その他の活動)

学校保健部では眼科学校健診のあり方の見直し、学校保健委員会出席、養護教諭指導など眼科学校医としての業務の再認識が重要なテーマで、最近ではコンタクトレンズ使用者の低年齢化への対応、健康相談としての色覚検査への取り組み、などに力を入れている。

医療対策部の主な責務はコンタクトレンズ量販店と付属する診療所への対策で、当県では昭和58年以来、重要課題となっている。

親睦行事としては、昭和49年からゴルフコンペが年2回行われており、間もなく60回を迎える。麻雀大金は昭和56年からはじまり年1回行っていたが22回目の平成13年を以て中断している。その他、春の集談会後の懇親会、忘年会など勤務医会員を交えての親睦行事を開催している。

勤務医部では、勤務医の抱える諸問題に適切に対応することにより、勤務医会員が眼科医会に積極的に参加できる環境づくりを目指している。

(前会長 早津尚夫 記)



## 眼科医会入会の頃の思い出

元理事 原 博 (大田原市)

#### 「当時の眼科医会」

今回栃木県眼科医会創立50周年記念として、何か眼科医会の黎明期の思い出を書くように依頼されましたが、もう半世紀も前の古い話です。記憶違いがあるかもしれませんが、予めお詫び致します。私が昭和28年、眼科教室を終わって、宇都宮の父や兄の開業している病院に帰って来た頃は、市内は戦災の焼跡から立ち上がろうと復興に励んでいた頃でした。

市内で開業しておられた先生方は、稲葉六郎先生、稲葉治三郎先生、稲葉良康先生、宮下幸一先生、浜田徹治先生、福田忠作先生、と原眼科の私の父、原圭三、兄の原蕃位でした。眼科医会などまだなく、時々眼科の先生方の集まりが「うなぎの中村屋」で開かれていました。医療の難しい話や症例発表はなく、稲葉六郎先生の楽しい司会で、最近身近に起きた事や、趣味の事等、食事をしながら気楽に話し合う会で、当時一番若僧の私もこの会に出席するのがとても楽しみでした。和気藹々の会合は、とにかく諸先輩から話を聞き医師になりたての私には、得ることが多い集まりでした。今その私が82才になって、当時の思い出話を書くようになったかと思うと時の流れの速さを感じずには居られません。その後栃木県眼科医会が設立されて、初代会長に稲葉六郎先生が就任されました。

#### 「大田原市に開業してから」

私は昭和33年4月に大田原市に開業しました。当時の様子を蛇足ながら一寸書いてみたいと思います。大学では眼内疾患の研究が大半を占めてい

ましたが、開業してみると、白内障、緑内障もありましたが、それは少数派で、実際はトラホームや他の結膜炎の治療に多くの時間を費やしました。小中学校の検診では10%以上の罹患率があり、一般社会でも蔓延しており前眼部の違和感や眼精疲労の大きな原因となっていました。今では非常に激減し若い先生方はトラホームの初感染の患者さんを診る機会は少ないのではないかと思います。トラホームの初期の治療は、眼瞼を翻転しほう酸水で洗眼しますが、それだけでも症状は楽になります。当時の眼科医は洗眼をするのが一般的な処置で、多数の患者さんの洗眼に時間をついやしました。又トラホームの手術は、今考えると、随分荒っぽいやり方で、コカイン点及び上下眼瞼にノボカインを1cc程度注射した後、カワハギと云う多分「河豚科」の魚の非常にざらざらした外皮をピンセット様のホルダーに挟んで、トラホームの顆粒を削り取るのですが、相当の出血がありました。術後4・5日で眼瞼の腫れがとれて異物感がなくなります。荒っぽい手術のわりには患者さんに感謝されました。このトラホームの手術を時には一日に十数例もすることがありました。只この病気は仲々完治が難しく、高齢になりますとトラホームパンプスを起こし、重篤なる視力障害となり、社会問題になっていました。

10年一昔と云いますが、50年は確かに古い昔となりその当時の眼科医会の事も空覚えとなり、今は亡き先生方の懐かしい顔を思い出すのみとなりました。ただただ感無量で居ります。



## 眼科医会入会の思い出

顧問 田口太郎 (宇都宮市)

昭和41年足利銀行本店が現在の櫻通りに移転いたしました。時を同じくして櫻通りを挟んで足銀と向かいあった馬上ビル（現在は影も形もありません）の二階で、耳鼻科の玉川先生の隣部屋に田口眼科はオープンいたしました。

当時は国立栃木病院の先生が、退職、開業された方が割合多い時でもあり、私もその波に乗ったようです。巷間では3Cと言う言葉が口にされ、即ち.Car.Cooler.ColourTV.が羨望的であり、国家公務員の安月給では到底手が届かない高嶺の花のものばかりの時代でした。

開業するにあたっては、原 蕃先生に開業医の在り方等々種々御指導、御教示いただいたことが有難く懐かしく思い出されます。

昭和40年版の栃木県医師会会員名簿を調べてみますと

- 栃木県眼科医会会長 稲葉 六郎 先生  
(稲葉光治先生ご尊父)
- 栃木県医師会常任理事 三田 政夫 先生  
(黒羽町)
- 鈴木常千代 先生  
(鈴木 光先生ご尊父)
- (小山市)
- 社保診査委員 井上 太 先生  
(井上成紀先生ご尊父)
- (大田原市)
- 国保審査委員 石川 俊郎 先生  
(栃木市)

お世話になった先生方のお名前が掲載されてますが、只今は若先生の時代となり、私も開業当時の思い出等、すっかり忘れてしまうような年寄りである事を痛感いたしております。

勤務医時代には、暇なときにはキャッチボール等をしていた関係で、宇都宮市医師会野球部に入部しました。当時は、休日の午後に森病院のグラウンドで練習したり、問屋さんのチームと試合をしたり、時には、三共製薬の女子チームの三共レッドソックスと親善試合等々楽しいものでしたが、メインは北関東四県都（宇都宮 浦和 前橋 水戸）医師会の対抗試合でした。

ゴルフと縁を持ったのは非常に不純な動機からで、昭和44年のオープンに先立って那須小川ゴルフ倶楽部から会員募集の勧誘がありました。勿論断りましたが、『先生は鮎がお好きですか？美味しい鮎が召し上がれますヨ』の一言でクラブを握ったことのない人間が毎月一万円の長期月賦でゴルフ場のメンバーというものになりました。

さて、いよいよゴルフですが、お亡くなりになった小林千里先生にゴルフ場でのマナーその他、イロハのイの字からすべて教えていただき、親切な心強い先輩のお供でコースをまわり、併せて眼科医会の状況なども伺うことが出来ました。

小林先生と大洗カントリーに御一緒した時、もう一人のパートナーが稲葉六郎先生でした。小林先生曰く『いいか、稲葉先生は稲葉公爵といわれるお方だぞ！公爵様のお言葉に逆らってはいけない』『……？』稲葉先生は各ホール毎にボールの落とし場所、攻め方を懇切丁寧にお話になり、御自身その通りのショットで、ビギナーの私は驚きの連続でした。帰途の車中で『公爵は講釈で、よく講釈して教えて下さるから』とのことでした。

以上、多くの先輩諸先生方に公私共々御指導、御厚誼を頂き、大変お世話様になったことを感謝しながら思い出しております。



## 栃木県眼科医会と私

監事 早津尚夫 (宇都宮市)

栃眼医50年、このうち私が関わらせていただいたのはあとの方の35年である。この35年をふり返ってみたい。

### 栃眼医入会の頃

昭和41年秋、私は新潟大学を辞し、国立栃木病院に赴任した。当時の院長鎌田竹次郎氏にお会いして驚いたのは、かつて私が医師国家試験の口答試問を受けた時の外科の試験官であった。東北弁で重々しく語る風格ある大人物であった。

その鎌田院長は「医長をもらうのにこんなに苦労したのは初めてだった」と新潟大学にお百度を踏んだ話を披露され、私の着任を喜んで下さった。当時は眼科医が極端に不足し、金の卵に近かった。

国立病院は給料が安いから、と院長おん自らアルバイトの紹介までして下さった。国家公務員アルバイト厳禁の現在からすると嘘みたいなき時代であった。鎌田院長が引き合わせて下さったのは同じロータリー仲間の稲葉六郎氏で、稲葉眼科病院は院長の女婿（良康氏 新潟医大卒）が急逝され、困っておられるからアルバイト先に丁度よい、と話をつけて下さり、週2回午後出かけるようになった。

これが、栃木県眼科医会創立以来の会長稲葉六郎先生との出会いで、私が眼科医会と関わるきっかけともなった。稲葉流の無駄のない手ぎわよい手術、能率的な診療と医業経営技術を学び、後年開業の際大いに役立ったのであるが、稲葉先生の恩義に少しでも報いようと眼科医会の仕事も手伝うようになった。

昭和43年理事になった。同じ頃理事になられたのが国立栃木病院の私の前任田口太郎先生と新潟大の先輩の御子息である柏瀬宗弘先生である。

はじめは、室本亀吉先生のと學術を担当していたが、昭和45年開業後はその頃理事になられた

原孜先生にバトンタッチし、私は庶務（後の総務）担当となった。庶務というのはほとんど会長の片腕で、いつの間にか会務全般に詳しくなっていた。

当時の副会長の吉沢清先生に初めてお会いしたのは、先生が何かの用で稲葉眼科病院に顔を出された時であったかも知れない。吉沢先生は亡兄長平先生も新潟大出身で、眼科に在局しておられたことやご自身も旧制新潟高等学校の卒業生であることを話され、以来恰も後輩に接する如く懇意にしていた。

昭和46年と55年の関プロ学会は2回とも稲葉会長の大好きな那須での開催となったが、実務を担当したのは吉沢先生と私とのコンビであった。

### 日眼医理事就任

昭和55年私は稲葉会長の推挙により日眼医理事に就任した。当時は、その年と翌年の関プロ学会開催県から理事が出るようになっていて、もうお一人は山梨の佐々木芳岡氏であった。私は当時45才で最年少、文字通り理事会の末席を汚す身であった。当時の会長は須田経宇氏で、副会長に日眼医随一の切れ者といわれた新潟大の先輩上野穎一氏がおられ、いろいろ懇切なご指導をいただいた。当時常任理事に佐野充、有沢武、長屋幸郎、上岡輝方氏ら、後年会長や会長代行をやられる優秀な方々がおられた。

まだ東北新幹線が開通する前で、診療を休んで上京しなければならないのは辛かったが、今に思えば貴重な経験ができた2年間であった。

中央に出て痛感したのは当県の立ち遅れで、様々な改革を進めるきっかけとなった。私の提案を稲葉会長はすべて採択して下さい、ありがたかった。手はじめは、理事会運営の近代化、理事会だより発刊、栃木県眼科集談会発足、OMA講習会の関

プロ各県共催開講、などであった。

事業部を日眼医のそれと同じ構成とし、理事会開催を定例化したことは会の活性化をもたらしたし、会務の記録が残っていることは時を経た今、貴重なものとなっている。集談会発足にあたっては自治、獨協両医大の協力、特に小暮文雄教授のご指導ご支援を忘れることができない。先生は眼科医会の重要性を誰よりもよく理解しておられ、医局員にも指導された。24時間体制の救急医療をお引き受け下さり、又、アイバンク活動も先生のおかげで飛躍的に業務向上した。

### 吉沢会長時代のこと

昭和59年、稲葉会長、鈴木常千代副会長が勇退され、吉沢副会長が2代目会長に就任、柏瀬先生と私が副会長として補佐することとなった。日眼医代議員、総務常任委員も吉沢先生から引き継ぎ、事務局も稲葉眼科医院から私の所に移動した。

代議員は、中央の情勢を支部に伝え、支部の施策に生かす重要且つやり甲斐のある仕事であった。

吉沢会長時代にもいろいろのことがあった。会長を補佐した5年間に思い出として残っていることは、県外C L量販店が県内に進出しはじめ、対外交渉に苦労したこと、保険関係で某C L診療所の医師不在日の初診料算定問題、点眼薬の投与本数、屈折、矯正視力併施査定問題などで会長と共に支払基金に出向き眼科の立場を主張したこと、日本眼科医連盟発足や有沢会長の「攻めの医療」提唱に呼応して「検眼重点診療の日」や談話会、「目の愛護デー」行事を始めたこと、関東眼科学会、日韓ジョイントミーティングとドッキングして関東甲信越眼科学会を開催したこと、学会開催を機に会報を発刊したこと、などである。

### 会長としての14年

平成元年、吉沢会長勇退のあとを受け、会長に就任した。私自身としては補佐役が向いており、リーダーの資質に欠けると自認していたが、それでも役員各位のご協力と会員皆様のご支援のおか

げで、7期14年という長期間、何とか大任を果たすことができた。

14年間のうち、最大のイベントは平成7年臨床眼科学会を開催し、小暮会長のもとで世話人をつとめたこと、そして平成10年関東甲信越眼科学会を主催したこと、である。その他、自治医大主催の眼科手術学会（H2）、弱視斜視学会（H4）、獨協医大主催の眼内レンズ学会（H5）などの全国規模の学会を支援し、懇親会を共催した。WHO西太平洋地域失明予防ワークショップ（H5）での英語でのスピーチも思い出深い。

会長在任中に3回の教授交代があった。獨協医大 H2（関→小暮）、H8（小暮→小原）、自治医大 H10（清水→水流）。

日眼医関係では、会長をやりながら日眼医代議員（H6まで）眼科医療従事者委員（H4～6、H8～10）、OMA資格化検討委員長（H4）、2度目となる日眼医理事（H6）などをつとめた。

栃眼医会則制定（H1）、3才児眼科健診導入（H3）、目の健康講座開催（H6）保険診療講習会開催（H9）、糖尿病診療情報提供書作成（H12）、眼科医療従事者講習会開催（H11～）、栃木県社保国保審査委員連絡会開催（H11～）、学校現場におけるC L実態調査実施（H13）、なども忘れられない思い出である。

### 終わりに

30余年栃眼医に関わって来て思うことは、眼科医会の仕事の量が20—30年前に比べ確実に増えて来ていることである。会が活発になったと喜ぶこともできるが、それだけ眼科医療をとりまく環境が悪化して来たためともいえる。仕事が少なかった昔のんびりした時代が懐かしいとも思う。

ともかくこれからの時代、眼科医会はますます重要になって行くであろう。40—50才代の柔軟な対応のできる有能な方々に今後の眼科医会を委ねたい。勤務医の先生方も、目先の診療や研究も勿論大切であるが、眼科の将来のためにもっと医療、医政に関心を深めていただきたいと思います。



## 栃眼医入会から

顧問 柏瀬 宗弘（足利市）

昭和43年10月父業継承のため足利へ帰って来た。早速、眼科医会に入会すべく当時会長であった稲葉六郎先生の所へ挨拶に出掛けた。

当時先生はサンダーバードと云う外車に乗っておられ、それに同乗させて頂き、国立栃木病院に勤務していた早津先生を紹介して下さいました。当時栃眼医の総会は県庁の西側の福祉会館（そこに県医師会があった）の講堂で行われていた。保険診療の話は仲々活発に論議された。当時の審査委員で社保は鈴木（小山市）、三田（黒羽町）、井上（大田原市）、国保は石川（栃木市）の各先生方がおやりになっていた。足利から宇都宮に車で行くには、佐野→栃木市から現獨協医大前の栃木街道を通って行った。これが仲々大変で道は狭く曲がっており、冬の夜等は道路が凍結しひやひやし乍ら帰って来た。

昭和47年11月に佐野から鹿沼迄の東北自動車道が完成したので、大分楽になった。私の家から県庁迄、旧道で行くと約50K、東北道だと65Kである。

昭和48年から国保の審査委員を拝命、なにしろ眼科は私一人なので、その審査のコツ等教えて頂くため栃木市の石川先生の所へ何度となく足をはこんだ。審査会場は今と同じく栃木会館で行われていたが、駐車場がないには困った。

国保審査委員は県知事の委嘱なので県庁内駐車場に車をおいたが見つかってしまった。県知事の依頼で来ている旨、話したが、それは不可とのことで追い出されてしまった。午前中の診療を大急ぎで終え、午後の審査に間に合う様、自分で運転し乍ら昼食代わりにノリを巻いた餅を食べ、通ったこともあった。宇都宮に着くと今度は駐車場さがし、県庁の東側に県営の駐車場があったが長蛇の列、往復の時間と駐車場さがしで、かなりの時間を要した。当然の事乍ら、審査は会員のためにと云うことなので、又眼科の審査委員は私一人な

ので、余程の事が無い限り、査定などしなかったし不審なことがあれば直接電話してお尋ねしたりして解決した。8年間足利から通ったので宇都宮市内も大分明るくなった。そんな関係からか栃眼医では保険担当理事も勤めさせて頂いた。昨年4月で副会長を18年間、又、本年3月で日眼医代議員も同じく18年間勤めた。日眼医代議員会の会場も昭和50年頃は東京駅のステーション・ホテルで行われ、小石川後楽園近くの労働福祉会館、日本青年館、更に現在のケイオープラザホテルへと会員増に伴い会場も変わって行った。会場の定員数の関係から支部会員数÷全会員×100で代議員数が算出される様になったが、平成16年4月から当県は小差で2名だったのが1名になり、隣県の群馬県は1名が2名になった、一寸寂しい感がする。関プロ連絡協議会は親睦と保険の話がメインであったので、担当理事として家内と子供連れで何回となく参加した。又、日眼医の会長選は今回（平成16年4月）も選挙戦になるが日本青年館で行われた選挙で代議員数110で、投票結果55対55となったがその中に白票が1票あり、会長が決まったと云うことがあった。あの時の会場の興奮は今だに忘れられない。

現在は栃眼医の顧問と云う立場になったが出来得る限り出席して少しでも栃眼医のためにお役に立てればと思っている。





## 栃木県眼科医会と私

元理事 原 孜 (宇都宮市)

私は父の急病で大学院の4年目に行ったロンドンでの留学を10ヶ月で切り上げて急遽帰国し、そのまま家業を継ぎました。それまでの臨床経験というと、白内障手術は手術顕微鏡なしの全摘だけが25件、緑内障はシェイエが数例、網膜剥離の手術も手がけたことはないという状態でしたので、それからの生活はもう無我夢中でした。臨床経験がある程度ついた頃にピトレクトミーや眼内レンズという新しい波が上がり始め、私もそれに乗ると共に、次第に研究も始めるようになりました。水晶体前囊の1.5mmの小孔から白内障をbi-manualで除去し、空になった水晶体嚢内を弾力性のある物質で充填し調節力のある眼を維持する方法は、林(文彦)先生、西先生、属先生、名城大学薬学部の岩田教授、神戸大工学部の中前教授、コンタクトレンズのメニコンなどとプロジェクトチームを作り、また、これとは別に既存の材料で作る調節性スプリング眼内レンズや嚢内リングなどに関する兎や猿の動物実験も、多くの人々の好意で、北九州の産業医大、大阪の西眼科、名古屋のメニコン、金沢医大、京都大、そして最後は奈良医大で行いました。昼は診療、夜は実験レポートの整理、金曜日の診察が終わると東京または目的地近くまで行って一泊、土曜日に実験をして土曜日の夜中か日曜日に帰るといった生活を繰り返してきました。この他、未経験の病院経営に関しても多くの試行錯誤がありました。また、私の留学中宇都宮の実家で診療を頑張った家内のたか子も、4人の子育てが一段落したところで母教室の東京医大で博士号研究としての視野の研究を始めました。最初はまだ東北新幹線のなかった時代で、週に一度でしたが、同居している両親に4人の子供の面倒を見てもらいながら、朝の6時に出て夜の11時に帰ってくるという生活が5年間続きました。長男の高校入学が決まった年に博士号の仕事も終わ

り、これからと思っていた数年後から全身の関節リュウマチになり、以後現在まで頸部関節、股関節をはじめ全身にわたり6回の手術を受け、結果として我々二人の眼科医会との関わり合いは最初から現在までずっと希薄であったということを誠に申し訳なく思います。

栃木県では、他の県でしばしば見られる眼科医会と大学病院との確執などは全く無く、これは一重に最初から獨協医大の関教授、その後の小暮教授、小原教授、自治医大の清水教授とその後の水流教授等の方々と、稲葉(六郎)、吉沢(清)、早津(尚夫)、稲葉(光治)先生ら歴代会長の見識とお人柄によるものです。

眼科医会との関わり合いは希薄な私でしたが、会では長い間、当時済生会の大久保(彰)先生等と共に学術係を務めました。その間、係としていくつか印象に残るものを述べます。

### 1. 栃木県眼科集談会の前駆活動

開業生活を始めて間もなく県内の若手の先生方(当時は皆若かった)に声を掛け、会費制で私の所で勉強会を行うことにしました。招いた講師の中で、自治医大の嶋田助教授、まだ助手だった東大の増田先生の話などは抜群で、目から鱗がたくさん落ちました。そのうち、本県においても眼科集談会が行われる機運が熟し、私の所の会も栃木県眼科集談会の発足と共に発展的に解消することにして、そのとき残った会の余剰金は集談会の費用にと寄付しました。

### 2. 集談会の基本方針の設定

集談会を始めるにあたって学術担当として考えたことは、この地方の小さい集談会を、いかに存在価値のあるいきいきとしたものにし続けるかということでした。演者は大学ばかりで、開業の人々

は自分たちにとってはあまり関係のない話を黙々と聞くだけ、というのが大多数の県単位の集談会の実情でした。そこで、自治医大の大原助教授や獨協医大の鈴木(隆次郎)助教授と話し合い、大学関係の若い人の発表に対しては全てにわたって両大学とも遠慮なく厳しく対応すること、また、開業医の演題に関しては話題提供というレベルで考えていただき、あまり厳しく言わず、とにかく演題を出すことに意義を見出す、というようにしました。演題数は原則として2つの大学と公的病院及び開業医でそれぞれ3:3:2としました。開業医からの演題は常時、自然に、というわけには参りませんでしたが、事前に電話で直接お願いしたりして、会員全体の会である雰囲気を保つよう心がけました。

### 3. 栃眼医研究会

また、集談会以外にも不定期に行われる学術集会をきちんとした形あるものにしようと、栃眼医研究会という名称を考え、専門医制度の認定を受けられるようにしたのも私の担当の時でした。

### 4. ワインを飲みながらの勉強会

私は医者にとって学問するということは特別なことでなく日常ごく当たり前のことであると考えています。日常のことですから、学問の本を読むのもトイレで週刊誌を読むのと同じように勉強も気軽にした方がよいと思っています。そこで、年に1回、眼科研究会の時にワイン業者を呼んで、演者も、聞く方も、業者の提供する様々なワインを飲みながら講演や討論を行い、気に入ったものは会の終了時に業者に申し込む、という試みを実施し、それなりに愛好者も多かったのですが、「学問をするのに不謹慎だ」という意見も出されたことで、結局数年で中止となったのは残念でした。

### 5. 宇都宮市医師会講堂に2面のスライドとVTR装置を設置してもらう

ずっと以前から学会で2面同時スライドとVTRを駆使するのは他科では見られない眼科の学会の

特色です。そこで、私が学術係をしている時に県の医師会に交渉して、宇都宮医師会講堂に2面のスライドとVTR装置を設備していただきました。最初の頃はよくブレーカーが落ちましたが、その後、済生会病院や両大学で会が行われるようになり、便利になりました。

### 6. 健保研究会の設置

会員が保険診療をしていく上で、一定の割合で、他人による査定や返戻を受けるのは避けられませんが、本県では早津会長の英断により社保、国保の審査員は開業順に交代で(原則として2期)勤めるということになっています。これにより多くの会員が審査員を経験し、その実情を理解するようになりました。それでも生じる審査員と一般会員との意味のない対立を避けるために、年2回の集談会の後に会員と審査員の人々が残って健保診療請求に関するQ&Aを行う会を設置しました。発足当時から現在においても本県独自のユニークな会合だと思っていますが・・・。

これらの事柄は私の発案によるものですが、全て会長、主に早津会長の理解と快諾と後押しにより実現したものです。

一方、最初から学会の数が多くなりつつあるのには反対でした。特に近年懇親会的性格が強くなっている関プロ講習会の存続には反対でしたが、未だに存続しているのを見ると、これを支持する人が多いことが窺われます。

以上のように、眼科医会に関して私も幾ばくかの努力はしましたが、稲葉(六郎)先生、吉沢(清)先生、早津(尚夫)先生などの歴代会長、長い間副会長として会長を支えてきた田口先生や柏瀬(宗弘)先生、会計、庶務などの重役を果たされた宮下先生、加藤先生、小暮(正子)先生、会報担当の鈴木(隆次郎、光)先生、およびその他の各部担当の先生方の非常なるご尽力には及びもつかないものです。50周年の区切りに際し、改めて深く感謝いたします。これから先、新しい稲葉光治会長のもと、ますます会が発展するよう若い世代の諸先生の御活躍を期待しております。

## 眼科医会入会当時の思い出

会長 稲葉 光 治 (宇都宮市)

父が70歳近くになり、父を助け、共に働いていた兄嫁、稲葉良康の急逝もあり（新潟大、医局東大眼科）昭和46年に大学医局生活を終え、祖父、父の開業する宇都宮に戻り、開業医として第一歩を踏み出しました。開業と云いまして、祖父、治三郎は、明治40年に開業（当時は既に引退しておりましたが）経営面はまだやる気十分の父任せで、勤務医の延長の様な気分でした。

昭和49年、自治医科大学病院、獨協医科大学病院が相次いで診療開始、同じ様な時に医学部2大学が出来るとの事で、地元医師会の反対の声もありましたが、その後の栃木県の医療水準が目覚ましいアップに繋がったと思います。宇都宮に帰った当時は、若さに任せ、白内障、緑内障、全麻による先天性白内障、幼児斜視、網膜剥離、眼外傷、眼内鉄片異物、皮膚弁移植による義眼のsocket reconstruction 瞼縁口唇粘膜移植による睫毛乱生の手術などをやっておりました。今では、外傷救急、重症症例など大学の先生方にすっかりお世話になり、大いにストレスが減り、感謝しております。特に最近の硝子体手術の進歩、網膜剥離の治癒率の向上は、まさに隔世の感があります。

白内障手術は、昭和38年に入局して10ヶ月程で、第一例を経験させて頂きましたが、結膜弁をつけたグレーフェ氏刀による強角膜切開、前囊鑷子による前囊の除去、核娩出、皮質洗浄、無縫合で術終了と云うものでした。その後、昭和40年前後から、クライオによる水晶体全摘出、角膜縫合が一般的となり、手術顕微鏡が導入されました。開業してから、超音波乳化吸引術が開発され、その習得に苦労しましたが、これが、現在の小切開手術の基礎となりました。1745年J.Davielに始まる水晶体の眼外への摘出術と略、同様の手術から、現在のPEA,IOL手術まで経験出来たのは、私たちの年代が最後となるでしょう。

開業医の診療形態も昭和40年頃から、洗眼を主にした外来から、視力、細隙灯、眼底検査など徐々に現在の姿に変化して来ました。洗眼については、当時は、患者さんが納得せず、検査を主体とした診療が定着するまでには時間を要しました。

栃木県眼科医会の活動の歴史を見ますと、昭和10年前後にも眼科医の集会は在ったようですが、不定期に集まって会食をする程度のものであったようです。その後、当時、休診日は元日、お盆だけの時代に、月2回、1日、15日の一律休診日を決めたとあります。私が宇都宮に帰った45年前後でも、元日休診、2日、3日は午前中診療でした。社会情勢の変化とはいえ、現在は、正月、5月の連休、お盆休みなどを含めると、2日働いて、1日休みに近い状態です。

高度経済成長期には、先輩方の努力で、基金で発表される統計で栃木県が眼科平均点数全国1の月が何度かあったと聞いております。これには、日本眼科医会と学会との連繋が功を奏したとあります。

学術関係では、栃眼医総会の時、眼科講習会として、各大学の先生方をお招きして、講演をして頂いて居りましたが、昭和53年獨協医大眼科講演会（昭和56年獨協医大眼科栃眼医合同講演会と改称）の年一度の開催、獨協医大小暮教授、早津先生のお力で栃眼医眼科集談会の年2回の開催となりました。これで、現在の学術集会の基礎が出来ました。

親睦会では、昭和49年第1回栃眼医親睦ゴルフコンペが開催され、ゴルフ好きな父と参加しました。今年4月25日開催の同コンペは、第60回となり、時の経つ速さを実感しました。目が洗われるような美しい新緑の中、皆さんと楽しいひと時、これ以上の親睦の場はないでしょう。

今後、眼科医会は、同業者の親睦、利益団体に

留まらず、社会的活動を通じて（目の愛護デー目の相談会、市民目の健康講座はその一例ですが）地域社会に我々の存在、眼科医療の重要性をアピ

ールし、会員の倫理観の向上、自己研鑽に努め、社会の求めに応えなくてはと思います。



### 眼力

**禁忌**（次の患者には投与しないこと）  
脳出血直後等の新鮮出血時の患者〔血管拡張作用により出血を助長するおそれがある。〕

■**効能・効果**  
 ●下記疾患における末梢循環障害の改善  
 高血圧症、メニエール症候群、閉塞性血栓性血管炎（ビュルガー病）  
 ●下記症状の改善  
 更年期障害、網脈絡膜の循環障害

■**用法・用量**  
 ●**カルナクリン錠25・カルナクリンカプセル25**  
 通常成人1回1～2錠（カプセル）、1日3回経口投与する。  
 なお、年齢、症状により適宜増減する。  
 ●**カルナクリン錠50**  
 通常成人1回1錠、1日3回経口投与する。  
 なお、年齢、症状により適宜増減する。  
 再評価結果の用法・用量は次のとおりである。  
 カリジゲナーゼとして、通常成人1日30～150単位を1日3回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

■**使用上の注意**  
 ●**相互作用**  
**併用注意**（併用に注意すること）

| 薬剤名等            | 臨床症状・措置方法                       | 機序・危険因子  |
|-----------------|---------------------------------|--|
| アンジオテンシン変換酵素阻害剤 | 本剤との併用により過度の血圧低下が引き起こされる可能性がある。 | 本剤のキニン産生作用とアンジオテンシン変換酵素阻害剤のキニン分解抑制作用により、血中キニン濃度が増大し、血管平滑筋弛緩が増強される可能性がある。 |

\*その他の使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

循環障害改善剤

**カルナクリン**® 錠25 錠50 カプセル25

（カリジノゲナーゼ製剤） **CARNACULIN**®

●指定医薬品

資料請求先  
**株式会社 三和化学研究所**  
 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631  
 TEL(052)951-8130 FAX(052)950-1305  
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

2001年10月作成



## 栃木県眼科医会の思い出

獨協医大名誉教授 関 亮

私は獨協医大創立の昭和48年から定年退職の平成2年まで、17年間栃木県眼科医会に入会させて頂いた。

眼科学教室は創立当時から、臨床の先発講座4つの中で、唯一の外科系講座であった。第1期生が入学して講義を受けるのは教養の科目だけだが、医科大学と名が付いた以上、基礎医学と臨床医学の講座が全くなくては格好が付かぬという事で、基礎と臨床各4講座が先発として開設され、他の臨床講座は翌年付属病院が開院する時に開設されたのである。

最初教室は私と野中杏一郎助教授の2人だけだったが、眼科医会では快く且つ温かく迎えて下さった。県医師会の獨協医大創設反対運動など、どこ吹く風であった。初めは私や野中君の講演が主であったが、そのうち本性を現わし、遊び、特に麻雀が主となってしまった。

私が東京医大から獨協医大に赴任する際、賑やかな新宿から、ネオンサインが1つもない壬生町に行くのだからと、野中君のほか、横井俊明君と

森山知英郎君を講師として連れて行った。両君が獨協高校出身だからというのは表向きの理由で、4人いなければ麻雀が出来ないからである。開院時、眼科のベット数は2つだけであったからヒマでしようがない。診療は午前中に済ませ、午後は車で栃木県中を見物やグルメをして廻り、夜は専ら麻雀で過ごした。栃木名物の雷雨で停電した時は、車の中の非常用懐中電灯を持出し、これを雀卓の上に吊して試合を続行したのも、なつかしい思い出である。

こんな事が眼科医会に伝わらない筈はない。眼科医会の中にも、雀鬼や雀豪が沢山いたのだからたまらない。何かと理由をつけては卓を囲んだ。これで医会と教室が融合されたといっても過言ではない。最後の親の私が10何回も連チャンして、逆転優勝した事は、未だに忘れられない。

平成2年に退会して東京に帰る時、これで私の雀歴は終ると思った。事実そうなってしまった。今は心の中に、さびしい風が吹くばかりである。



## 眼科医会入会の頃の思い出

元自治医大助教授 嶋田 孝吉

1973年の春、アメリカ東海岸のバルチモアにあるジョンス・ホプキンス大学で、シルバースタイン教授のもとに、眼免疫の研究中、故清水教授より、74年4月から、自治医大病院が開院になるので来ないかとの手紙を受け取りました。丁度、その年一杯で帰国するつもりで、東大の三島先生に就職をおねがいしてあり、先生の口添えでもあり、小山市には父母も住んでおりましたので、どんな大学かも全く分かりませんでした。急ぎ仕事を仕上げ、喜び勇んで11月に帰国しました。ところが、病院は建物だけで、中味がからっぽ、驚きました。それからは、ほとんど一人で、搬入される機械や器具の点検に明け暮れし、4月の開院に間に合いました。眼科医会には、この4月から入れていただいたものと思います。当時、栃木の医療事情などは皆目分からず、その時、医会の会長でした現会長稲葉先生の父上や副会長でした故吉沢先生に、いろいろと教えていただきました。栃木県には、大きな総合病院が少なかったこともあり、獨協医大もほとんど同時に出来た割には医会の先生方のご協力もあり、予想以上に患者さんにも来ていただき、充実した診療と大学の教育も始められました。数年して、医局員も増え、医療や教育にも余裕ができ、医会の集談会や講演会などで、かなりの協力出来るようになりましたが、大学の開催した研究会や学会では、医会の先生方には大変なご援助とご協力をいただきました。医会の

ご要望で、栃木県ロータリークラブの方々が角膜バンクを作るのを手伝ったのも、その頃だったと思います。

個人的には、当時、医会の集談会やゴルフの会などに参加させていただき、楽しく診療もしておりましたが、期待していた研究の方は、研究員や補助員が全く集まらず、自治医大での研究は諦め、東京の駒込にある都立臨床研でさせていただいておりました。毎日が大変に忙しく、家族にも迷惑をかけ、その上身体をこわしてしまい、大学を10年足らずで退職し、東京に眼科を開院しましたが、自治医大では、非常勤として、ベテネット病患者をみたり、授業を受持ったりしておりました。家内は、75年でしたか、土地の方々の要望で、間々田に眼科を開院しました。そのときには、副会長でした故吉沢先生に、開業の秘訣などを教わりましたし、大変にお世話になりました。お陰様で今日まで（私も手伝っておりますが）引続いており、準会員として、医会にも入れていただいております。最近、医療制度が度々変わり、分からない点が多く、その都度、医会の先生方には、いろいろと教えていただき、感謝しております。

医会が出来て50年、自治医大病院は30年、私は開業して20年、全く早いものです。医会のご発展を祈ります。

尚、写真は当時のものです。今のはみじめで出せません。ご容赦下さい。



## 17年の栃木県眼科医会 会員としての想出

獨協医大名誉教授 小 暮 文 雄

私が獨協医科大学に赴任したのは、昭和53年8月です。以来平成8年3月まで17年余栃木県眼科医会（以下栃眼）の会員として御世話になりました。振り返ってみると、この17年間は私の生涯において、最も充実した歳月でした。

この17年間の想出を綴ってみることにします。

### 「病診連携について」

私が赴任したときは、関教授以下数人の医局員で、病棟も全部開棟してはなく、外来患者も少なく暇な時代でした。

私の父は開業しながら週3回順天堂に永年勤務しており、私は、開業医生活と、勤務医としての父の後姿をみて育ちましたので、両方の立場を理解していました。世の中では病診連携という言葉は未だ使われていませんでした。しかし私は地域の開業医と大学との関係が密でなければ、大学の臨床教育はなりたらず、また真の地域医療はあり得ないと思っていました。赴任第1にしたことは、参天のMRに案内してもらい県内の先生のところへ挨拶廻り、教室への御協力をお願いしたことです。

### 「当直の完全実施、24時間救急体勢の確立」

当時は未だ教室員の数少なく、完全当直はなく、自宅待機でなんとか凌いでおりました。昭和54年4月に待望の第1期生が卒業、石崎、城山、千葉の3君が入局してきました。数週の研修の後完全当直制、24時間救急体勢をなんとか整えることができました。県内諸先生より時間外患者を紹介していただき、新人の研修の実績を上げることができました。

### 「栃木県アイバンク」

着任時、県にはすでに栃木県アイバンクが設立さ

れていましたが、その活動はようやく緒についたばかりでした。この活動にも積極的に参加することにしました。県内は及ばず県外にも積極的に眼球をいただきに行きました。前助教授野中杏一郎先生が長野県で熱心にアイバンク活動を行っておられ、余った眼球を回して下さったので、24時間体勢で千葉君に、その体力を生かし取りに行ってもらいました。県内の提供も次第に増えました。最初の頃は、自分の車で取りに行ってもらいました。途中で事故が起こったことを考え、県アイバンクよりタクシー代を出していただけるようになり、安心して眼球を取りに行ってもらえるようになりました。現在では、角膜移植の実が上がり、全国でも十指に入る実績をあげるようになりました。

### 「集談会、その他の勉強会」

獨協眼科の宣伝もかねて、獨協医大眼科講演会を企画し、国内の権威に来ていただきました。その後、この会は獨協眼科栃眼合同講演会へと発展しました。

また、栃木県眼科集談会を、栃眼、自治医大眼科と協力して立ち上げました。先行して発足した自治医大眼科は、良きライバルであり私達は何とかして、その遅れを取り戻すため必死でした。

県内に獨協、自治の2つの眼科があることは、栃木の眼科の進歩に大変役に立ったことだと思います。

製薬会社の後援で始まった下野眼科談話会も年々盛大になりました。これらは稲葉、早津両会長の絶大なる御協力なしには出来なかったものと感謝しています。

### 「いくつかの学会」

何とかして獨協眼科、栃眼の存在、実力を国内に

PRしようと、研究会、学会を引きうけて、成功させることができました。

白内障研究会は、大谷地下採掘場跡での懇親会が大変好評でした。

日本眼科手術学会、日本白内障学会、日本眼内レンズ学会、日本臨床眼科学会も、全部地元の宇都宮で開催しました。栃眼の協力をいただきながら県外で学会を主催するということは、私の信条として、有り得ぬことでした。いづれもお陰様で成功裏に終わりました。

### 「国際交流」

関教授が関東眼科学会を主催されたとき、日韓眼科ジョイントミーティングを行いました。栃眼の先生方に多勢御参加いただき、懇親会も盛大で、韓国からの参加者にも大変喜ばれました。

日本失明予防協会、順天堂WHO東京協力センターと共催で開かれたWHO西太平洋地域失明予防ワークショップー中間眼科保健医療職のトレーニングは新しくできた県文化センターの国際会議室を始めて使って行われました。14ヶ国37人の代表と100人の国内からの参加者があり大変有意義な会でした。栃眼からも懇親会に多勢出席いただき西太平洋地域の方々に、栃木の良さ、人情を味わってもらうことができました。丁度アイバンクの献眼者の慰霊祭が八幡山の慰霊碑で行われてい



たので、会員に献花していただき、栃木県アイバンクのP.Rをいたしました。

### 「栃眼と獨協眼科」

先にも述べましたように、私は獨協眼科に赴任以来、地域医療を充実するには眼科医会と教室が仲良くすることが第一と信じてきました。

眼科医会の行事には積極的に参加し、教室員全員も参加するように努めました。眼の愛護デー行事、忘年会にも全員で参加するようにいたしました。

ゴルフ大会には赴任当時は稲葉会長の指導で楽しいプレーいたしました。その後頸椎ヘルニアで手術をうけてからは次第に遠ざかりました。麻雀大会には殆ど全部参加しました。優勝した記憶は残念乍らありませんが大変楽しませていただきました。

栃眼創立50周年誌発行とのこと大変おめでとうございます。その50年中の17年余の栃眼会員としての想出は盡きることはありません。教室員にも恵まれ、栃眼の御支援もあり、楽しい夢のような17年でした。お陰様で教室員も独立し県内あちこちで開業し、地域医療に貢献しているとのこと、大変嬉しく思っています。

栃眼50年の輝ける歴史に改めて敬祝し、その間17年に思を馳せ、御祝と御礼を申し上げます。



## 栃木県眼科医会と私

前栃木県眼科医会報編集委員長 鈴木 光 (小山市)

眼科医会入会当初、私は眼科医会の仕事には全く興味もなく、無関心でありました。会報や理事会だよりが届いても、ちらっと見てその辺につんどくだけでした。しかし、そのうち小山地区の理事である齋藤明郎先生からバトンタッチせざるを得なくなり、広報副担当理事となりました。広報の主な仕事は、会報と会員名簿の発行でしたが、私は広告担当だったので、まだ気楽な稼業でした。そうこうしているうちに年功序列で、広報担当責任者になってしまいました。それは自動的に、会報の編集委員長の重責を担うことになるので、初めはお断りしましたが、早津会長（当時）に助けて頂けるということで、お引き受けすることになりました。会報の編集は、初め自分にとって重荷でした。表紙絵の募集、趣味を語る、心に残る患者、恩師を語るなどの執筆依頼など、人脈のない自分には大変な苦痛でした。そのため、政治家の番記者の夜討ち朝駆けとまではいかないのですが、事あるごとに諸先生に原稿をお願いしました。思えば多くの先生に助けて頂きました。小暮正子先生から、「雑文で良かったらいつでも書きますよ。」と言って頂いた時には、先生に後光が射している様子も見えました。Q&Aシリーズを掲載して頂いた齋藤武久先生には度々表紙絵を提供して頂きましたが、先生の趣味の盆栽は仲々奥深いものがあり、名人の域に達していると思いました。眼科医会の長老であられる原蕃先生にも大変お世話になりました。先生は近年まで、日本のみならず世界各地を旅され、先生のその見識および行動力に

は敬意を表しております。困った時いつも助けて頂くのは、田口太郎先生でした。先生は外国を旅行される時、手荷物のほとんどがカメラおよびその付属品だそうで、その作品を見せて頂いて驚きました。大伸ばしにしても全く粗のない作品ばかりで、プロ級の腕前であられたと思います。忘れていけないのが原博先生です。先生は眼科医としての仕事だけでなく、趣味の篆刻はその奥義を極められ、文部大臣賞受賞、日展にも入選された格調の高い作品で、会報をより質の高いものにして頂いたと思います。この外、先生は永年の視力障害センターにおける地道なお仕事認められ、内閣総理大臣表彰を受けられました。このような諸先生方の数々の趣味や功績に、拙い私は色々な意味で触発させて頂き、医師以外の自分の内的側面の成長に大いに役立ったと思います。そしてある時期を諸先生方と会報作成という一つの目標に向けて、共に過ごさせて頂いたことが、私の一番の財産になったと確信しております。私もこの十年来、無趣味人間から脱出しようと努力しておりますが、未だ目的は達せられず、趣味については暗中模索の状態です。しかし、一時期にせよ、いくらかでも眼科医会のお役に立てたとすれば、この上ない光栄と思っております。

創立50周年を迎えるにあたり、終始ご指導頂いた早津前会長、稲葉会長ならびに諸先生に深謝し、栃木県眼科医会のますますの発展をお祈り申し上げます。



## 栃木県眼科医会と私

自治医科大学教授 水流 忠彦

栃木県眼科医会が50周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げますとともに、永年にわたる営々たる活動に改めて敬意と感謝の意を表したいと存じます。

また、日頃より自治医科大学眼科が会員先生方には大変お世話様になり心から御礼申し上げます。

さて、私が栃木県眼科医会にお世話になったのは昭和59年（1984年）に遡ることになります。途中一時東京都眼科医会に属していましたが、その間も栃木県に在住して居ましたので、栃木県での生活も今年でちょうど20年になります。私自身は大阪生まれの大阪育ちで、高校卒業までの約18年間を大阪で過ごしていたのですが、今や栃木県での生活の方が長くなり、栃木県が文字通り第二の故郷のようになっています。実は私のような関西出身の者には、北関東や東北地方は何となく縁遠い感じで、特に栃木県は日光と干瓢位しか思いつかない印象の薄い存在だったのですが、今では自分でも怖い位にどっぷりと栃木県での生活に浸り、栃木県の豊かな自然と素晴らしい生活環境、そして暖かい人間関係に感謝している次第です。今更ながら人生の縁の不思議を思い知らされる気がします。

私が自治医大に講師として赴任した折りは、清水晃幸先生が教授で、栃木県眼科医会会長は吉沢清先生でした。私自身は栃木県眼科医会にはほとんどお役にたてることはありませんでしたが、例年の眼科集談会や各種講習会・セミナー等では栃木県眼科医会の先生方には大変お世話になりました。特に、1991年に自治医大主催で開催された第14回日本眼科手術学会では栃木県眼科医会の全面

的なバックアップを頂いたことが印象に残っています。

私の手許には「栃木県眼科医会報」が1988年の創刊号から現在まで揃っています。この50周年記念の文章を書くに当たって、改めて見直してみますと毎年の栃木県眼科医会の活動の広さに驚かされます。学術集会はもとより、関東ブロック連絡協議会、健保審査委員会関連、眼の愛護デー活動、等々数え上げれば切りがありません。ところで、第4号の表紙には私が米国留学時代に行った研究の写真を載せて頂いたことも良い思い出です。

一方で、しばしば誤解と困惑の原因になりやすいのが日本眼科学会と日本眼科医会との関係です。日本眼科学会が主として学術と専門医制度等を担当するのに対し、眼科医会は主として地域の眼科医療や医療行政等を担当することになっています。日本の最高議決機関である国会に衆議院と参議院があるのと似たような状況かもしれません。しかし、私のように大学病院に属していますと眼科医会の活動や有り難みが分かりにくい面があるのも事実です。このことは、厚生労働省をはじめとする行政機関や眼科以外の科からみても同じような分かりにくさにつながるとともに、日本の眼科医界全体の意思決定の遅れなどの弱点にもなりかねないような気がします。日本眼科医会と日本眼科学会は、それぞれ長い歴史と様々な背景があることは承知していますが、今後とも国民の眼科医療と眼科医に裨益するような方向に向かうことを願うとともに、私自身も微力を尽くしたいと考えています。



## 栃木県眼科医会と私

獨協医科大学教授 小原 喜隆

栃木県眼科医会創立50周年を心からお祝い申し上げます。50年間に眼科学の進歩はめざましいものがあつたと同時に眼科医会という組織の存在が眼科医の社会的地位の向上に果たした役割も重要であつたと思う。

眼科診断学と治療学が進歩したことで眼の疾患が正しく管理され、さぞ視覚障害者が減つたことと当然のごとく理解される。しかし、決して失明者は減つてゐるわけではない。しかも、治療法が未だ確立されていない疾患による失明だけでなく、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症そして白内障など馴染みの眼病が失明原因の上位を占めてゐる。失明者を1人でも減らすためには根気強い啓蒙活動と教育活動を長年にわたつて行うことである。緑内障の病状や点眼治療が大切なこと、なぜ視力が低下するのかなどの教育活動が欠かせない。とりわけ栃木県に赴任して驚かされたのは眼症状の出現で眼科を受診して初めて糖尿病を指摘されるケースが多いことである。疫学調査では栃木県民の血糖値は全国平均よりも10mg/dlも高値であるとのことである。我々の成績では眼科診療で初めて糖尿病を指摘されたケースの約30%にやがて血管新生緑内障が発症してくる事実からも視覚障害者はいっこうに減る気配がないと言える。その他にも血糖コントロールが良好にもかかわらず進行する網膜症の管理など眼科医の活躍する場は増える一方である。緑内障においても急性に進行する型と不定愁訴のようにじわりじわりと進行

する病型の理解へ啓蒙活動が必要であらう。また、疾病の発生予防への根気強い地味な公衆衛生活動など眼科医会がリーダーシップをとらなければならない課題がいっぱいある。保険診療報酬の問題も重要な課題の一つであることは事実だが、それだけが活動目標ではないはずである。県民の眼の健康を守るためには県民の意識と一体化した活動をすべきと考える。

私は岩手県、埼玉県そして栃木県の眼科医会に所属したことになる。各々の眼科医会に特有の雰囲気がある。岩手県では私は入局から助教授の時代で医会活動よりむしろ自分自身の研鑽のためにエネルギーを使った時代であつた。埼玉県での12年間は医会活動を楽しくやらせてもらい、有意義であつた。栃木県では、病院や教室の雑事にエネルギーを費やしたせいもあるが、医会では顧問という立場で医会活動といかに向き合うべきか何となくわからないままにゐる感がある。勿論、医会の方々のご支援で無事に過ごさせていただいてゐることに心より感謝申し上げます。医会活動の活性化には情報開示が必要である。例えば、理事会は何を提案してどんな行動をとろうとしているのか、今後の方針はどうかなど、透明性の高い運営が求められる。

栃木県眼科医会が50年を一区切りとして新たに会員相互の和をもつてますます発展することを祈念する。



## 栃木県眼科医会と私

獨協医科大学講師 松島 博之

栃木県眼科医会が創立50周年を迎えたとのこと、歴史ある医会で活動できることを誇りに思います。私は平成3年に獨協医科大学眼科学教室に入局し、同時に栃木県眼科医会に所属させていただいたので13年もの間活動を共にさせていただいたことになります。栃木県はひとつの県に2つの医科大学がある特殊な県ですが、自治医大、獨協医大と栃木県眼科医会が三位一体となり協力し合つて活動している模範的な県であると考えています。

皆様ご存知のとおり私の父は眼科医で父の背中を見ながら育つたものですから、正直最初から眼科医になることを決めていたような気がします。以前は何か開業医の息子としてのレールに無理に乘らされて将来が勝手に決まつてしまつた印象を持つ反抗的な時期があつたのですが、眼科医になつて楽しく仕事出来る自分に対して、眼科医が

天職であるような気がしています。(元来プラス思考なのですが。)最近では早いもので息子が卒園し、この4月から小学校に行つてゐます。何度か休みのときに診察に連れて行つてゐる成果か、息子が卒園文集に「しょうらいやきゅうのできる目のおいしゃさんになりたい」と書いてゐることがとてもうれしく、私も結局は父親と同じことをしてゐるような気がしてゐる今日この頃です。私の息子ですから反抗されそうですが、密かに親子3代栃木県眼科医会所属を狙つていこうと思つてゐます。写真は最近の私と、私が息子とほぼ同年代であつたころの父と私です。よく、「親子似てゐますね」と言われますがどうでしょうか？(父親は自分がかけていた眼鏡が気に入らないようです。)今後ともよろしくお願ひいたします。



## 第47回栃木県眼科集談会

平成16年4月11日(日)  
於：自治医大研修センター



特別講演

### ぶどう膜炎の診断と治療 —最近のトピックス

東京医科歯科大学医学部眼科教授 望月 学

近年、白内障手術の進歩とともに眼内レンズの開発も目覚ましく進行し、小切開対応の様々な眼内レンズが開発されてきた。眼内レンズを選択する上で基準となるのは切開創の大きさ、術後成績、屈折誤差、グリスニング・後発白内障などの長期安定性、術後視機能などがあげられる。現在使用されているアクリル製眼内レンズ MA60BM (Alcon)、AR40e (AMO)、VA60CA (HOYA) について眼内レンズの特徴を臨床的および実験的に検討した。結果、MA60BMの後発白内障発生率が

低く、AR40eのグリスニングが少なく、VA60CAの屈折誤差が少ないという長所が解り、各種眼内レンズの特徴を理解して眼内レンズを選択することが重要である。新しい試みとして、実験的に培養水晶体細胞の増殖抑制効果を眼内レンズの形状別に比較したところ、鋭利なエッジ形状でも形状変化により水晶体上皮細胞増殖抑制効果に差がある。また親水性眼内レンズに薬物を浸透して後発白内障を抑制する方法は、実験的に効果的で今後の進展が興味深い。

**結果：**切除深度は顆粒状①②が大きかったが、顆粒①で最も遠視化が著明であり顆粒②では最も遠視化が少なかった。裸眼視力は顆粒②と顆粒①の術前近視のある症例で最も良かった。带状変性は平均裸眼視力の改善は見られなかった。矯正視力はいずれの症例でも改善を認めたが、带状変性は改善の程度が低かった。グレア難視度は輪部疲弊を除き著明な改善を得た。

**結論：**PTKは原疾患により差はあるが、視力・グレア改善に有用で、術前に近視のない症状へのPRKの追加は裸眼視力改善に有効である。

#### 2. Anderson法による先天眼振の手術成績

自治医科大学○佐々木 誠  
牧野 伸二  
青木 由紀

酒井 理恵子  
保沢 こずえ  
近藤 玲子  
川崎 知子  
坂庭 敦子  
杉山 華江  
平林 里恵  
山本 裕子

**抄録：**先天眼振に対してAnderson法により手術を施行した。症例は28歳男性と4歳の男児である。いずれも眼振は左方視で増強し、静止位は右方約30°にあり、顔を左に向けて右方視する頭位異常を伴っていた。そのため頭位異常を改善する目的で右眼外直筋後転6mm、左眼内直筋後転6mmのAnderson法による手術を行った。術後の静止位は右方約5°になり、頭位の改善が得られた。本術式は眼振に対する初回手術として有用であった。

#### 3. 妊娠後期発症急性網膜壊死の一例

獨協医科大学○永田 万由美  
鈴木 重成  
斉藤 麻里  
新井 郁代  
小原 喜隆

**緒言：**妊娠後期発症の急性網膜壊死1症例を経験。  
**症例：**36歳女性。平成15年8月8日左眼充血、視力低下出現。8月11日近医受診、ステロイド点眼処方されるも軽快せず、8月12日当院紹介。初診時視力Vd=1.2 (n.c)、Vs=(0.8)、右眼圧12mmHg、左20mmHg、左眼毛様充血、虹彩炎、乳頭発赤、周辺部網膜滲出性病変を認めた。受診時妊娠36週。同日入院拒否し、8月20日再診時Vs=0.01 (n.c)、滲出性病変は拡大しており、加療目的にて入院。

入院時よりゾピラックス静注、プレドニゾン内服行い、8月25日帝王切開にて出産、9月3日PEA+IOL+Vitrectomy+輪状締結術施行。帝王切開時、胎盤、臍帯一部を採取、病理組織診断、VZV-PCR施行したところ、VZV感染認めなかった。児への感染所見も認めなかった。

**結論：**アシクロビルの催奇形性は少ないことが報告されており、妊娠時における使用も可能であると思われた。またARNによる血行性胎内感染の可能性は少なく、妊娠継続は可能であると思われた。

#### 4. 選択的レーザー線維柱帯形成術とアルゴンレーザー線維柱帯形成術の眼圧下降作用の効果比較

自治医科大学○佐々木 誠  
原 岳  
橋本 尚子  
水流 忠彦

**目的：**選択的レーザー線維柱帯形成術 (selective laser trabeculoplasty (以下SLT)) とアルゴンレーザー線維柱帯形成術 (以下ALT) の眼圧下降効果を検討する。

**対象と方法：**対象は原発性開放隅角緑内障および正常眼圧緑内障患者23例29眼で、17例18眼にSLTを、11例11眼にALTを施行し効果を比較した。

**結果：**SLT群では術前平均17.4mmHgより術後平均15.1mmHgと低下、ALT群では18.5mmHgより15.4mmHgと低下し、両群ともに術後眼圧は術前に比し有意に低下していた。

また、9～12ヶ月後の眼圧下降率はSLT施行群で12%、ALT施行群で19%であったが、両群間に有意差はみられなかった。

**結論：**今回の研究ではSLTの眼圧下降効果はALTと同等と考えられた。

#### 5. アクリル製眼内レンズの早期術後成績

獨協医科大学○青瀬 雅資  
松島 博之  
永田 万由美  
松井 英一郎  
小原 喜隆  
吉田眼科病院○吉田 紳一郎  
和田 裕靖

**目的：**3種アクリル製眼内レンズ術後早期成績の検討

**対象と方法：**対象は当院にて白内障手術を施行し、

#### 一般講演抄録

##### 1. 当院におけるPTKの成績

獨協医科大学○阿久津 望美  
後藤 憲仁  
木村 麻衣子  
池田 恵理  
寺内 渉  
千葉 桂三  
小原 喜隆

**目的：**PTKの疾患別成績と、術後遠視化軽減のためのPRK追加矯正の有用性について。

**対象と方法：**顆粒状変性① (PTKのみ29眼)、顆粒状変性② (術前近視がなくPTK+PRKを施行4眼)、带状変性15眼、格子状変性4眼、斑状変性2眼、炎症性混濁2眼、輪部疲弊2眼である。対象別に切除深度、屈折変化、裸眼及び矯正視力、グレア難視度を比較した。

完全な前囊切開で眼内レンズが囊内に固定され全身・眼合併症の無い72例93眼（平均年齢69.4歳）。MA60BM（Alcon社）、VA60CA、VA60BB（HOYA社）を無作為に挿入した。検討項目として、視力、眼圧、フレア値、術後屈折誤差量および後囊混濁値の定量をスリット像・徹照像解析（EAS-1000,NIDEK）にて術後3か月まで測定した。測定結果は多重比較検定を用いて統計学的解析を行った。

**結果：**3種のレンズ間で視力、眼圧、フレア値、屈折誤差とも差は無かった。VA60CAは、術後屈折誤差量が少なく、眼内レンズの偏心は有意に少なかった。後囊混濁値は、MA60BM、VA60BBで少ない傾向にあった。

**結論：**VA60CAは眼内レンズの固定がよく、MA60BM、VA60BBは後発白内障の発生が少ない。

#### 6. ディフ・クイック染色による鏡検が有用であった真菌性角膜潰瘍の3症例

自治医科大学○小幡博人  
青木由紀  
久保田みゆき  
水流忠彦

**目的：**真菌性角膜腫瘍は細菌性角膜腫瘍に比べ稀な疾患であるが、真菌性であるという確定診断を行うことがしばしば困難である。今回、ディフ・クイック染色を用いた塗抹検査（鏡検）によって真菌を検出し、迅速に診断・治療することのできた真菌性角膜腫瘍の3症例を経験したので報告する。

**症例：**症例は、症例1：66歳男性、症例2：59歳男性、症例3：57歳女性の3症例である。いずれも角膜腫瘍の診断にて、抗菌薬、ステロイド薬等の治療をうけるも軽快しないため、当科を紹介受診された。いずれも比較的小型

の不整形の浅い腫瘍を認めた。病巣部の培養検査に続き、病巣部をスパーテルで擦過し、スライドガラスに塗抹し、ディフ・クイック染色を施行した。鏡検にて糸状真菌がみられたため、真菌性角膜腫瘍と診断し、ピマリシン眼軟膏1日5回、クラビット点眼薬1日5回の治療を開始した。3症例とも1ヶ月以内に淡い混濁を残すのみで治癒した。培養の結果は、症例3のみでFusarium sp.が検出されたが、症例1と2では陰性であった。

**結論：**感染性角膜腫瘍では、培養検査のみならず、塗抹検査によってまず細菌性か真菌性かの判断を行い、迅速な治療方法をたてることが大切である。

#### 7. 宇都宮市原眼科病院における最近のLASIKの成績

原眼科病院○原 孜  
千葉 厚  
原 たか子

当院でLASIKを開始してから現在まで4年半、症例も400例を越えた。全体の成績は良好であるが、途中、2003年7月にアイトラッキングシステム、オートケラトームを導入してからの成績は一段と安定してきた。アイトラッキングシステム、オートケラトームを用いるようになってから2004年3月までに術後正視を目標に手術をした98眼の成績は、術後1週～6Mの最終測定時における裸眼視力1.0以上が95.9%、0.7～0.9が3.0%、0.7未満は1.0%だった。合併症として、1.0D以上の矯正のずれが3例（3.1%）サクシオンリングの吸着不全により手術を延期したものが1例（1.0%）、ケラトームによる角膜上皮剥離が1例（1.0%）あったが、以前見られた術中のフラップ作成不全、術後のDLKなどの合併症は認められなくなった。

## 第30回栃木県眼科医会研究会

平成16年1月16日(金)

於：宇都宮グランドホテル



## アレルギー性結膜炎 —鑑別診断と治療のポイント

東京女子医科大学眼科助教授 高村悦子

アレルギー性結膜炎は、I型アレルギー反応が関与する角結膜のアレルギー炎症がその病態の中心である。眼掻痒感、充血、眼脂など結膜炎の症状を特徴とし、臨床所見から診断される場合が多いが、確定診断のためには眼分泌物中の好酸球の検出が、またアレルゲンの検索には、皮膚や血清による抗原特異的IgE抗体の検査がおこなわれている。しかし、日常臨床の場で、これらの検査を、迅速に、かつ簡便におこなうことは難しい。その上、確定診断となる好酸球の検出は、検体が微量なことや、偽陰性となることもあり、鑑別診断が必要な場合に、効力を発揮しにくいといった問題もある。スギ花粉症などの季節性アレルギー性結膜炎は発症時期や眼掻痒感から臨床診断がつけやすい疾患ではあるが、時に感染性の急性結膜炎と

の鑑別が必要となる。花粉飛散量の多い時期には、充血や眼瞼腫脹の臨床像がウイルス性結膜炎と類似する場合を経験する。また、秋から冬にかけての乾燥する季節に眼掻痒感を伴う充血を自覚する場合、通年性アレルギー性結膜炎と眼掻痒感を伴うドライアイとの鑑別が難しい。ここでは、アレルギー性結膜炎の現在おこなわれている診断法の有用性と限界を解説し、日常臨床で遭遇するアレルギー性結膜炎と鑑別が難しい症例について、鑑別のポイントを考えてみたい。

また、スギ花粉によるアレルギー性結膜炎に対する抗アレルギー点眼薬の使い方、角膜障害を伴う春季カタルに対する治療法についても最近の話題をお話する。



## 裂孔原性網膜剥離の診断概念の問題点

帝京大学医学部眼科学教室教授 田中住美

裂孔原性網膜剥離の診断に於いて使用されているが厳密には問題を孕んでいると思われる用語があり、その定義を見直す事で、一部の裂孔原性網膜剥離の疾患概念の混乱を検討する。今回の講演では、以下の2点を取り上げる。(1)いわゆる「アトピー性網膜剥離」の概念：アトピー性皮膚炎に合併する裂孔原性網膜剥離は①通常の裂孔原性網膜剥離が偶発的に合併②叩打癖に由来する外傷性網膜剥離③アトピー性皮膚炎に特異的な病巣に基

づく裂孔由来の網膜剥離が考えられるが、①②はアトピー性皮膚炎自体の関与の程度が曖昧であり、③はこのような裂孔が本当に存在するのか確定していない。このため臨床的に意義のある形での「アトピー性網膜剥離」の定義は現時点ではできない。(2)硝子体基部周辺部の裂孔：特発性巨大裂孔、外傷性鋸状縁断裂、若年性鋸状縁断裂、硝子体基部裂孔など大きさ、発生原因、解剖学的位置など様々な指針による分類が混在している現状がある。

## 第9回栃木眼科セミナー

平成16年2月13日(金)  
於：小山グランドホテル



## 加齢黄斑変性の画像診断と治療の現状

名古屋大学大学院医学研究科 寺崎浩子  
感覚器障害制御学(眼科)教授

加齢黄斑変性症の診断には造影所見が用いられるが、最近の光干渉断層計の進歩により断層面での広がりを知ることができ、治療を考えた診断に有用である。加齢黄斑変性症の治療には現在すべての症例に効果のある方法はなく、症例ごとの選択が重要である。レーザー治療は非常に限られた症例に行われる。手術治療には、脈絡膜新生血管除去術、黄斑移動術、網膜下出血に対する出血除去術がある。脈絡膜新生血管(CNV)除去術は、CNVが中心窩下にかかっていない早期の症例に適応となる。CNVが中心窩下にある場合は、除去により網膜色素上皮は欠損し、術前よりも視力は低下してしまう。黄斑移動術は、中心窩下のC

NVに対し、人工的に作成された網膜剥離により黄斑網膜を健全な網膜色素上皮上に移動し視力の向上を目指すもので、強膜内陥または外突により余剰な網膜を下方に移動する方法と、網膜全周切開による黄斑移動術がある。加齢黄斑変性のいずれの手術においても、診断の重要性と手術法への理解が早期治療につながり、良好な視機能の獲得または維持に寄与するものと思われる。手術治療適応以外の多数例の症例に温熱療法や放射線治療が行われており、視力維持効果を少数例に発揮している。本講演では加齢黄斑変性症の治療を考えた診断方法を画像を中心に紹介し、術式の選択、手術方法と症例、症例の経過を報告する。

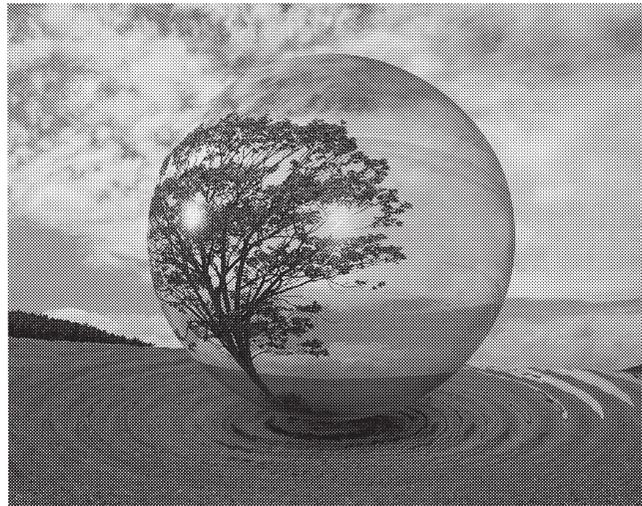
緑内障・高眼圧症治療剤

指定医薬品

# ミケラン®点眼液1%・2%

塩酸カルテオロール点眼液

薬価基準収載



◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

製造発売元  
大塚製薬株式会社  
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先  
大塚製薬株式会社 学術部  
〒101-8535 東京都千代田区神田司町2-2  
大塚製薬 神田第2ビル

〈'99.9作成〉

## 第14回下野眼科談話会

平成16年3月26日(金)  
於：小山グランドホテル



### 特別講演

## 白内障手術・過去から未来へ向けて

岩手医科大学眼科教授 田澤 豊

白内障手術が現在の術式に至るまでには、有史以来の医療、医学の進歩と発展の長い過程がある。中でも、最近30年間の術式の変貌は顕著で、まさに隔世の感がある。その間に、眼科手術は単なる手技の伝承ではなく、個々の手技が理論に基づいた眼科手術学として体系付けが確立されるに至った。加えて、医療工学の発展が眼科手術領域に貢献し、大きな変化をもたらした。しかし、現在用いられている個々の手技も、各時代の試行、選択、定着、そして新たな試行のサイクルの繰り返しを

経て、今に至り、さらに将来も無限に続いていくであろう。

1960年代後半からの白内障術式に始まり、飛躍的発展を来した現代の術式まで、ともに歩んできた演者の経験を、再現したビデオを供覧しながら現代の術者に提示してみたい。これによって各時代の手術に対する概念の変貌を感じ取ってもらえるものと思う。また、本邦においてすでに始まっている未来の術式への取り組みの1例も紹介したい。

験の結果解析のために各Hessチャートをスキャナー（EPSON GT-9300UF）で取り込み、1次偏位の面積と30°むき眼位の枠の面積をScion Imageを使用して解析し、1次偏移面積の変化量（複視量）を経時的に算出した。

**結果：**眼窩下壁整復術を行った症例では、Hessチャートの変化量は経時的に減少することが、定量的に証明された。

**結論：**画像解析ソフトを用いることにより、Hess赤緑試験の結果を客観的に定量することができる。

### 2. 翼状片の遊離結膜弁移植術—遊離弁作製は上方から下方から？

自治医科大学○小幡 博人  
柿沼 有里  
神原 千浦

原 岳  
水流 忠彦

**目的：**翼状片の遊離結膜弁移植術において結膜弁の作製は球結膜の上方から作製されることが多い。しかし、もし将来緑内障の濾過手術が必要になった場合、翼状片手術で上方の球結膜に手術侵襲を加えることは不利になる。今回我々は下方の球結膜から遊離結膜弁を作製し手術を行い、従来から上方から作製した場合との手術の成績を比較したので報告する。

**対象と方法：**対象は2001年8月から2003年9月までに初回翼状片に対し遊離結膜弁移植術を施行し60日以上経過観察を行うことのできた40例41眼である。このうち上方の球結膜から遊離弁を作製したものは25眼（上方群）、下方から遊離弁を作製したものは16眼（下方群）であった。平均年齢は上方群66±9歳、下方群62±10歳であり、平均観察期間は上方群214日（70～519日）、下方群177日（71～390日）であった。各群の再発率およびKaplan-Meier法による累積生存率についてレトロスペクティブに検討した。

**結果：**上方群における再発率は16.0%（25眼中4眼）、下方群の再発率は18.8%（16眼中3眼）であった。術後6カ月での累積生存率は、上方群85.5%、下方群80.8%あり、両群間に統計学的有意差はなかった（log-rank test）。

**結論：**遊離弁の作製を下方の球結膜から行うことは眼表面への侵襲を最小限に抑えるという観点から有用な方法と考えられた。

### 3. 輪部結膜が原発と考えられた結膜基底細胞癌の一例

佐野厚生総合病院○花園 元  
**緒言：**結膜原発の基底細胞癌は非常にまれな疾患であり、現在までに数例の報告を認めるのみである。今回我々は切除後に再発を認めた結膜基底細胞癌の一症例を経験した。

**症例：**65歳男性。平成13年1月19日左眼の異物感を自覚し当科初診。左眼鼻側結膜の輪部よりに結膜隆起を認め血管進入を伴っていた。外観が翼状片に類似しており同日腫瘍切除術・結膜縫合を行った。術後2ヶ月程度で切除部位の結膜

膨隆がみられ輪部結膜に浸潤がみられた。6月25日再度結膜腫瘍切除術施行された。病理検鏡の結果基底細胞癌との診断が得られた。その後経過観察としているが角膜浸潤が徐々に増大してきている。

**結論：**結膜基底細胞癌の発生は非常にまれであるが、翼状片切除術などの際には本疾患を含め腫瘍性疾患の鑑別も考慮にいれる必要があると思われる。また、他の部位の基底細胞癌と同様に再発・浸潤していくと思われ、外科的に切除する際には十分なマージンを取ることが重要であると思われる。

### 4. 高圧放水による角膜裂傷の1例

獨協医科大学○増 潤 由佳子  
妹尾 正  
寺田 理  
千葉 桂三  
小原 喜隆

**目的：**高圧放水による角膜障害の一例を経験したので報告する。

**症例：**47歳男性。高圧ポンプの作業中、高圧洗浄水が左眼にあたり視力低下・眼痛にて近医を受診し、前房出血の診断にて当院紹介受診となった。受診時の視力は左眼手動弁で、眼瞼および結膜裂傷、角膜浮腫・角膜実質内に複数の層の空気、虹彩離断、前房出血そして前房内に少量の空気が見られた。角膜裂傷部に前房への穿孔はなかった。結膜縫合、点眼治療にて受傷翌日には、角膜実質内および前房内の空気は消失していた。受傷後1ヶ月では、視力0.3、角膜浮腫と虹彩離断を認め、眼底に異常はなかった。受傷後6ヶ月では、左眼視力1.0、角膜の浮腫はなく、若干の角膜混濁と虹彩離断を残すのみとなっている。

**結論：**高圧放水による角膜障害の一例を経験した。前房内の空気は、裂傷が弁状であったため迷入した、もしくは、高圧放水の衝撃により発生した可能性などが考えられた。

### 5. 分散型・Viscoadaptive型粘弾性物質の角膜内皮保護効果の比較

### 一般講演抄録

#### 1. 画像解析ソフトを用いたHess赤緑試験の定量

獨協医科大学○澤野 宗顕  
松島 博之  
青瀬 雅資  
妹尾 正  
小原 喜隆  
三須医院 三須 一雄

**目的：**Hess赤緑試験は複視を主訴とする症例には広く行われている有用な検査方法であるが、結果の評価判定に恒常性に欠ける場合がある。画像解析ソフト（Scion Image）を用いて、当院で手術を施行したBlowout Fracture患者のHessチャートの定量解析を試みた。

**方法：**対象は当院でBlowout Fractureのため入院手術を行い、1年以上経過を追えた15症例である。術前、術後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月および12ヶ月にHess赤緑試験を行った。Hess赤緑試

獨協医科大学越谷病院・新越谷アイクリニック  
西尾正哉  
緒言：粘弾性物質には白内障手術時の角膜内皮保護効果があるとされる。今回分散型としてViscoat®、Viscoadaptive型としてHealon®Vを用いてその内皮保護効果を比較した。  
対象・方法：対象は核硬度に差がない両眼白内障にてPEA+IOLを行った50例。片眼にViscoat®を、僚眼にHealon®Vを用いた。Viscoat®群ではCCC前に0.1~0.2mlを前房内に注入し、その後Opegan®HiにてSoft shellを構築した。Healon®V群ではCCC作成前にHealon®Vにて前房をほぼ全置換した後、水晶体前面にOpegan®Hiを少量塗布しCCCを行った。眼内レンズは

全例アクリルIOLを使用し、挿入時にはOpegan®Hiを使用した。角膜内皮密度は術後1週目に測定し、同一症例の左右眼で減少率を比較した。  
結果：手術時間・US発振時間・術後眼圧変化に両群で差は見られなかった。角膜内皮細胞密度減少率はViscoat®群で2.54±3.86%、Healon®V群で2.94±4.71%であり、両群に有意差は見られなかった。また、両群ともにUS発振時間と角膜内皮細胞減少率に有意な相関が認められたが、その回帰直線に差はなかった。  
結論：両粘弾性物質には角膜内皮保護効果に差が認められなかった。両粘弾性物質はその性格が大きく異なるが、両粘弾性物質に同程度の角膜内皮保護効果を期待できると考えられた。



プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体  
緑内障・高眼圧症治療剤 指定医薬品、要指示医薬品\*

**キサラン®**点眼液

一般名：ラタノプロスト

薬価基準収載

\*注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Life is our life's work  
生命を守るが私たちの使命です。

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
資料請求先：マーケティングサービス部

2003年8月作成



## 平成15年度 栃木県眼科医療従事者講習会開催報告

コメディカル担当理事 井上成紀(大田原市)

平成15年11月16日(日)にとちぎ健康の森講堂において開催されました。

参加者は、会員13名、コメディカル126名でした。

講師、演題、抄録と参加者の感想を報告いたします。

1. 講師：京都府立医科大学眼科学教室 助教授 横井 則彦 先生  
演題：「コンタクトレンズ装用眼の

ドライアイとその対策」

抄録：コンタクトレンズ（CL）装用は、蒸発亢進型ドライアイを来すが、ハードCLとソフトCLでメカニズムが異なり、前者ではメニスカス、後者では油層の考え方が重要である。本講演ではドライアイ全般についても解説してみたい。

多くのスライド、動画にて色々なケースの解説をしていただきました。

感想：

- ①HCL, SCLのドライアイの対処法、タイプの違い等初めて聞く話が非常に解りやすく勉強になった。
- ②ドライアイの患者でもCLが使用できる理由など指導の方法が理解できた。
- ③ドライアイ対策は理解できたが、若干難しい内容であった。
- ④CLの種類によって涙液の量が変わるのがわかった。
- ⑤今後、患者に対しアドバイスできる内容であった。
- ⑥グラフ、表での説明が非常に解りやすかった。
- ⑦涙液が減少する仕組みが具体的に理解できた。
- ⑧時間が短かったため、ちょっと難しかった。

ペースが速かった。

⑨実際の映像で、涙の動き、盗涙等が見れ理解しやすかった。

⑩アレルギー眼との関連性をもう少し詳しく聞きたかった。

2. 講師：自治医科大学眼科学教室 講師 原 岳 先生  
演題：「緑内障患者との付き合い方」

抄録：緑内障は視野、視力に障害を及ぼす疾患で日本における失明原因の第2位とされている。

40歳以上の5.8%が緑内障であると言われ、国内にはおよそ300万人以上の患者がいると推定される。緑内障の初期症状は周辺視野の変化であるが、なかなか自覚されにくく、かなり中心に進行して初めて自覚されることが少なくない。緑内障の視野機能障害は進行性で不可逆性であるため、自覚症状が出てから治療したのでは視機能障害を残すこととなるため、現在では人間ドッグによる眼底検査の普及やテレビ、雑誌を媒体とした広報活動などによって、早期発見、早期治療が行われるようになってきている。これらの活動によって10数年前に比較して一般の方の間で「緑内障」の認知度は高くなったが、それ故、知識が先行し必要以上に不安に感じている患者も多い。医療従事者は患者の肉体的（視機能的）および精神的なQuality of Lifeを念頭に治療にあたる必要がある。

アニメキャラクターを登場させて基礎的なお話から解説していただきました。

感想：

- ①緑内障という病気がよく理解できた。

- ②視野との関係が解りやすかった。理解しやすい講演の仕方で非常によかった。
- ③緑内障患者への眼圧を聞かれたときの対処法等、参考になった。
- ④アニメやグラフ等での説明がわかりやすかった。
- ⑤知識だけでなく、患者への接し方についても説明していただき勉強になった。
- ⑥緑内障は早期発見が大切ということがよくわかった。
- ⑦緑内障だけでなく、他の疾患の見え方の違いが勉強になった。
- ⑧ハンフリーの結果について、今まで疑問に感じていたことが理解できた。
- ⑨今後、職員として緑内障を理解し、患者の不安を取り除いていきたい。

以上のような両先生に対する感想をいただきました。  
 両先生には私達の為に貴重なお時間をさいてのご講演、感謝申し上げます。  
 最後に今後の講演の希望テーマをアンケートいたしました。  
 ○白内障に関して  
 ○小児の視力（近視、遠視）  
 ○斜視、弱視  
 ○受付での問診等  
 ○糖尿病網膜症患者の再発予防の為の指導  
 ○診療報酬の現状、問題点など  
 ○レーザー治療の必要な患者、治療後のケアなど  
 以上のような御解答をいただきました。  
 今後の参考にさせていただきます。

## 報 告



# 平成16年度 日本眼科医会第1回定例代議員会並びに第1回定例総会出席報告

予備代議員 宮下 浩 (宇都宮市)

- 出席者：宮下 浩
- 日 時：平成16年4月3日(土)17:00~19:30  
4日(日)9:30~14:00  
14時より総会

- 場 所：京王プラザホテル
- 選 挙：本年は、佐野会長が勇退され各種選挙の年、代議員117名中114名出席

### (1)代議員会議長

関 公先生（千葉）が議長、藤岡 憲三先生（北海道）が副議長に選出され再任。

### ●佐野日眼医前会長挨拶

佐野会長勇退の挨拶があり、平成6～16年まで10年間日本眼科医会の会長を務めた、目的は概ね達成した。日本眼科医会は佐野会長の生まれ年と同じ昭和5年に設立された、医会の中でずば抜けて一番古い医会である。佐野会長は、昭和51年から眼科医会で書記の仕事をした。会長の思い出は①京都の国際学会を日眼学会と共催し仲良くなった②社団法人化③専門医制度を作ったことです。また学会と摩擦があったが今日では協力関係がより密になって学会は研究に専念し政治活動は医会に任せるとして今回のIOLも減らされなかった。昭和52年眼鏡士法案が出て日本眼科医連盟を設立した。昭和60年に社団法人日本眼科医会となって対厚生省、メディアに効果があった。眼鏡法案も水面下に沈んだ。今後、CL問題など山積する問題があるが、「国民の目の健康」のために尽くしてほしい。

### (2)日眼医会選挙

- 会長選挙（定員1名）

投票総数114、三宅謙作100向井 章13無効  
1で三宅先生が会長に選出された。

- 副会長（定員3名）  
定員で公示通り、選挙によらず選出。伊藤、北原、吉田の各先生。
- 常任理事（定員9名）  
定員で選挙によらず高野、山岸、秋澤、種田、松下、入江、宮浦、石川、出田の各先生
- 理事（定員9名）

11名の立候補があったが、会長選挙後2名が辞退し定員となって選挙によらず選出された。

○監事、裁定委員は、公示通り選挙によらず選出された。

それぞれ選出されたところで暫時休憩、新執行部、職務分担が決められ、会長から新任挨拶のあと副会長、常任理事、理事、監事の順に紹介された。

### ●三宅会長挨拶

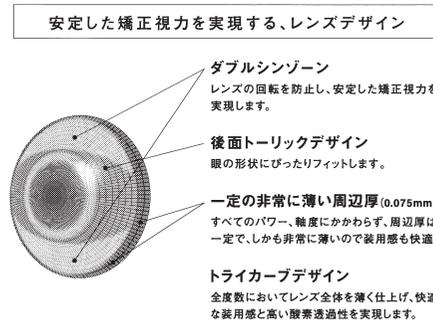
新執行部は平均58才で2才若返った。①会員の医療経営の安定をめざす②公衆衛生と広報活動に力をいれる③情報化社会への対応としてITを充実会員と執行部が双方向性で密な関係を持つという3つの柱で運営していきたい。

### 議題・議事

- 第一号議案 日眼医定款一部改正の件
- 第二号議案 日眼医定款施行細則一部改正の件  
第一号議案、第二号議案とも総務担当の高野 繁常任理事より原案の説明があり全会一致で承認された。
- 第三号議案 平成16年度日眼医事業計画の件  
高野総務担当常任理事より重点項目について

## ついに誕生。 世界初の乱視用1日使い捨てコンタクト。

乱視だからと、1日使い捨てレンズをあきらめていた方、クリアに見えなくても近視用をがまんしながら使っていた方へ。いよいよ誕生、世界で初めての乱視用1日使い捨てコンタクトレンズ「フォーカス。デイリーズ。トーリック」。乱視の瞳にも、1日使い捨てレンズの清潔さと便利さをおとどけます。



ついに誕生！乱視用×1日使い捨て  
フォーカス。デイリーズ。トーリック

| 【レンズ特性】       |  |
|---------------|--|
| 1.レンズ素材       | ソフトコンタクトレンズ分類:グループII<br>USAN:nefilcon A<br>構成モノマー:PVA(改良ポリビニルアルコール)  |
| 2.保存液の主成分     | 塩化ナトリウム、緩衝液  |
| 3.レンズ物性       | 含水率:69%<br>酸素透過係数:26.0×10 <sup>-6</sup> (cm <sup>2</sup> /sec)-(ml O <sub>2</sub> /ml XmmHg)<br>屈折率:1.385<br>光線透過率:97%以上   |
| 4.レンズデザイン     | 直径:14.2mm ベースカーブ:8.6mm 中心厚:0.10mm(-3.00Dの場合)<br>外面:球面設計(トライカーブデザイン) 内面:トーリック設計(トライカーブデザイン)<br>製造方法:モールド製法(ライトストリーム・テクノロジー) |
| 5.効能・効果       | 視力矯正(終日装着、再使用禁止)   |
| 6.トライアルレンズの規格 | トライアルレンズの規格は製品と同一  |
| 7.製作範囲        | ベースカーブ:8.6mm<br>頂点屈折力:-0.50~-6.00D(0.25D間隔) 円柱軸度90°,180° 円柱度数-0.75D<br>直径:14.2mm   |

●医療用具承認番号21000BZY00068000 (輸入販売元)チバビジョン株式会社 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー13階  
【お問い合わせ・ご相談はこちら チバビジョンダイヤル】 ☎ 0120-389103 (24時間365日対応)

www.dailies.jp



て説明が行われた。

## 1. 総務部

- 「目の110番」事業を推進する。研究班活動については来年度のテーマを1年かけて検討する。マスメディアへの随時対応。医事紛争の調査と防止対策、会員資格検討委員会の継続など。

## 2. 経理部

- 合理的な運用を図る

## 3. 公衆衛生

- 眼科健診事業の推進
- 「目の愛護デー」行事を推進
- 色覚の社会的バリアフリーの検討
- 障害者対策として平成17年2月の長野知的障害者オリンピックに協力
- 生活環境問題対策として「IT眼症と環境因子」研究班活動業績集の発行と会員に患者説明用資料の作成

## 4. 広報部

- 本年度は「コンタクトレンズ関係」をテーマに記者発表会を9月に予定。

## 5. 学校保険部

- 文部科学省、日本学校保健会および日本医師会の学校保健事業への協力
- 各種教材などの検討・作成

## 6. 学術部

- 「眼科医の手引き・第8集」を発行
- 眼科コメディカル教育の推進、テキスト・教材を検討して改訂版を作成する
- 屈折矯正手術および他の屈折矯正に関連する医療全般に日眼学会と連携して対応する。

## 7. 社会保険部

- 眼科診療実態調査を平成16年度に行う。
- 日眼医独自の調査として「眼科全国レセプト調査」の実施・検討を行う。
- 適正な眼科保険医療の研究、検討と会員への情報提供

## 8. 医療対策部

- 「眼鏡処方箋書き換え事例調査」を実施する。
- 改正薬事法への対応として、各医・病院でコンタクトレンズを扱うところは法人化しておいて欲しい。

## 9. 勤務医部

- 「日本の眼科」に「勤務医の頁」を掲載する・（勤務医問題について座談会などを企画している）
- 勤務医の年度途中の移動で支部会費が2重にならないように支部との連絡を密にする

## 第四号議案 平成16年度日眼医予算の件

- 石川まり子経理担当常任理事より説明
- A会員5285名、B会員6300名、C会員1250名で計12,835名（前年度12,770名で65名増）
- 「目の健康講座」開催費用を増額し公衆衛生部費の大幅減とした。

## 第五号議案 平成16年度日眼医会費賦課徴収の件

- 昨年同様
- A会員 年額 45000円
- B会員 年額 15000円
- C会員 年額 7000円
- それぞれ承認された。

## 定例総会・日本眼科医連盟

三宅会長が議長となり出席会員が委任状提出会員9270名を含めて9405名となり定款第54条で定める会員13,145名の3分の2以上で総会の成立と開会を宣言し、代議員会で承認をされた議案について全ての議案が賛成多数で承認された。

日眼医連盟について、佐野会長の人脈を継承していく方針で佐野前会長にも関わっていただくようにしたい。会員の医療経営の安定のために保険診療の報酬改善を目ざしていくとの挨拶があり、連盟会費の納入に協力頂きたい旨の挨拶があった。

# 日眼医代議員会総務常任委員会報告

代議員 柏瀬宗弘（足利市）

- 日付 平成16年1月18日(日) 11時～14時
- 場所 日眼医事務所  
(今回より港区芝の一星芝ビル73階に事務所が移転した、JR浜松町駅より歩いて6分)
- 出席者 常任委員14名全員  
代議員会 関議長、藤岡副議長  
執行部 佐野会長、向井、三宅副会長  
常任理事 高野、吉田、石川、宇津見

## 佐野会長挨拶

昨年新聞紙上を賑わした白内障点眼薬無効論は、現在小康状態である、薬事法改正に伴うMS法人等は現在特に大きな変化はない様だ。過日、産経新聞の一面にCL診療所に名義貸ししている会員の事が報じられた。これは一種の詐欺行為であるので厳に慎んで頂きたい。

## 議題

### 1. 平成16年度事業計画（案）について

高野常任理事より前文及び各部に対する説明があり、字句の一部訂正、昨年未行った事務局のIT化並びに通信インフラの整備を目的とした事務局の移転に引き続き、本年度は諸事業を推進するための情報通信環境の整備を一歩づつ進めて行きたい。

### (1)総務部

- 渉外活動の強化  
関係官庁、諸団体などの連携を密にすると同時にメディアに随時対応する。
- 医事紛争の調査と防止対策の検討  
昨年は会員から3件の相談が寄せられたが、その一つに散瞳検査後車で運転して帰るのは不可と云ったが、帰りがけに見えづらく事故を起こしてしまった。

紛争迄には至らなかったが、顧問である児玉弁護士によると、散瞳したので運転不可とカルテに書いておいた方がよいとの事。

### (2)学術部

- ・日本の眼科、2001～2003年掲載分を集成し「眼科医の手引・第8集」として発行。
- ・眼科コメディカル教育のテキスト・教材の内容を検討し、改訂版を作成する。

### (3)社会保険部

- ・眼科診察実態調査…2年毎に行っているが度重なるマイナス改定と患者の自己負担増による受診抑制がどの様に影響しているかを調査する。
- ・眼科全国レセプト調査の実施・検討。
- ・診療報酬改定特に新点数表を作成し、全会員に配布する。

### (4)勤務医部

「心室細動に対する眼科医の対応」  
勤務医、開業医問わず、眼科医だからこれは出来ないとは云われない時代になって来た。ECGをとり救急のABCを行い、専門医に連絡する。日眼医理事会でも2月7日講師を呼んで勉強会を行うと云う。各支部でも検討して頂きたい。

### 2. 日眼医定款及定款施行細則一部改正（案）について

- 定款について  
・新事務所の住所変更、港区芝2丁目2番4号
- ・一部文語の変更
- ・理事数、20名以上29名以内（会長、副会長及常任理事を含む）を22名以上27名以内と



寒河江（新潟）→野中（長野）

5. 4月の日眼医定例代議員会ブロック代表質問について

13日までに相沢世話人にFAXで送ることとした。

6. 各県よりの提出議題

○茨城県より、学校での色覚検査が必須項目から削除されたが、今後如何にすべきか日眼医又は関ブロとしての統一見解を示してほしいとの意見が出た。昨年末日医雑誌の付録として配布された「色覚検査マニュアル」に沿って動いてほしい。日医も全面バックアップしているので、各支部の担当役員が教育委員会に出向いて説明してほしい。希望する生徒にはやってあげるとするのが基本姿勢であるとの回答。

○新潟県より、某CL診療所がルーチンに精密眼圧を請求して査定されたのを不服として、国保連合会に対し訴訟を起こした件が報告された。（群馬で支払基金を提訴したのと同じ診療所）

○長野県より、「目の健康講座」を11月28日（日）松本の公民館で開催し、受講者162名、相談者58名であったと報告あり。

7. 日眼医報告（高野常任理事）

1) 会長選挙について（上記）

2) 事務所移転について

11月15日移転完了、IT化に対応できるようになったこと、冷暖房など職員健康面で改善されたこと。交通の便がよくなったこと、などがメリットである。

3) 診療報酬改訂について

心配されたIOL挿入術の技術料とレンズ代の分離が今回は見送られ、又、検査のまるめも行われず、初診料がアップした分眼科はマイナスにならずに済んでよかった。手術料の施設基準に関する変更があり、経験10年以上の医師がやった手術の場合30%の減点はしないでよいことになった。

4) 薬事法改正について

日眼医で5項目より成る要望を厚生労働省に出している。

①販売管理者をおくことになったが、診療所医師が兼務できるようにしてほしい。

②管理者の研修については専門医制度委員会認定の講習会で代行できるようにしてほしい。

③販売所の設置基準については、新たな規制強化は行わないでほしい。

④対面販売を義務化してほしい。

⑤CL処方箋発行を眼科専門医に限定してほしい。

このうち①～③は要望通りになりそうであるが、④、⑤については継続交渉中である。

3月に厚労省から省令が出ることになっている。細かいところの対応は都道府県によって異なるので県からの通達に注意してほしい。

5) CL診療所名義貸しの件

産経新聞が12月23日付1面トップでとり上げた。丁度大学病院の医師の地方病院への名義貸しが発覚して騒がれている時期なので反響が大きい。

「日本の眼科」2月号にコピーを掲載して周知をはかった。2ヶ所以上の診療所を管理している場合や勤務実態を伴わない場合が問題になる。各県にそのような会員がいないか調査指導してほしい。

更に2月15日の産経にはCL診療所が検査の過剰請求で診療報酬を食い物にしているという報道がなされた。特に若年者への精密眼圧のことが報じられた。3月1日には全国のCL診療所から2,088億円の請求がなされ、眼科全体の医療費の20%がCL診療所にもって行かれているという報道が出た。

6) 会員名簿について

本年からA4版にする。又、希望があれば自宅の住所は掲載しないことになった。

7) ジョンソン&ジョンソンの化学的殺菌消毒剤デイスオーバ消毒液0.5%を超音波白内障手術器具の消毒に使用しないでほしい。水疱性角膜症が発症したとの報告があった由。

8) 4月の日眼医定例総会で定款改正が行われるため委任状提出が必要である。80%集める必要がある。特に勤務医会員からの回収に力を入れていただきたい。

9) 長野県の知的障害者関係の催しスペシャルオリンピックスを日眼医と長野県眼科医会で

後援することになった。

そのほか、日眼医総務常任委員会報告（柏瀬先生）、経理常任委員会報告（神奈川 鈴木（仁）先生）、関ブロ会報編集委員会報告（神奈川 岡田先生）が行われた。以上



●薬価基準収載 

**持続性 緑内障・高眼圧症治療剤**  
(指定医薬品)

**ミロル<sup>®</sup>**  
**点眼液 0.5%**

**MIROL<sup>®</sup>** (塩酸レボブノロール点眼液)

●効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

(製造元) 杏林製薬株式会社  
東京都千代田区神田駿河台2-5

発売元 (資料請求先)  
**科 研 製 薬 株 式 有 限 公 司**  
〒113-8650 東京都文京区本駒込二丁目28-8  
(2002年1月作成) 01X2

# 平成16年度栃眼医総会開催報告

総務担当理事 宮 下 浩 (宇都宮市)

平成16年度栃眼医総会は、4月11日(日)自治医大研修センターで、例年通り第47回栃木県眼科集談会と同日、集談会一般講演終了後、午前11時15分より開催されました。加藤副会長代理宮下の司会で開会、出席者89名、委任状27名計116名(会員数157名、過半数79名)で総会は成立、物故会員はないためすぐに議事に入りました。

## 1. 会長挨拶

稲葉会長の挨拶があり、小泉改革や医療事故報道で医療を囲む厳しい環境のなか、本年4月の点数改正では心配されていた白内障手術のマイナス改訂は何とか減点されないで済んだが次回はわからない。日本眼科医会も佐野会長勇退に伴い三宅会長の新体制になった。

栃木県眼科医会では、昨年も支障なく会務が円滑に遂行できた。学術関係は集談会2回、栃眼医研究会2回、第25回獨協眼科栃眼医合同講演会、眼科セミナー2回、下野眼科談話会を開催した。また昨年度は、4名の日眼専門医認定試験合格者があった。OMA試験も全員合格、栃眼医眼科医療従事者講習会も好評であった。保険関係も審査委員の連絡会を持って円滑な遂行を計った。公衆衛生は、10月5日(日)宇都宮保健センターで「目の無料相談」に85名、「目の健康講座」には、自治医大小幡博人講師による「涙の話 ドライアイと流涙症について」を御願ひして、ロビンソンの撤退で参加人数が少ないのではと心配されましたが好評でした。また栃木県アイバンク理事が4名「アイバンクコーナー」に参加いただいた。日本網膜色素変性症協会JRPS栃木支部総会での医学講話に講演し、日眼医の「CL診療所に関わる実態調査」に協力した。親睦ゴルフ、早津前会長、柏瀬前副会長慰労会、栃眼医忘年会、勤務医関係も円滑に遂行できました。会員の皆様のご協力に感謝

します。本年度も宜しく御願ひします。

## 2. 報告

- (1)平成15年度栃木県眼科医会会務報告  
宮下総務担当理事が行った。(内容は、別掲)
- (2)平成15年度栃木県眼科医会計報告  
(アイバンク募金集計報告も含めて)  
木村経理担当理事が行った。(内容は、別掲)
- (3)平成16年度第1回日眼医定例代議員会出席報告  
宮下予備代議員が行った。(内容は、本号に別掲)

## 3. 協議

- (1)平成16年度栃木県眼科医事業計画の件  
宮下総務担当理事が原案説明、承認された。  
(内容は別掲)
- (2)平成16年度栃木県眼科医会予算の件  
木村経理担当理事が、原案説明、承認された。  
(内容は別掲)

## 4. 健保研究会(新点数説明会)

吉澤保険担当理事の司会で、保険担当理事の浅原先生、社保審査委員の千葉先生、国保担当理事の水流、亀掛川先生に登壇していただき、新点数について眼科ではほとんど変化がない、臨床検査が減点され判断料がわずかにアップした。予めの会員からの質問事項に回答していただき、レセプトの電算化によるフロッピーでの提出では、今まで問題にならなかった同日再診時の検査減点という支払い側に有利なシステムになっている。その

他、熱心な質疑があり術前検査、術後検査や全身検査について現在の医学常識からもう少し認めるようにしてほしいなどの意見があった。

## 5. 閉会挨拶

総務担当理事の原先生から挨拶があり、12時40分に総会を終了した。



**これまで、これからも信頼と実績のジクロード**

水溶性非ステロイド性抗炎症点眼薬(ジクロフェナクナトリウム)製剤

**ジクロード®点眼液**

DICLOD® OPHTHALMIC SOLUTION

※資料請求先 わかもと製薬株式会社 学術部  
新薬開発部

〒303-8330 東京都中央区日本橋室町1丁目5番3号 2003.11.16

**特性**

- 強力なプロスタグランジン生成抑制作用を発揮します。
- 術後炎症に対し、ステロイドと同等もしくはそれ以上の抗炎症効果を発揮します。
- 術後のフィブリン析出を抑制します。
- 術後CMEの発現を抑制します。
- 術後発白内障の発現を抑制します。
- 副作用の発現率は1.34%(112/7396例)でした(承認時～再審査終了時)。  
主な副作用 眼紅腫：びまん性表層角膜炎0.78%(56例)、  
角膜炎びらん0.33%(24例)  
重大な副作用(頻度不明)として角膜炎、角膜穿孔があらわれることがあります。

**禁忌(次の患者には投与しないこと)**  
本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

●効能・効果  
白内障手術時における下眼症状の防止  
術後の炎症症状、術中・術後合併症

●用法・用量  
通常、眼手術前4回(3時間前、2時間前、1時間前、30分前)、眼手術後1日3回、1回1滴点眼する。

●使用上の注意

- 1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)  
点状表層角膜炎のある患者[角膜炎びらん、さらに角膜炎、角膜穿孔へと進行するおそれがある。]
- 2.重要な基本的注意  
目の感染症を不顕性化するおそれがあるため、観察を十分に行い、感染を起こした場合は投与を中止すること。
- 3.副作用  
(1)重大な副作用(頻度不明)  
角膜炎、角膜穿孔 角膜炎、角膜穿孔があらわれることがあるので、角膜炎びらん等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

禁忌を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意下さい。本剤のその他の使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照下さい。

# 平成15年度栃木県眼科医会会務報告

- 平成16年4月11日(日)
- 栃木県眼科医会総会

## 1. 総務関係

### (1) 会員数 (H16. 3. 31. 現在)

A会員57名、B会員65名、C会員31名、M会員4名、合計157名  
(他に「準」会員2名)

### (2) 会員の異動

#### 入会者 4名

C 石崎 こそえ (自治医大)  
C 青瀬 雅資 (獨協医大)  
C 阿久津 望美 (獨協医大)  
C 並木 滋土 (獨協医大)

#### 転入者 7名

B 鈴木 隆次郎 (上都賀総合病院) 茨城より  
B 千葉 益子 (上都賀総合病院) 千葉より  
C 松井 英一郎 (獨協医大) 千葉より  
B 堀 秀行 (自治医大) 神奈川より  
B 馬場 あゆみ (下都賀総合病院) 千葉より  
B 小坂 昇一 (佐野厚生総合病院) 東京より  
B 高橋 雄二 (自治医大) 静岡より

#### 退会者 0名

#### 転出者 11名

B 河合 正孝 (足利赤十字病院) 東京へ  
B 伊藤 由香 (自治医大) 埼玉へ  
B 中村 敏夫 (下都賀総合病院) 千葉へ  
B 吉田 紳一郎 (獨協医大) 北海道へ  
B 吉田 登茂子 (獨協医大) 北海道へ  
B 安楽 礼子 (宇都宮市) 鹿児島へ  
B 高橋 康子 (自治医大) 長野へ  
B 菊池 武邦 (塩谷総合病院) 宮城へ  
B 稲垣 陽子 (国立栃木病院) 東京へ  
B 里深 信吾 (足利赤十字病院) 東京へ  
B 田辺 和子 (自治医大) 愛知へ

#### 異動

##### ①勤務先及び自宅住所変更

B 斎藤 信一郎 (済生会宇都宮病院) 小山市 斎藤眼科医院へ  
A 斎藤 明郎 (小山市 斎藤眼科医院)  
B 斎藤 信一郎 (小山市 斎藤眼科医院)

##### ②勤務先変更

B 小口 和子 (済生会宇都宮病院) おおくほ眼科へ

##### ③勤務先名称変更

A 伊野田 繁 (黒磯市 医療法人アイアールズ伊野田眼科クリニック)  
B 斎藤 武久 (黒磯市 医療法人アイアールズ伊野田眼科クリニック)  
B 清水 由花 (黒磯市 医療法人アイアールズ伊野田眼科クリニック)  
A 稲葉 光治 稲葉眼科病院→稲葉眼科 (有床診療所)  
B 金子 禮子 〃 〃

##### ④会員種別変更

A→B 斎藤 武久 (黒磯市斎藤クリニック)  
B→A 伊野田 繁 (黒磯市斎藤クリニック)  
C→B 平野 麻衣子 (獨協医大)  
C→B 山田 篤子 (獨協医大)  
C→B 斎藤 麻里 (獨協医大)  
C→B 中村 敏夫 (下都賀総合病院)

##### ⑤会員種別変更、勤務先、自宅住所変更

B→A 堤 雅弘 (上都賀総合病院)  
鹿沼市に「つつみ眼科クリニック」新規開業  
B→A 大塚 信行  
栃木市に「さくら眼科クリニック」新規開業

##### ⑥自宅住所変更

A 藤野 由紀子 (ふじの眼科クリニック)

##### ⑦改姓

B 木村 麻衣子 (獨協医大) 旧姓平野  
B 半田 益子 (上都賀総合病院) 旧姓千葉

### (3) 定例総会開催 (1回) H15. 4. 27. (日) 於: 自治医大

### (4) 理事会開催 (6回)

第1回 H15. 5. 14. (水) 於: 宇都宮市医師会館  
第2回 H15. 7. 16. (水) 〃  
第3回 H15. 9. 17. (水) 〃  
第4回 H15. 11. 19. (水) 〃  
第5回 H16. 1. 21. (水) 〃  
第6回 H16. 3. 17. (水) 〃

### (5) 中央及び関ブロ諸会議に出席

H15. 4. 5. (土) 平成15年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会  
H15. 4. 6. (日) (東京) 柏瀬、稲葉  
H15. 6. 21. (土) 平成15年度第2回日眼医定例代議委員会、定例総会  
H15. 6. 22. (日) (東京) 柏瀬、稲葉  
H15. 9. 7. (日) 日眼医全国支部長会議 (東京) 稲葉  
H16. 1. 18. (日) 日眼医代議員会総務常任委員会 (東京) 柏瀬  
H15. 5. 17. (土) 平成15年度第1回関ブロ支部長会議、関ブロ連絡協議会  
(横浜) 稲葉、柏瀬、早津  
H16. 3. 7. (日) 平成15年度第2回関ブロ支部長会議、関ブロ連絡協議会

(横浜) 稲葉、柏瀬、早津

(6)獨協医大、吉田紳一郎助教授送別会 (獨協医大主催) H15. 4. 25. (金)

(7)関東眼科学会運営委員会 H15. 5. 31. (土) (東京慈恵医大病院) 稲葉出席

## 2. 経理関係

### (1)栃木県アイバンクの献眼運動協力募金

## 3. 学術関係

### (1)栃木県眼科集談会

第45回 H15. 4. 27. (日) 於：自治医大 出席者96名 (他にORT 8名)

一般講演 6題

特別講演 飯島裕幸教授 (山梨大学)

演題「網膜疾患と静的自動視野」

第46回 H15. 10. 17. (金) 於：宇都宮市医師会館 出席者86名

一般講演 7題

特別講演 松島博之講師 (獨協医大)

演題「Foldable眼内レンズの最新情報」

### (2)栃木県眼科医会研究会

第29回 H15. 6. 20. (金) 於：ホテル東日本宇都宮

ファルマシアと共催 出席者63名

特別講演 1. 講師 山本哲也教授 (岐阜大学眼科)

演題「正常眼圧緑内障の診断と治療」

2. 講師 大木孝太郎先生 (大木眼科)

演題「角膜内皮保護という視点から見た白内障手術」

第30回 H16. 1. 16. (金) 於：宇都宮グランドホテル

わかもと製薬と共催 出席者57名

特別講演 1. 講師 高村悦子助教授 (東京女子医大)

演題「アレルギー性結膜炎 鑑別診断と治療のポイント」

2. 講師 田中住美教授 (帝京大学医学部眼科)

演題「裂孔原性網膜剥離の診断概念の問題点」

### (3)第25回獨協眼科栃眼医合同講演会

H15. 7. 25. (金) 於：獨協医大 出席者76名

1. 香川医科大学眼科教授 白神史雅先生

「網膜静脈閉塞症の外科的治療」

2. 淀川キリスト教病院眼科 張野正誉先生

「網膜静脈閉塞症の内科的治療 (EBMとその問題点について)」

### (4)栃木眼科セミナー

第8回 H15. 9. 12. (金) 於：ホテル東日本宇都宮 出席者41名

昭和大学藤が丘病院眼科教授 谷口重雄先生

演題「白内障手術 最近の話題から」

第9回 H16. 2. 13. (金) 於：小山グランドホテル 出席者48名

名古屋大学眼科教授 寺崎浩子先生

演題「加齢黄斑変性の画像診断と治療の現状」

### (5)第14回下野眼科談話会

H16. 3. 26. (金) 於：小山グランドホテル 出席者60名

一般講演 5題

特別講演 岩手医科大学眼科教授 田沢豊先生

演題「白内障手術・過去から未来に向けて」

### (6)第15回日眼専門医認定試験合格者 (当県分4名)

小坂 昇一 (佐野厚生総合病院) 高橋 康子 (自治医大)

千葉 益子 (上都賀総合病院) 山田 篤子 (獨協医大)

## 4. コメディカル

### (1)第25回OMA講習会、OMA試験

講習会は関東各県共同主催 (於：帝京大) で実施され、当県より27名が受講した。試験はH15.

5. 17. (土) 26名が受験、全員合格 (1名欠席)

### (2)第26回コメディカル講習会、コメディカル試験 受講申込者45名

### (3)栃眼医眼科医療従事者講習会開催

H15. 11. 16. (金) 於：とちぎ健康の森講堂

参天製薬、AMOジャパン (株) 共催

出席 会員13名、コメディカル126名、計139名

講師及び演題

1. 京都府立医大 横井則彦 助教授

「コンタクトレンズ装用眼のドライアイとその対策」

2. 自治医大 原 岳 講師

「緑内障患者との付き合い方」

## 5. 保険関係

### (1)中央及び関ブロの会議に出席

H15. 5. 17. (土) 関ブロ健康保険委員会 (横浜) 千葉、吉沢 (徹)

H15. 5. 25. (日) 日眼医全国審査委員連絡協議会 (東京) 早津

H15. 10. 26. (日) 日眼医各支部保険担当理事連絡会 (東京) 吉沢 (徹)

### (2)健保研究会

H15. 4. 27. (日) 栃眼医総会と同時開催

H15. 10. 17. (金) 栃眼医集談会と同時開催

### (3)栃木県社保国保審査委員 (眼科) 連絡会

H15. 7. 18. (金) 宇都宮市医師会館

社保審査委員：千葉、永田、斎藤 (武)

国保審査委員：水流、亀卦川

前社保審査委員：早津

H15. 11. 27. (木) 宇都宮市医師会館

千葉、永田、斎藤 (武)、水流、亀卦川

## 6. 広報関係

- (1)栃木県眼科医会報（第30号）発行（平成15年7月）  
栃木県眼科医会報（第31号）発行（平成15年12月）

(2)理事会だより（6回）発行

(3)関プロ会報編集会議（横浜）出席 城山

(4)関プロ会報に「会長のことば」「支部だより」投稿

(5)栃木県医師会報第5号に「会長就任挨拶」掲載

(6)栃眼医会報編集会議開催

H15. 9. 17.（水）理事会終了後 第31号、編集、広告費について  
出席：稲葉、加藤、城山、千葉、早津、宮下

H16. 3. 10.（水）於：稲葉眼科 第32号、栃眼医50周年記念特集号について  
出席：稲葉、早津、鈴木（光）、城山、千葉

## 7. 学校保健関係

(1)中央の会議に出席

全国眼科学校医連絡協議会 H15. 7. 20.（日）（東京）出席 苗加

(2)栃木県眼科学校医実態調査アンケート実施、結果を栃眼医会報32号に掲載予定

(3)県医師会学校医研修会 眼科学校医の職務を中心として H15. 8. 17.（日）  
出席 苗加

## 8. 公衆衛生関係

(1)栃眼医公衆衛生部会開催（会場下見、打ち合わせ）

H15. 8. 9.（土）宇都宮市保健センター 原（裕）、斎藤（武）、参天製薬

(2)目の愛護デー行事開催 H15. 10. 5.（日）於：宇都宮市保健センター

①記念行事

「目の無料相談」「目の健康講座」実施

相談会に85名、目の健康講座に58名 来場

相談会 10時～13時

参加会員：相談医 堤、大塚、斎藤（信）、松島（博）

健康講座 13時30分～15時

講師：自治医大 小幡博人講師

演題「涙の話 ドライアイと流涙症について」

参加栃眼医役員：稲葉、斎藤（武）、加藤、宮下、原（裕）、福島

栃木県アイバンク理事：4名「アイバンクコーナー」

②広報活動

・下野新聞に寄稿 9月29日 上田昌弘理事

・新聞意見広告 下野、朝日各紙

・宇都宮市の広報誌「うつのみや」、栃医新聞、宇医会報に「目の愛護デー記念行事」の案内を掲載

(3)日本網膜色素変性症協会JRPS栃木県支部総会医学講話

H15. 6. 15.（日）於：宇都宮市総合福祉センター 広瀬理事 講演

H15. 10. 19.（日）於：小山市県南健康福祉センター 原（裕）理事 講演

(4)献眼募金箱（栃木県アイバンク）を各眼科受付に設置し募金運動に協力

(5)栃木県献眼者慰霊祭 H15. 11. 9（日）

宇都宮市八幡山公園献眼顕彰碑前 出席 稲葉

(6)栃木県アイバンク理事会出席

第3回：H15. 5. 10.（土）第4回：H15. 12. 6.（土）出席 稲葉

## 9. 医療対策関係

(1)日眼医のCL診療所に関わる実態調査に協力

## 10. 福祉関係

(1)栃眼医親睦ゴルフコンペ

第59回 H15. 11. 30.（日） 桃里C. C. 13名参加

優勝：高橋佳二 準優勝：斎藤信一郎

(2)早津前会長、柏瀬前副会長慰労会

H15. 6. 6.（金）於：宇都宮東武ホテルグランデ

出席者 A会員29名、B会員9名、業者14名、計53名

(3)栃眼医忘年会開催

H15. 12. 5.（金）於：ホテルニューイタヤ 出席者 会員33名、業者3名

(4)平成14年度日眼医眼科医事紛争事例調査実施

栃木県内該当なし

## 11. 勤務医関係

(1)中央および関プロ会議に出席

H15. 5. 17.（土） 関プロ勤務医委員会（横浜） 上田

H15. 11. 9.（日） 日眼医全国勤務医連絡協議会（東京） 上田

## 12. 日本眼科医連盟関係

(1)日眼医連盟協議委員会

H15. 9. 7.（日）（東京） 稲葉出席

(2)本年度連盟会費納入者（当県分） 132名 納入率 85%

平成15年度 栃木県眼科医会報会計報告

平成15年度 栃木県眼科医会会計報告

自平成15年4月1日～至平成16年3月31日

|     |                |            |
|-----|----------------|------------|
| 収 入 | 前年度よりの繰越金      | 459,459円   |
|     | 広告料 第30号 (20社) | 475,000円   |
|     | 第31号 (18社)     | 415,000円   |
|     | 利 息            | 9円         |
| 合 計 |                | 1,349,468円 |

|     |          |          |
|-----|----------|----------|
| 支 出 | 印刷代 第30号 | 515,970円 |
|     | 第31号     | 406,560円 |
|     | 郵便・宅配料   | 49,760円  |
|     | 印紙代      | 2,000円   |
|     | 消耗品      | 5,290円   |
| 合 計 |          | 979,580円 |

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 収 入 | 1,349,468円            |
| 支 出 | 979,580円              |
| 残 高 | 369,888円 (平成16年度に繰越し) |

平成16年3月31日  
 栃木県眼科医会報編集委員長 城山力一 ㊟

収入の部

| 費 目      | 平成15年度<br>予 算 | 平成15年度<br>決 算 | 比 較     |     | 備 考                  |
|----------|---------------|---------------|---------|-----|----------------------|
|          |               |               | 増       | 減   |                      |
| 1 日眼医会費  | 35,000        | 35,000        | —       | —   | C×5                  |
| 2 関プロ分担金 | 350,000       | 357,000       | 7,000   | —   | A×53 B×59<br>C×27    |
| 3 栃眼医会費  | 2,400,000     | 2,544,000     | 144,000 | —   | A×53 B×59<br>C×27 準× |
| 4 入 会 金  | 100,000       | 200,000       | 100,000 | —   | 堤 雅弘・大塚信行先生          |
| 5 補 助 金  | 100,000       | 100,000       | —       | —   | 栃木県医師会               |
| 6 そ の 他  | 1,000         | 651           | —       | 349 | 銀行利子                 |
| 7 繰 越 金  | 787,115       | 787,115       | —       | —   |                      |
| 合 計      | 3,773,115     | 4,023,766     | 250,651 | —   |                      |

支出の部

| 費 目      | 平成15年度<br>予 算 | 平成15年度<br>決 算 | 比 較     |         | 備 考               |
|----------|---------------|---------------|---------|---------|-------------------|
|          |               |               | 増       | 減       |                   |
| 1 日眼医会費  | 35,000        | 35,000        | —       | —       | C×5               |
| 2 関プロ分担金 | 350,000       | 357,000       | 7,000   | —       | A×53 B×59<br>C×27 |
| 3 事務通信費  | 650,000       | 982,429       | 332,429 | —       |                   |
| 4 総会学会補助 | 1,000,000     | 818,270       | —       | 181,730 |                   |
| 5 出張費    | 700,000       | 425,000       | —       | 275,000 |                   |
| 6 会議費    | 600,000       | 528,075       | —       | 71,925  | 理事会6回<br>保険部会2回   |
| 7 慶弔費    | 100,000       | 101,000       | 1,000   | —       |                   |
| 8 予備費    | 100,000       | —             | —       | 100,000 |                   |
| 9 そ の 他  | 100,000       | 100,000       | —       | —       | 事務局御礼             |
| 合 計      | 3,635,000     | 3,346,774     | —       | 288,226 |                   |

4,023,766円 - 3,346,774円 = 676,992円 (平成16年度へ繰越し)

上記決算報告を監査し、適正な事を認証する。

平成16年4月1日 栃木県眼科医会監事 田口太郎 ㊟  
 原 孜 ㊟

# 平成15年度 医事対策費及び日本眼科医連盟会費収支決算報告

自平成15年4月1日～至平成16年3月31日

## 1. 平成15年度医事対策費決算報告

### 収入の部

| 費目    | 平成15年度<br>予算 | 平成15年度<br>決算 | 比較      |   | 備考                      |
|-------|--------------|--------------|---------|---|-------------------------|
|       |              |              | 増       | 減 |                         |
| 1 対策費 | 2,300,000    | 2,415,000    | 115,000 | — | A×53 B×59<br>準×         |
| 2 その他 | 56,000       | 66,061       | 10,061  | — | 日眼医連盟 66,000<br>銀行利子 61 |
| 3 繰越金 | 3,928,513    | 3,928,513    | —       | — |                         |
| 合計    | 6,284,513    | 6,409,574    | 125,061 | — |                         |

### 支出の部

| 費目      | 平成15年度<br>予算 | 平成15年度<br>決算 | 比較 |         | 備考           |
|---------|--------------|--------------|----|---------|--------------|
|         |              |              | 増  | 減       |              |
| 1 事務通信費 | 2,000        | 16,680       | —  | 320     |              |
| 2 新聞広告  | 1,500,000    | 1,435,875    | —  | 64,125  | 下野新聞<br>読売新聞 |
| 3 その他   | 250,000      | 194,379      | —  | 55,621  | 目の愛護デー補助     |
| 合計      | 1,752,000    | 1,631,934    | —  | 120,066 |              |

6,409,574円－1,631,934円＝4,777,640円（平成16年度へ繰り越し）

## 2. 平成15年度日本眼科医連盟会費収支決算報告

| 収入           | 金額        | 支出              | 金額        |
|--------------|-----------|-----------------|-----------|
| A会員×52       | 520,000   | 第1回送金平成15年12月3日 | 1,080,000 |
| B会員×56       | 560,000   | 第2回送金平成16年3月16日 | 220,000   |
| C会員×22       | 220,000   |                 |           |
| 交付金（納入額の約5%） | 66,000    | 交付金を医事対策費へ      | 66,000    |
| 合計           | 1,366,000 | 合計              | 1,366,000 |

上記決算報告を監査し、適正な事を認証する。

平成16年4月1日

栃木県眼科医会監事

田口太郎 ㊟

原 孜 ㊟

# 平成16年度 栃木県眼科医会事業計画

## 1. 総務部

- (1)定例総会開催（1回）
- (2)理事会開催（6回）
- (3)日眼医支部長会議、代議員会への出席と会議内容の会員への伝達
- (4)関プロ眼科医会連合会の各種会議への出席と会議内容の会員への伝達
- (5)日眼及び日眼専門医制度委員会連絡事務
- (6)当会のあり方、会務全般に関する近代化の検討
- (7)第21回関東眼科学会（会長 水流忠彦教授）への協力

## 2. 経理部

- (1)適正な会費の検討及び会費徴収法等の合理化の検討

## 3. 学術部

- (1)栃木県眼科集談会の開催（2回）
- (2)独協医大眼科栃眼医合同講演会の開催
- (3)栃木県眼科医会研究会、その他の生涯教育活動（講演会、症例検討会等）の企画、開催、後援
- (4)生涯教育用ビデオの貸し出し
- (5)各種学会その他の学術行事に関する会員への案内

## 4. コメディカル部

- (1)眼科コメディカル講習会の開催
- (2)眼科コメディカル既合格者、眼科看護師等に対する生涯教育の開催
- (3)眼科コメディカル講習会スライド複製の貸出し

## 5. 保険部

- (1)全国審査委員連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)各支部健保担当理事連絡会出席と会議内容の会員への伝達
- (3)審査委員との連絡強化と適正な保険医療の検討
- (4)健保研究会、及び勤務医会員、新規開業会員対象の保険診療講習会の開催
- (5)点数改正説明会の開催
- (6)保険診療の手引き発行
- (7)社保国保審査委員連絡会開催
- (8)栃眼医審査委員推薦委員会設置

## 6. 広報部

- (1)会報発行（年2回）
- (2)理事だより発行（年6回）
- (3)会員名簿発行
- (4)会員への電話連絡網の整備
- (5)関プロ会報編集会議への出席
- (6)一般対外啓蒙活動の推進（検眼、CL取り扱いに関する正しい知識、視力回復センター等に関する啓蒙活動等）

## 7. 学校保険部

- (1)全国眼科学校医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)眼科学校健診のあり方の再検討及び受診報告書の県内統一の検討
- (3)健康相談としての色覚検査への積極的取り組み
- (4)学校保険委員会の活用と養護教諭への啓蒙活動の推進

## 8. 公衆衛生部

- (1)目の愛護デー行事、特に目の無料相談の実施
- (2)市民公開講座の実施
- (3)3才児検診への協力
- (4)アイバンク事業への協力
- (5)県感染症サーベイランス事業への協力
- (6)栃木県眼科地域医療計画、特に眼科救急医療体制の確立
- (7)糖尿病に関する病診連携の推進

## 9. 医療対策部

- (1)非医師の医業類似行為問題、特にコンタクトレンズ違法処方事例への対応
- (2)薬事法改訂に伴うコンタクトレンズ診療への取り組み方への対応

## 10. 福祉部

- (1)諸種会員親睦行事の企画、実施  
ゴルフ（2回）、麻雀（1回）、その他の趣味の会の開催、懇親会、忘年会等の企画
- (2)医療事故防止対策
- (3)医業経営、特に税制問題の検討
- (4)全日本眼科医ゴルフ選手権の後援

## 11. 勤務医部

- (1)勤務医会員の抱える諸問題の検討
- (2)栃木県眼科手術談話会の開催
- (3)全国勤務医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達

平成16年度 栃木県眼科医会収支予算

収入の部

| 費目       | 平成15年度<br>予算 | 平成16年度<br>予算 | 比較      |         | 備考     |
|----------|--------------|--------------|---------|---------|--------|
|          |              |              | 増       | 減       |        |
| 1 日眼医会費  | 35,000       | 28,000       | —       | 7,000   |        |
| 2 関プロ分担金 | 350,000      | 350,000      | —       | —       |        |
| 3 栃眼医会費  | 2,400,000    | 2,450,000    | 200,000 | —       |        |
| 4 入会金    | 100,000      | 100,000      | —       | —       |        |
| 5 補助金    | 100,000      | 100,000      | —       | —       | 栃木県医師会 |
| 6 その他    | 1,000        | 500          | —       | 500     | 銀行利子他  |
| 7 繰越金    | 787,115      | 676,992      | —       | 110,123 |        |
| 合計       | 3,773,115    | 3,705,492    | —       | 67,623  |        |

支出の部

| 費目       | 平成15年度<br>予算 | 平成16年度<br>予算 | 比較      |         | 備考    |
|----------|--------------|--------------|---------|---------|-------|
|          |              |              | 増       | 減       |       |
| 1 日眼医会費  | 35,000       | 28,000       | —       | 7,000   |       |
| 2 関プロ分担金 | 350,000      | 350,000      | —       | —       |       |
| 3 事務通信費  | 650,000      | 850,000      | 200,000 | —       |       |
| 4 総会学会補助 | 1,000,000    | 820,000      | —       | 180,000 |       |
| 5 出張費    | 700,000      | 550,000      | —       | 150,000 |       |
| 6 会議費    | 600,000      | 550,000      | —       | 50,000  |       |
| 7 慶弔費    | 100,000      | 100,000      | —       | —       |       |
| 8 予備費    | 100,000      | 50,000       | —       | 50,000  |       |
| 9 その他    | 100,000      | 100,000      | —       | —       | 事務局御礼 |
| 合計       | 3,635,000    | 3,398,000    | —       | 237,000 |       |

平成16年度 栃木県眼科医会医事対策費予算

収入の部

| 費目    | 平成15年度<br>予算 | 平成16年度<br>予算 | 比較      |   | 備考      |
|-------|--------------|--------------|---------|---|---------|
|       |              |              | 増       | 減 |         |
| 1 対策費 | 2,300,000    | 2,300,000    | —       | — |         |
| 2 その他 | 56,000       | 66,000       | 10,000  | — | 日眼医より助成 |
| 3 繰越金 | 3,928,513    | 4,777,640    | 849,127 | — |         |
| 合計    | 6,284,513    | 7,143,640    | 859,127 | — |         |

支出の部

| 費目      | 平成15年度<br>予算 | 平成16年度<br>予算 | 比較 |   | 備考       |
|---------|--------------|--------------|----|---|----------|
|         |              |              | 増  | 減 |          |
| 1 事務通信費 | 2,000        | 2,000        | —  | — |          |
| 2 新聞広告費 | 1,500,000    | 1,500,000    | —  | — |          |
| 3 その他   | 250,000      | 250,000      | —  | — | 目の愛護デー補助 |
| 合計      | 1,752,000    | 1,752,000    | —  | — |          |

平成16年度 栃木県眼科医会年会費

| 内訳    | A 会員    | B 会員    | C 会員   | 準会員     |
|-------|---------|---------|--------|---------|
| 関プロ会費 | 4,000円  | 2,000円  | 1,000円 | —       |
| 栃眼医会費 | 32,000円 | 13,000円 | 3,000円 | 32,000円 |
| 医事対策費 | 40,000円 | 5,000円  | —      | 40,000円 |
| 合計    | 76,000円 | 20,000円 | 4,000円 | 72,000円 |

平成16年度栃木県眼科医会会費納入のお願いが届き次第、お振込願います。

※ 自動振込機（ATM）からのお振込も可能ですのでご利用ください。

足利銀行 宇都宮中央支店 普通預金794352

栃木県眼科医会 会計 宮下浩（トチギケンガンカイカイ カイケイ ミヤシタ ヒロシ）

※ 尚、お振込の際、振込者氏名欄は所属病院名ではなく、個人名（フルネーム）にてお願い致します。

## 平成15年度 第2回栃木県社保国保審査委員連絡会開催報告

社保審査委員 千葉桂三 (獨協医大)

- 日時：11月27日 (金) 午後7時より
- 会場：宇都宮市医師会館 3F 会議室
- 出席者：(敬称略)  
 社保審査委員 千葉桂三、永田紀子、斎藤武久  
 国保審査委員 水流忠彦、亀卦川みどり

上記のように栃木県社保国保審査委員連絡会を開催いたしました。議題としては平成15年度各支

部健保担当理事連絡協議会報告の確認と、15年度全国審査員連絡会、関プロ連絡会を含めた投薬に関する事項の確認を協議いたしました。内容の一部を眼科診療Q & Aに記載いたしましたのでご参照ください。

今年度の栃木県社保国保審査委員連絡会は全国審査員連絡会 (5月30日) 後に開催いたします。

### 薬価基準収載

要指示医薬品 (注意—医師等の処方箋・指示により使用すること)

### 網膜・硝子体疾患治療剤

ヨウ素レシチン製剤

# ヨウレチン®

錠 100 $\mu$ g / 錠 50 $\mu$ g / 末



目はいのち

#### 薬理特性

ヨウレチンは網膜組織の新陳代謝を亢進することが実験的に確認された。  
 1. Warburg検圧法により網膜組織呼吸の亢進、網膜解糖系の亢進がみられた。(家兎)  
 2. 網膜電図による律動様小波の振幅増大、頂点潜時短縮がみられた。(家兎)  
 3. 網膜電図によるb波、C波の振幅の増大がみられた。(家兎)

#### 臨床特性

1. 長期間安定なヨウ素製剤である。  
 2. ヨウ素の投与量を微量に調整できる。  
 3. 長期間投与しても副作用が少なく、安全性が高い。

#### 効能・効果

中心性網膜炎、網膜出血、硝子体出血・混濁、網膜中心静脈閉塞症

#### 用法・用量

通常 ヨウ素として10 $\mu$ g/Kgを1日2～3回に分割経口投与します。成人は1日量300～600 $\mu$ g (ヨウレチン末として1.5～3g)を1日2～3回に分割投与します。  
 なお年齢、症状により適宜増減します。

#### 使用上の注意

- 次の患者には慎重に投与すること (1) 慢性甲状腺炎のある患者 (2) 治療後のバセドウ病のある患者 (3) 先天性の甲状腺ホルモン生成障害のある患者
- 副作用 (まれに:0.1%未満、ときに:0.1～5%未満、副詞なし:5%以上または頻度不明)
  - 過敏症 ときに薬疹があらわれることがある
  - 消化器 ときに軽度の胃腸障害があらわれることがある
- 妊婦への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊娠中または妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること



第一薬品産業株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-14-4  
 TEL03-3271-6773 FAX03-3271-0598

資料請求先  
 学術部

## 保険診療Q & A



## 眼科手術に関連する請求について

社保審査委員 千葉桂三 (獨協医大)

Q 1 緑内障疑いで降圧剤の点眼処方は可能でしょうか

A 1 疑い病名での投薬は認められておりません。緑内障、高眼圧症、正常圧緑内障などの病名が必要になります。他の疾患に関しても時々疑いで投薬、処置あるいは手術などの治療が請求されていることもありますのでご注意ください。

Q 2 白内障術前抗菌剤の点眼は可能でしょうか。

A 2 認められております。期間は約1週間とされております。しかし、レセプト上術前投与わかるように、手術予定日 (施行日) をレセプトに記入してご請求ください。特に手術が翌月で、投与は当月のような場合には必ずお書きください。

Q 3 術後抗菌剤や抗生物質の全身投与はいつまで可能でしょうか

A 3 一般的に白内障手術では5日程度、網膜硝子体手術で10日程度とされています。しかし術後の注射と内服の併用は必要がないとの見解があり、合わせて上記の日数と考えてください。

Q 4 術中の抗生物質の結膜下注射は認められるのでしょうか

A 4 注射薬剤料は請求できますが、手術日であ

れば手技料は請求できません。いくつかの施設で手術日の注射手技料や処置料の請求が見られます。眼局所注射を一回施行の場合、レセプトでは手術当日の施行と判断されます。麻酔は麻酔料で注射手技料ではありませんので請求できます。

Q 5 網膜硝子体手術や緑内障手術に粘弾性物質は請求可能でしょうか

A 5 現状では角膜移植術、白内障手術か眼内レンズ挿入術以外には算定できません。もちろん緑内障手術や網膜硝子体手術に白内障手術や眼内レンズ挿入術を併施した場合は算定できますが、診断名と併施手術名をはっきり記載して頂く必要があります。総量は1.5mlを超える場合は注射が必要で、最近その注射に「必要であったから使用」など記載が見られます。なぜ必要であったかを記載するべきであり、この注射では査定される場合がございます。

Q 6 オフサググリーンなど染色性物質の内境界膜や前囊染色は認められるのでしょうか

A 6 現状では認められておりません。しかし有用であるとの見解はあり、今後も使用可能となるよう努力します。

Q 7 ケナコルトの硝子体内注射は認められるのでしょうか

A 7 網膜硝子体手術時に使用することは認めら

れております。

Q8 眼精疲労にミドリンMは請求できるのでしょうか

A8 ミドリンやサンドール等は効能が「散瞳、調節麻痺」であり請求不可で、ミオピンは効能が「調節機能の改善」であり適応との事です。また、ビタミンB12製剤の点眼(サンコバなど)はもちろん良いわけですが、内服となりますとビタミン製剤は請求できません。B12製剤は末梢神経障害の診断での使用になります。ATP製剤は眼精疲労に適応がありますので使用できます。

Q9 漢方薬の使用に制限はあるのでしょうか

A9 最大2剤までにしてください。1剤の処方ですら留めるよう指導するようにとの見解で出ております。

Q11 FAGの際にアレルギー予防のためのステロイドは使用しても良いのでしょうか

A11 プリンベランなどは使用可能ですが、ステロイドの併用は認められていません。ショック時などはもちろん使用するべきですが、FAGの請求時の大多数に、ショックや蕁麻疹などの診断名をつけて請求するのは常識が疑われます。

Q12 薬剤性角膜上皮症でヒアレインミニは処方できるのでしょうか

A12 当然処方できるべき薬剤ではありますが、現状では算定できません。

Q13 点眼製剤にない注射薬を点眼に用いた場合、薬剤請求は可能でしょうか

A13 角膜真菌症に対するジフルカンや、MRSA等の前眼部感染症に対して感受性のある抗生物質の点眼薬がない場合は、注射薬を点眼として使用し薬剤料を算定できます。涙液減少症に対しての生理的食塩水も同様であると考えられますが注釈が必要です。



## 平成15年度関ブロ会報編集委員会報告

広報担当理事 城山力一(壬生町)

日時：平成16年2月8日(日)12時～14時

場所：新横浜プリンスホテル

出席者：神奈川県 相沢克夫(関ブロ世話人)  
秋元清一(関ブロ運営部担当副会長)  
種田芳郎(関ブロ運営担当理事)  
井出昌晶(関ブロ会計担当理事)  
岡田裕(編集委員長)  
茨城県 中村悦子(編集委員)  
栃木県 城山力一( )  
埼玉県 武藤政春( )  
群馬県 馬場敏生( )  
千葉県 広松正児( )  
長野県 三輪正人( )  
山梨県 荻原高士( )  
新潟県 高橋和也( )

### 議題

関ブロ会報33号の編集について

(1)発行予定日：平成16年5月中旬

(2)原稿締切日：平成16年3月末日

(3)内容

第40回関東甲信越眼科学会が平成16年7月3日、4日に開催されるため、表紙および巻頭挨拶を埼玉県が担当する。

第39回関東甲信越眼科学会印象記を神奈川県が担当する。

叙勲・表彰者は、長野県、群馬県、千葉県から提出される。

当県からは、支部報告(加藤晴夫先生)、支部長の言葉(稲葉光治会長)、文芸作品(柏瀬光寿先生の「仏様の足元で」)編集子囁言(城山力一)が掲載予定である。

# (株) 平和医用商会

代表者 代表取締役 柳瀬光雄

本社 〒331-0825 埼玉県さいたま市北区櫛引町2-185-6  
TEL 048-664-1503 FAX 048-652-5744

【宇都宮営業所】 〒321-0901 栃木県宇都宮市平出町1319-1  
TEL 028-662-2946

【東京営業所】 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-24-702  
TEL 03-5842-3501

### 営業案内

- 眼科用医療器械・器具・備品・眼内レンズ・消耗品全般取扱い
- 眼科光学器械の修理
- 眼科一般開業設備一式



# 栃木県眼科学校医実態調査報告

栃木県学校保健部 苗加謙応 (宇都宮市)

平成15年7月～8月に実施された眼科学校医についてのアンケート調査の集計結果について報告する。昭和56年以降栃木県眼科医会が独自に会員を対象に行ったものはなく、今回栃木県における眼科学校医の現状を把握するために行われた。

## 1. 調査方法

国会A.B.C会員全員に対しアンケートを送付し、郵送にて回収した。

## 2. 調査期間

平成15年7月に発送8月31日メ切とした

## 3. 調査結果

アンケート内容および結果を以下のグラフに示す。

## 4. 考案

今回のアンケートは主に次の7項目について調査するために行った。

- 1 会員一人当たりの担当学校数の妥当数について
- 2 報酬についての妥当性
- 3 学校医の定年制の必要性

- 4 眼科学校医の必要性
- 5 屈折検査の方法（裸眼視力測定のはず、オートレフの導入）
- 6 色覚検査の施行
- 7 学校保険委員会への参加

上記項目の中でも学校医の定年制については、保険医の定年制も検討されている時代の流れから、今後論議されていくべき問題と考えられる。また眼科学校医不要論が囁かれているなか、眼科医は積極的にその必要性をアピールしていく必要があると感じられた。

色覚検査については学校保険法の改正に伴い平成15年度より定期健康診断時の必須検査より削除され、希望者に対し健康相談として個別実施というかたちをとる事となったが、改正後間もないため十分に体制も整っておらず、その実施については課題が残る結果となった。今後教育委員会等への情報提供等を通して啓蒙していきたい。

なお、なかには検診のみならず、生徒にアンケートを行い、問題点について講和していらっしゃる熱心な先生もおられた。また斜視、弱視等の発見に力を入れるべきという意見が数件みられた。

最後に貴重な時間を割いてアンケートに協力して頂いた会員の皆様ありがとうございました。

## 1. 先生の身分につきご記入ください

|         |             |    |
|---------|-------------|----|
| (1)年齢   | ①29才以下      | 0  |
|         | ②30～39才     | 11 |
|         | ③40～49才     | 15 |
|         | ④50～59才     | 15 |
|         | ⑤60～69才     | 9  |
|         | ⑥70～79才     | 6  |
|         | ⑦80才以上      | 5  |
|         | 未回答         | 2  |
| (2)性別   | ①男          | 41 |
|         | ②女          | 19 |
|         | 未回答         | 3  |
| (3)会員種別 | ①A会員        | 39 |
|         | ②B会員：大学     | 7  |
|         | B会員：国公立病院   | 1  |
|         | B会員：私立病院診療所 | 13 |
|         | ③C会員        | 1  |
|         | 未回答         | 2  |

## 2. 現在、いくつ学校を受け持っていますか？

|         |    |
|---------|----|
| ①0校     | 21 |
| ②1～2校   | 5  |
| ③3～5校   | 9  |
| ④6～10校  | 18 |
| ⑤11～15校 | 6  |
| ⑥16校以上  | 2  |
| 未回答     | 2  |

## 3. 担当校数につきご解答ください

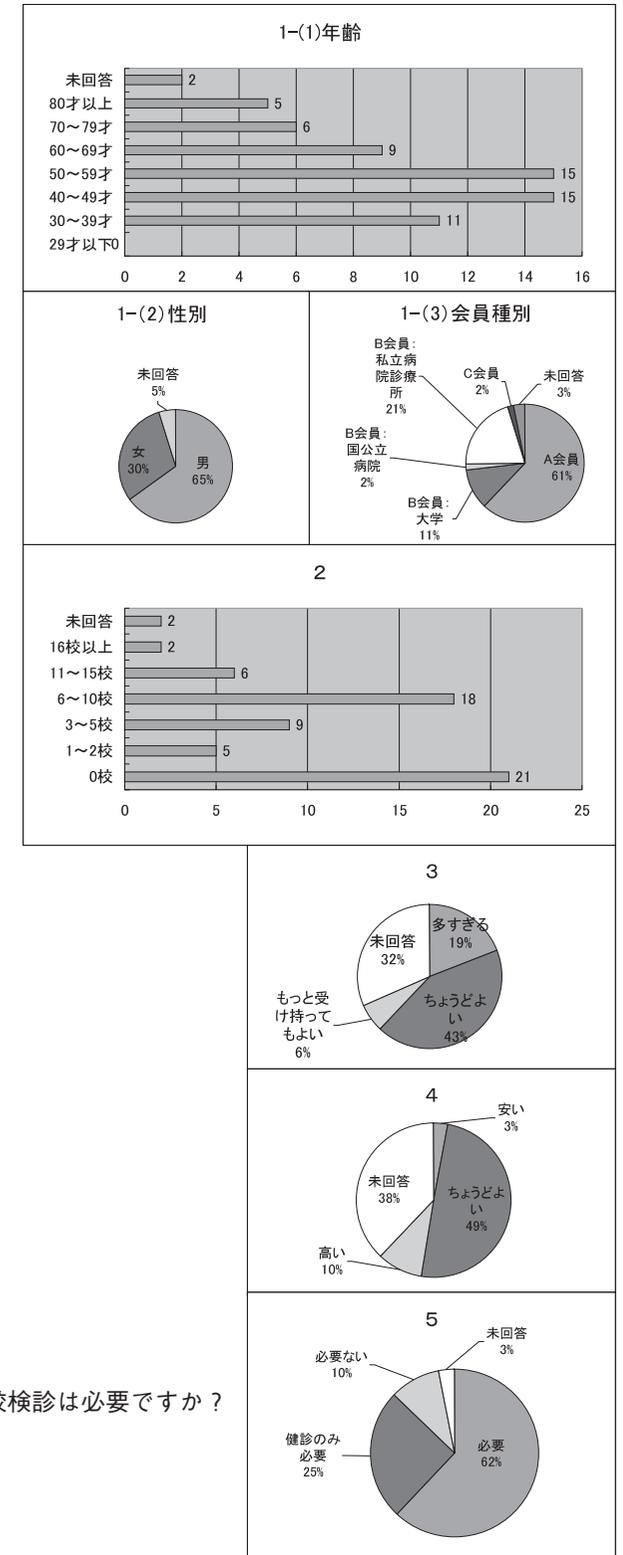
|              |    |
|--------------|----|
| ①多すぎる        | 12 |
| ②ちょうどよい      | 27 |
| ③もっと受け持ってもよい | 4  |
| 未回答          | 20 |

## 4. 給与につきご解答ください

|         |    |
|---------|----|
| ①安い     | 2  |
| ②ちょうどよい | 31 |
| ③高い     | 6  |
| 未回答     | 24 |

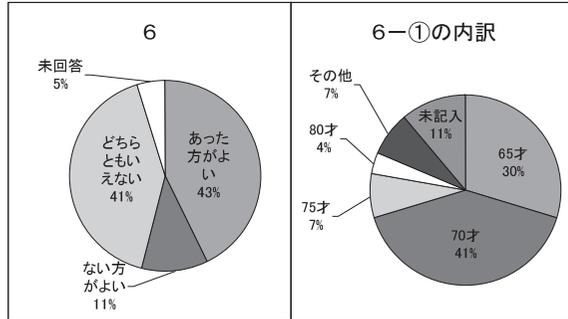
## 5. 眼科学校医は必要と思いますか？又、眼科学校検診は必要ですか？

|         |    |
|---------|----|
| ①必要     | 39 |
| ②健診のみ必要 | 16 |
| ③必要ない   | 6  |
| 未回答     | 2  |



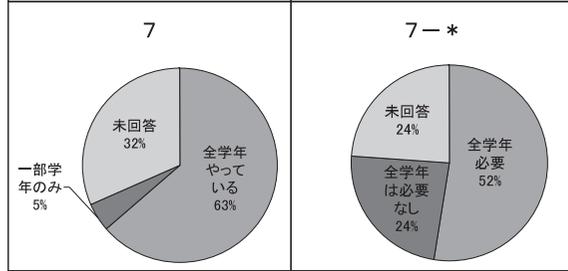
6. 眼科学校医の定年制はあった方がよいですか？

- ①あった方がよい 27
- 65才 8
- 70才 11
- 75才 2
- 80才 1
- その他 2
- 未記入 3
- ②ない方がよい 7
- ③どちらともいえない 26
- 未回答 3



7. 眼科定期健診は毎年全学年やっていますか？

- ①全学年やっている 40
- ②一部学年のみ 3
- 未回答 20

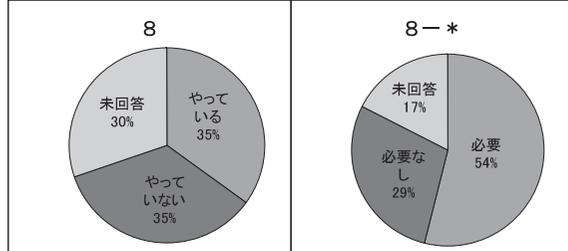


\*全学年実施する必要性は？

- ①全学年必要 33
- ②全学年は必要なし 15
- 未回答 15

8. 眼鏡CL常用者の裸眼視力測定について

- ①やっている 22
- ②やっていない 22
- 未回答 19

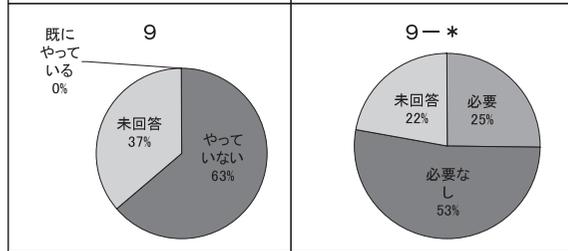


\*裸眼視力測定の必要性は？

- ①必要 34
- ②必要なし 18
- 未回答 11

9. 学校健診へのオートレフラクトメーター導入について

- ①既にやっている 0
- ②やっていない 40
- 未回答 23

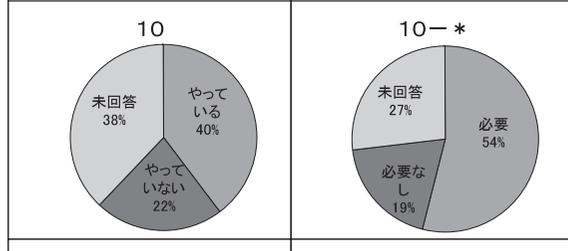


\*オートレフ導入は必要ですか？

- ①必要 16
- ②必要なし 33
- 未回答 14

10. 眼位、両眼視機能検査は？

- ①やっている 25
- ②やっていない 14
- 未回答 24

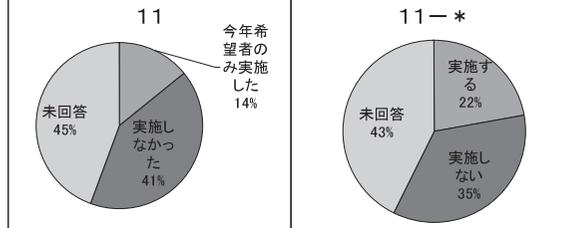


\*やる必要がありますか？

- ①必要 34
- ②必要なし 12
- 未回答 17

11. 色覚検査の希望者への実施について

- ①今年希望者のみ実施した 9
- ②実施しなかった 26
- 未回答 28



\*来年はどうしますか？

- ①実施する 14
- ②実施しない 22
- 未回答 27

12. 学校保健委員会への出席について

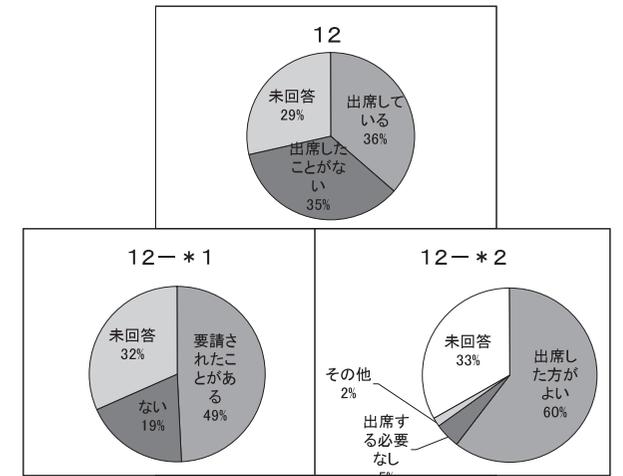
- ①出席している 23
- ②出席したことがない 22
- 未回答 18

\*出席の要請がありますか？

- ①要請されたことがある 31
- ②ない 12
- 未回答 20

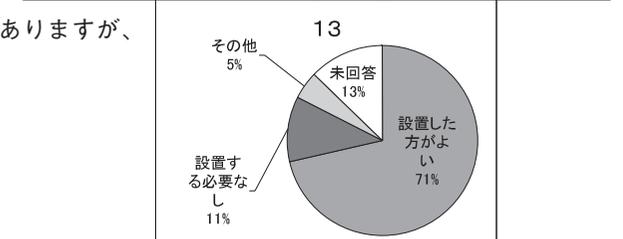
\*出席した方がよいと思いますか？

- ①出席した方がよい 38
- ②出席する必要なし 3
- その他 1
- 未回答 21



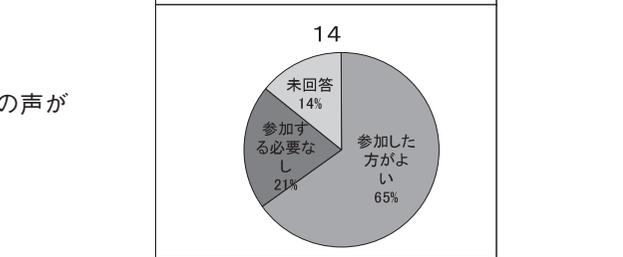
13. 栃木県内に眼科学校医不在の学校が10%以上ありますが、これらの学校への眼科学校医設置について

- ①設置した方がよい 45
- ②設置する必要なし 7
- ③その他 3
- 未回答 8



14. 勤務医会員にも学校保健に参加してほしいとの声がありますが、これについて

- ①参加した方がよい 41
- ②参加する必要なし 13
- 未回答 9





## 第4回全国勤務医連絡協議会出席報告

勤務医担当理事 上田 昌弘 (塩谷総合病院)

(詳しくは『日本の眼科』2004年3月号掲載の議事録を参照してください)

- 日 時：平成15年11月9日(日) 9:30~16:00
- 場 所：お茶の水ホテル聚楽
- 出席者：都道府県代表者46名  
勤務医委員(各ブロック代表者)11名  
日眼医役員18名

### ○講演1：「勤務医師の労働条件について」

(講師) 栗真保紀氏 (厚生労働省労働基準局)  
(要旨) 労働基準法の中で勤務医にかかわる部分について、詳しい解説があった。

労働基準法は、国立病院や国立大学附属病院等の国家公務員には適用されない。また、医長として病院の管理職になっている場合は、同法は適用されない。

労働基準法に定める「宿日直勤務」とは「常態としてほとんど労働する必要のない勤務」を意味する。例えば、病院の医師や看護師の「宿直」の場合、病院内の定時巡回や異常事態の報告、少数の要注意患者の定時検脈や検温など、特殊な措置を必要としない軽度のまたは短時間の業務に限られる。また「通常の勤務時間の拘束から完全に解放された後のものであること」や「夜間に十分睡眠がとれること」などの条件つきである。したがって、救急患者および急変した入院患者への対応や、患者の死亡、出産など、昼間と同態様の勤務では「宿日直勤務」とは認められず、「通常の勤務」として扱われるべきである。

上記の条件を満たす「宿日直勤務」であれば、その前後に「通常の勤務」を継続して行っても、法律上問題にはならない。

### ○講演2：「勤務医の労働条件ならびに救急医療に関する日医の考え」

(講師) 羽生田 俊氏 (日本医師会常任理事)  
(要旨) 日本医師会としては、眼科医といえども医師である以上、心肺蘇生を含む救急医療に積極的に取り組んでいただきたい。その理由は次のようなものである。

- ① 一般人を対象にした心肺蘇生法 (ACLS) の講習会が全国各地で行われるようになり、国民の救急医療に対する関心が高まってきている。
- ② 今年7月より、救命救急士は医師の指示なしに除細動を行うことができるようになった。今後、気管内挿管や輸液 (乳酸加リンゲル液に限る) も可能となるだろう。
- ③ 現在アメリカでは、一般人に除細動まで行わせようという動きがある。日本でも将来、一般人の心肺蘇生への役割 (権限) が拡大していくことが予想される。

このような背景の中で、医師である眼科医が「眼科医だから救命救急には対応しない」というのは、社会的に許されないだろう。

眼科医が他科の救急患者を診るときのストレスが大きいのはよく分かるが、全科当直や外科系当直にも積極的に取り組んでいただきたい。その際、眼科医が病院側とよく話し合っ、オンコール体制の整備などシステムの改善を図ってほしい。

勤務医の労働条件が悪化するなか、病院としては医師数を増やしたいところだが、増やせばそれに伴う人件費が増加して、現在の診療報酬では病院の経営・存続が成り立たないというのが現状である。日本医師会としては、総力をあげて保険点数の低下に歯止めをかけなければならない。

### ○平成15年度勤務医部事業報告

(秋澤尉子常任理事)

本年4月に行われた「年度途中移動会員の都道府県眼科医会会費徴収調査」の結果について報告があった。(47都道府県眼科医会より回答)

《年度途中の入会者の会費》

- ① 入会月等にかかわらず全額徴収：12府県 (このうち6県が、今後、移動前に支払済みの場合、免除減額の方であると回答した)
- ② 移動前の支部で支払済みの場合、免除：17都県
- ③ 入会月により減額もしくは免除：16道府県
- ④ 徴収しない：2県

(その他の報告事項は省略します)

### ○支部提出議題・要望事項に対する協議、回答 (司会：白井正一郎委員長)

(内容が多岐に渡るため省略します。『日本の眼科』2004年3月号をご覧ください)

その後、北原健二副会長による総評、続いて佐野七郎会長より「日本眼科医連盟設立の経緯とこれまでの活動内容」についてスライドを用いた説明があり、定刻に閉会となった。

外來・検査用品から手術器具・消耗品まで、スタンダードからアイデア製品まで全1000種以上取り扱いしております

Eye Instruments  
**HANDAYA CO.,LTD**

<http://www.handaya.co.jp>

株式会社 ほんだや 本社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8 Tel 03-3811-0087 Fax 03-3818-9695

## 平成15年度栃眼医忘年会開催報告

福祉担当理事 **松島 雄二** (佐野市)

平成15年度栃木県眼科医会忘年会は12月5日ホテルニューイタヤで行われた。

出席者は別表の如くでA会員15名、B会員12名、C会員6名、来賓3名の計36名でした。

稲葉会長の挨拶につづき、小原教授の音頭で乾杯があり、今年は立食パーティーで行われました。例年よりやや出席者が少なかったが、むしろ大変なごやかなうちに歓談の時間が過ぎ、その後本年の新入会員の紹介が行われた。

新入会員の先生は、

開業医では、早津元会長の長男、早津宏夫先生と柏瀬元副会長の長男、柏瀬光寿先生。

勤務医では、自治医大の竹澤美貴子先生。獨協医大の青瀬雅資先生、阿久津望美先生、並木滋士先生でした。

つづいてそれぞれの先生方のご挨拶がありましたが、特に柏瀬光寿先生のチベットでドライラマ14世に謁見され、診察までされた話など、大変めずらしい話も聞けて楽しい忘年会であった。

終わりに前会長早津尚夫先生の閉会の辞でお開きとなった。

本年はやや出席者が少なかったので次回はもっと大勢の先生方の懇親が出来るよう検討したいと思います。

### 忘年会出席者 (所属、敬称略)

旭 英幸、稲葉 光治、金子 禮子  
 田口 太郎、早津 尚夫、早津 宏夫  
 原 孜、福島 一哉、宮下 浩  
 吉沢 徹、斎藤信一郎、松島 雄二  
 柏瀬 宗弘、柏瀬 光寿、原 裕  
 斎藤 武久、原 正、廣瀬 裕子  
 城山 力一、鈴木隆次郎、森 樹郎  
 堀 秀行、竹澤美貴子、横山 由晶  
 小原 喜隆、千葉 桂三、高橋 佳二  
 鈴木 重成、松島 博之、新井 郁代  
 青瀬 雅資、阿久津望美、並木 滋士

計33名

## 第60回 栃眼医ゴルフコンペ報告

田口 太郎 (宇都宮市)

6年前の優勝のコメントに、これが最後の優勝と思うと述べておりました、以来参加することだけが楽しみの私に、全く予想外の出来事でした。

良い天気、良いパートナーに恵まれたことは勿論ですが、特権の赤マークからのTee Shotを許され、その権利を行使できる男性が私一人であることは、最高の条件でのラウンドでした。

お陰さまで、絶えて久しく叶うことのなかったミドルホール2オンや、ピン絡みのバーディのオマケまであって、コースを選んで下さった高橋先生には感謝感激、次回の幹事のコースの選定は慎重にしないでと本心を漏らしたところ、ご婦人方にご賛同をいただいた次第です。

パーティーの席上、今回は第60回の記念コンペ

で優勝杯の取りきり戦であったことを知らされ、新旧のカップを両腕に抱き喜色満面?の記念の写真まで頂戴しました。

最後になりましたが、幹事の高橋先生、ご協力いただいた参天さん、千寿さんお世話様でした。有難うございました。

優勝 田口 太郎

準優勝 松原 忠之

ドラコン 石崎 道治 松原 忠之

ニアピン 石丸 慎平 田口 太郎

ベスグロ 松島 雄二

(敬称略)



### ゴルフコンペ成績表

平成16年4月25日  
 イーストウッドCC

|   | NAME  | OUT | IN | グロス | HDCP | NET  |    | NAME  | OUT | IN | グロス | HDCP | NET  |
|---|-------|-----|----|-----|------|------|----|-------|-----|----|-----|------|------|
| 1 | 田口 太郎 | 48  | 53 | 101 | 24.0 | 77.0 | 6  | 澤野 宗顕 | 59  | 59 | 118 | 36.0 | 82.0 |
| 2 | 松原 忠之 | 46  | 52 | 98  | 22.8 | 75.2 | 7  | 松本 佳浩 | 65  | 55 | 120 | 36.0 | 84.0 |
| 3 | 松島 裕子 | 48  | 54 | 102 | 25.0 | 77.0 | 8  | 石丸 慎平 | 62  | 55 | 117 | 32.4 | 84.6 |
| 4 | 松島 雄二 | 45  | 41 | 86  | 7.0  | 79.0 | 9  | 石崎 道治 | 47  | 44 | 91  | 6.0  | 85.0 |
| 5 | 稲葉 恵子 | 55  | 52 | 107 | 25.0 | 82.0 | 10 | 松井英一郎 | 67  | 53 | 120 | 32.4 | 87.6 |



## コンタクト診療と法律

医療対策理事 旭 英 幸 (宇都宮市)

昨今のIT産業の発展、そしてそれに伴う複雑な情報化時代には、視覚に依存するものが多い。視覚とは、視力や色覚、そして立体視など更にある。多くの情報を得る為には、正確な屈折検査や、視力検査をはじめとする、視機能の十分な検索と身体的、精神的の把握も必要であることはいまでもない。

我々医師は、憲法第25条に②に（国は、すべての生活部面について、社会福祉社会保障及び公衆衛生向上及び増進に努めなければならない。）と、医師法第1条（医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活確保するものとする。）を遵守するように、義務付けられている。医師は、診療し治療にあたり患者を正確に導く為に必要に応じて、医薬品をはじめ、医療用具、医療機器を使用する。医療法第1条にも（医療を提供する体制の確保を図りもって国民の健康保持に寄与することを目的とする。）このような規則の基で我々医師は、診療にあたらなければならない。

国民が正当な医療を享受するために、今回薬事法の一部が改正されることとなった。この法律は、医薬品、医療用具、医療機器などが、誤ることなく患者に使用される事を目的としている。その薬事法の改正の一つに視力補正レンズ（コンタクトレンズ 以下CLという）の販売に関しても行われることとなった。

ではCLはいかなる状況のもとで使用されるものであるか、そしていかに正確かつ安全に扱われるものであるか。それは視力補正という目的ではあるが、その目的を達する為には、医学的根拠を基礎として行わなければならない。CLは、テレビをはじめとする多くのメディアなどの一般社会では簡単でかつ便利であり、ややもすると眼鏡よ

り手軽で優れていて、当然誰でも使用可能と思われがちである。しかしながらCLを開発、研究した先人達は、視力低下の補正として眼鏡のかわりに、視機能が充分得られるのではないかと、生理学、生化学、解剖学的に研究をして、そして我々に教えてくれた。我々も視力障害を訴える人々に快適で、危険のないよう、常に努力しているところである。

CLは、近視、遠視、乱視を始めとする、屈折異常の人に用い、また最近では調節異常の老視の人々にも朗報を与えつつある。また角膜形態異常の患者や、視力左右差の異常に対しても多く使用されている。医師として多くのCL製造メーカーから発売される、多種多様なCLを充分検討を加え、患者に適合したCLを紹介する。だがその前に充分過ぎるほど患者を診察診断し、CLの使用法短所長所の説明を行うことは云うまでもない。そして充分患者が理解された事を確認して処方、販売していたところである。最近CL使用者のなかには、小学生でも使用されていると多く発表されている。小学生がCLを使用することには決して反対ではないが、単に眼鏡装用では、スポーツの時など不利になるなど社会的要因で、簡単にCL装用にすることは反対である。現に小中学生のCL使用により、角膜障害やその他の眼疾患が散見されていることは、眼科医会などの調査でも明らかである。この事は成人のCL装用者でCL管理不足や定期検査を受けない場合でも起る事でも実証済みである。屈折矯正は、眼鏡やCLだけでなく、特に角膜レーザーの治療も最近では行われており、眼科医会として十分な検査規定を学会では設けているわけである。

眼鏡は、医師の診察診断がなくても処方販売はすでに、許可されており法律違反ではない。（検眼

行為について昭和29年11月4日 医取426）しかしその眼鏡処方においても、過矯正であったり、低矯正であったり、瞳孔間距離の不具にて頭痛や肩こりなど不定愁訴を訴えることもある。眼鏡の場合、眼球そのものに直接接触するものでないからといって、簡単に済ましてよいとは考えられない。CL処方は、矯正の誤りだけでなく、角膜の状態によっては重篤な合併症を引き起こす可能性は大であり、角膜だけでなく上下の眼瞼の状態を始めとする前眼部だけでなく、眼鏡処方と同じように眼底を含めた眼球全体、眼付属器までの診察が当然となってくる。正確な診断診察は、医師が与えられた使命であり、診察は医療施設で法に則って行わなければならないはずである。（CL取り扱いについて 昭和33年8月28日 医発686）

今回薬事法の改正は、販売許可が必要でその許可は、実務経験や講習会で認可されるとなっている。また特に国家認定資格というものはなく、それだけでCLのみの販売可能は、CLを単に物品であり、医療用具とは考えられていない法律と思われる。CL販売するには、先に述べたように充分な診察診断が必要である。CL販売は、販売のみであり診察は含まれていないし、今回の薬事法改正ではまったく医師の診察に関しては、度外視されている。また医療施設でなければ医療行為とはみなされず、単なる検査として行政では処理さ

れている。CLをCL使用者に渡すことは、決して物品の販売ではなく医師法、医療法そして薬事法の3つの法律が相俟って行われなければならないのではないのか。医師の立場として、CL販売の許可、つまり薬事法に則った構造的医院の建築ははなはだ難しいし、患者さんへの対応に関しても且つ又信頼にそぐわないのではないのか。県薬務課は、CLの販売に関して、CLの処方箋を発行すればよいと考えているが、医師法第22条②に処方箋交付の義務のなかに、（処方箋交付することが、診療又は疾病の予後について患者に不安を与え、その疾病の治療に困難にすることある場合処方箋の発行を拒否できる）という文言がある。この事は、CL使用者の身体的安全を考慮して医師が行えることで、CL使用者の中には正しくないCL装用者も居るからである。また医薬品の場合と違い現行の保険医療体制において、CL処方箋にして関するの明らかな定義もみられない。このようにしてCL販売のみでの薬事法改正に関しては、医師と患者の信頼関係巧く結ぶことが極めて困難である。以上のようにCL販売が先に来て、医師の診断診察が後回しとなる今回の薬事法の改正には些か疑問である。更に患者と医師の間にも深い溝が出来かねない。

医師の診察は、淵玄なるもので、また淵塞でなければならないと私は思う。



## 留 学 報 告

獨協医科大学眼科学教室 菊池通晴

ご無沙汰しております。私は、2002年8月よりハーバード大学医学部スケペンス眼研究所に留学させて頂いております。研究所のあるマサチューセッツ州ボストンはアメリカ東部にある都市圏人口約500万人の都市です。住民は白人系が主で、英国移民やイタリア移民、そしてケネディー等のアイルランド移民が多いようです。ヨーロッパからの清教徒が上陸の第一歩を標した合衆国発祥の地でもあり、独立・建国の舞台ともなりました。今では、古き良き時代のヨーロッパの香りを残す全米有数の観光地でもあります。また、ハーバード大、マサチューセッツ工科大、ボストン大学を始めとする、80を超える大学群がもう一つのボストンの特徴と言えるかもしれません。当研究所は 全

米最大の眼専門研究施設で、研究員は基礎、臨床研究部門合わせて約90人が在籍しております。ここで私は角膜内皮細胞の世界的権威であるDr. Nancy Joyceのご指導の下、角膜内皮細胞に関する増殖抑制因子の検討を研究テーマとして、日々忙しい毎日を送っております。留学生活も残り僅かとなり、帰国後の臨床面での不安も感じております。至らない点が多いかと思いますが、栃木県眼科医会の先生方の暖かいご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、今回留学の機会を与えて頂いた小原教授、千葉先生、妹尾先生を始めとする諸先輩方、様々な面で支えて頂いた同僚の皆様方にこの場を借りて、厚くお礼申し上げます。



## 新規開業のご挨拶

大柳内科・眼科 大柳静香(石橋町)

平成16年4月21日に下都賀郡石橋町に開業させて頂きいただきました大柳静香と申します。

平成3年に福島県立医科大学を卒業し、同大学眼科学教室で5年間研修しておりました。結婚・出産を機に平成8年に獨協医科大学眼科学教室に入局、研修させて頂き、それ以来栃木県眼科医会の諸先生方にもお世話になっております。

獨協医科大学の先生方には、産休直後という扱いつらい時期であったにもかかわらず快く受け入れてくださり、今までなんとか仕事を続けてこられました。これも小原教授始め医局の諸先生方のおかげと感謝に絶えません。

その後平成10年から宇都宮社会保険病院、平

成13年から石橋総合病院の眼科医長として勤務しておりました。

私は石橋町で生まれ育ってまいりました。その慣れ親しんだ町で勤務する幸運に恵まれ、住民のみなさんの温かい情にふれることが、できました。いままでいくつかの病院で勤務させて頂きましたが、これは他の病院では得られなかった喜びであり、地元の皆さんにより気軽に利用していただける医療施設を、と考へ、今回開業に至りました。しかしまだ若輩者で至らぬ点が多いと思いますので、今後ともどうぞご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



NOVUS® *varia*™ ノーバスヴァリア



株式会社 日本ルミナス

本社：〒108-0071 東京都港区白金台3-19-1 第31興和ビル Tel: 03-5789-8300 Fax: 03-5789-8310



## 自治医大の近況

自治医大眼科医局長 牧野伸二

平素より、栃木県眼科医会の先生方にはたいへんお世話になりありがとうございます。自治医大の近況をご報告させていただきます。

臨床面では一般外来および角膜、ぶどう膜、緑内障、網膜硝子体、弱視斜視の専門外来をより一層充実させるよう心がけているところでございます。病棟業務では電子カルテ導入に向けての準備が進行しており、慣れるまでには紆余曲折がある予感がしております。

現在医局は、5月15日、16日の2日間、東京砂防会館で開催される第21回関東眼科学会の準備に奔走する毎日です。栃木県眼科医会の先生方には多大なご支援をいただき誠にありがとうございます。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

さて、いよいよ新しい臨床研修医制度がスタートします。研修医マッチングの結果に一喜一憂しているところも多いかもしれませんが、当科でも

研修内容、研修体制を模索しているところです。その前提として、指導する側と指導される側の気概が必要不可欠となりますが、少なくとも、他のスタッフ、職種、特に患者さんとのコミュニケーションがうまくとれない人が出ないように指導したいものだと考えております。必須診療科の研修はもちろん、選択診療科の研修もどうなるか判然としませんが、いずれにしても、これから数年間はどこの大学も新入局員がゼロになり、厳しい医局運営を迫られることとなります。しかし、これは社会構造が激変している現在、大学だけに別行動が許されるわけでもなく、また、しばしば問題にされる医局制度のもとで社会からの目も気にしないといけないことなのでしょう。

医局員一同、これまでに増して日々の診療に丸となってあたりたいと考えておりますので、今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 会務日誌

(平成15年11月～平成16年4月)

平成15年

11月9日(日)

- 日眼医全国勤務医連絡協議会  
(お茶の水ホテル聚楽) 上田出席
- 栃木県アイバンク献眼者慰霊祭  
(宇都宮市八幡山公園) 稲葉出席

11月16日(日)

- 平成15年度栃木県眼科医療従事者講習会  
(とちぎ健康の森講堂 参天製薬、AMOジャパン共催)  
講師および演題  
1) 京都府立医大 横井則彦助教授  
「コンタクトレンズ装用眼の  
ドライアイとその対策」  
2) 自治医大 原 岳講師  
「緑内障患者との付き合い方」  
会員13名、コメディカル126名 計139名出席

11月19日(水)

- 第4回栃眼医理事会(宇都宮市医師会館)  
稲葉、加藤、宮下、大久保、井上、吉沢、城山、苗加、旭、松島、上田、木村、福島、小幡、妹尾、千葉、浅原、永田、廣瀬、早津、田口  
21名出席

11月27日(木)

- 平成15年度第2回栃木県社保国保審査委員連絡会  
(宇都宮市医師会館)  
永田、千葉、斎藤(武)、水流、亀卦川 出席

11月30日(日)

- 第59回栃眼医親睦ゴルフコンペ(桃里C.C.)  
13名参加 優：高橋(佳)、準：斎藤(信)

12月5日(金)

- 栃眼医忘年会(ホテルニューイタヤ) 36名出席

12月6日(土)

- 栃木県アイバンク理事会(明治屋)  
稲葉出席

12月20日(土)

- 栃眼医会報第31号完成配布

平成16年

1月16日(金)

- 第30回栃眼医研究会  
(わかもと製薬共催、宇都宮グランドホテル)  
57名出席

講師および演題

- 1) 東京女子医科大学眼科 高村悦子助教授  
「アレルギー性結膜炎  
—鑑別診断と治療のポイント—」
- 2) 帝京大学医学部田中佳美教授  
「裂孔原性網膜剥離の診断概念の問題点」

1月18日(日)

- 日眼医代議員会総務常任委員会(日眼医会議室)  
柏瀬出席
- 第26回眼科コメディカル講習会開講(帝京大学)  
栃木県より45名受講

1月21日(水)

- 第5回栃眼医理事会(宇都宮市医師会館)  
稲葉、加藤、斎藤(武)、宮下、大久保、井上、吉沢、城山、苗加、原(裕)、旭、松島、上田、木村、小幡、千葉、亀卦川、浅原、永田、廣瀬、早津、柏瀬、田口、水流  
24名出席

2月8日(日)

- 関プロ会報編集委員会(新横浜プリンスホテル)  
城山出席

2月13日(金)

- 第9回栃木眼科セミナー(自治医大、興和新薬共催、当会後援 小山グランドホテル)  
講師および演題  
名古屋大眼科 寺崎浩子教授  
「加齢黄斑変性の画像診断と治療の現状」  
48名出席

3月7日(日)

- 平成15年度第2回関プロ支部長会議、関プロ連絡協議会(横浜市ホテルキャメロットジャパン)  
稲葉、柏瀬、早津出席

3月10日(水)

- 栃眼医会報32号編集委員会(稲葉眼科)  
稲葉、城山、千葉、早津、鈴木(光)出席

3月17日(水)

- 第6回栃眼医理事会(宇都宮市医師会館)  
稲葉、宮下、大久保(彰)、吉沢(徹)、城山、苗

加、原（裕）、旭、松島、上田、木村、福島、小幡、森（樹）、千葉、亀卦川、浅原（典）、永田、廣瀬、早津、原（孜）、田口、柏瀬 23名出席

3月26日(金)

- 第14回下野眼科談話会（獨協医大、萬有製薬共催、当会後援 小山グランドホテル）

議題および演題

岩手医大 田沢 豊 教授

「白内障手術・過去から未来に向けて」

60名出席

4月3日(土)、4日(日)

- 平成16年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会（京王プラザホテル）

宮下出席

4月11日(日)

- 平成16年度栃眼医総会、第47回栃木県眼科集談会（自治医大）

一般講演：7題

特別講演：東京医歯大 望月 学教授

「ぶどう膜炎の診断と治療、最近のトピックス」

89名出席

## 会員消息

（平成15年11月～平成16年4月）

入会： C 結城賢弥（国立栃木病院）

転入： B 高橋雄二（自治医大）

静岡より

転出： B 菊池武邦（塩谷総合病院）

宮城へ

B 稲垣陽子（国立栃木病院）

東京へ

B 里深信吾（足利赤十字病院）

東京へ

B 田辺和子（自治医大）

愛知へ

異動：①改姓

B 木村麻衣子（獨協医大） 旧姓 平野

B 半田益子（上都賀総合病院）旧姓 千葉

②自宅住所変更

A 藤野由起子（宇都宮市ふじの眼科）

自宅：321-0964 宇都宮市駅前通り2-3-12-1203

TEL：

③勤務先変更

B 小口和子（済生会宇都宮病院） 宇都宮市おおくほ眼科へ

④会員種別変更

C→B 池田恵理（獨協医大）

大沼修（〃）

菊池通晴（〃）

斉藤実（〃）

高山良（〃）

永田万由美（〃）

松井英一郎（〃）

松本佳浩（〃）

## 自治医科大学眼科外来診察担当者

（H16年4月現在）

|    | 月                       | 火                   | 水          | 木                    | 金                     | 土 |
|----|-------------------------|---------------------|------------|----------------------|-----------------------|---|
| 午前 | 牧野猪木酒井竹澤久保田(俊)久保田(み)石崎山 | 森猪木堀竹澤久保田(俊)柿沼青木石崎山 | 小幡井堀竹澤柿沼青木 | 水流教授原橋本柿沼久保田(み)青木石崎山 | 牧野橋本久保田(俊)久保田(み)青木石崎山 |   |
| 午後 | ぶどう膜炎森堀柿沼緑内障原橋本         | 角膜水流教授小幡猪木竹         | 弱視斜視牧野     | 硝子体高橋森<br>蛍光眼底金上     | 硝子体梯堀<br>弱視斜視酒井       |   |

## 獨協医科大学眼科外来診察担当者

（H16年4月現在）

|    | 月                    | 火                            | 水                        | 木  | 金                              | 土   |
|----|----------------------|------------------------------|--------------------------|--|--------------------------------|-----|
| 午前 | 小原教授妹尾松島寺田山田斉藤(実)後藤野 | 千葉高橋(佳)岸本(尚)斎藤(実)池田和賀高山      | 小原教授枝寺田松本大沼高山野堀小         | 千葉松島枝山田斎藤(麻)池田永田松本   | 妹尾高橋(佳)八木岸本(尚)斎藤(麻)大沼永田        | 交替制 |
| 午後 | 屈折矯正千葉寺田池田後藤松本並木     | ブドウ膜炎斎藤(麻)山田池田斉藤(実)高山野堀阿久津青瀬 | 周産期センター岸本(尚)松本永田高山小出並木野堀 | 角膜妹尾・千葉寺田・岸本(陽)大沼・池田小出・松本野堀・阿久津<br>斜視神経眼科(最終木曜日)鈴木(利)(越谷病院)大柳・根本青瀬・阿久津 | 白内障松島斎藤(麻)永田澤野並木青瀬(枝)<br>緑内障木村 |     |

特集 栃木県眼科医会の50年  
(資料編)

# 年 表 — 栃木県眼科医会の50年 —

| 年 度          |   |
|--------------|---|
| 昭26 (1951) ~ | <ul style="list-style-type: none"> <li>昭26.10.28 (日)<br/>日本眼科医会創立総会 (日医会館)<br/>会長に黒沢潤三氏 (東京)<br/>役員として当県より稲葉六郎 (理事)、原蕃 (評議員)</li> <li>日本眼科医会栃木支部 (栃木県眼科医会) 設立<br/>支 部 長 稲葉六郎<br/>支部所在地 宇都宮市一条町稲葉方<br/>会 員 数 40名</li> </ul>  |
| 昭37 (1962)   | <p>昭和30年代の会員</p> <p>創立当時の会員名簿はなく、昭和37年までの会務記録も残っていない。<br/>23年の栃木県医師会会員名簿と36年の日本眼科医会会員名簿を参考にした30年代の主な会員は下記の方々である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《宇都宮市》稲葉六郎、稲葉治三郎、稲葉良康、小林千里、高田俊三、原 圭三、原 蕃、浜田徴治、福田忠作、宮下幸一、室本亀吉<br/>《上三川町》五木田セツ 《今市市》阿久津澄義、矢尾板榮子<br/>《鹿沼市》高橋勝、武藤佐代子、吉沢 清 《西方村》中島十寸穂<br/>《栃木市》石川俊郎、川辺 豊、中島義雄 《壬生町》市川 籌<br/>《藤岡町》松本 章 《小山市》鈴木常千代 《佐野市》斎藤信三郎、斎藤三郎、石井章次、糸井新次郎、若林正二、店網淳子<br/>《葛生町》大屋吉司 《足利市》赤羽泰造、大島泰三、青木嘉治、柏瀬 茂、浅原うた子 《氏家町》加藤好夫 《大田原市》井上 太、原 博 《黒磯市》斎藤重弘、刈屋英子 《黒羽町》三田政夫<br/>《烏山町》阿久津丈夫 《真岡市》成海朝輝 《市貝村》関本 進<br/>《茂木町》大兼俊治</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭32.4 武見太郎氏日医会長に就任</li> <li>昭33.4 学校保健法公布</li> <li>昭33.4 角膜移植法成立</li> <li>昭35.10 当会が県医師会分科会として登録</li> </ul> |
| 昭38 (1963)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>10.27 (日) 栃眼医総会 (県医師会)<br/>眼科講習会：東北大桐沢長徳教授<br/>懇親会 (中村) 20名出席</li> <li>日眼医役員改選：当県より稲葉六郎 (常任理事) 留任</li> </ul>   |

|            |  |
|------------|--|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○開業：渡辺昭司 (宇都宮市)<br/>中静 隆 (足利市)</li> </ul>   |
| 昭39 (1964) | <ul style="list-style-type: none"> <li>日眼医代議員制施行。当県より代議員に吉沢清、予備代議員に井上 太選出</li> <li>○開業：木村弘一 (宇都宮市)</li> </ul>  |
| 昭40 (1965) | <ul style="list-style-type: none"> <li>41.3.14 (日) 栃眼医総会 (県医師会)<br/>眼科講習会：横浜市立大 大熊篤二教授<br/>懇親会 (中村) 18名出席</li> <li>日眼医役員改選：当県より稲葉六郎 (理事)</li> <li>○開業：田口太郎 (宇都宮市)</li> <li>●物故：原 圭三 (宇都宮市 S41.2.28)</li> </ul>                                     |
| 昭41 (1966) | <ul style="list-style-type: none"> <li>42.3.12 (日) 栃眼医総会 (県医師会)<br/>眼科講習会：慶應義塾大学 桑原安治教授</li> <li>関東甲信越地区眼科医会連合会発足。第1回関ブロ眼科講習会を群馬県にて開催 (4月)。第2回長野県 (9月)。</li> <li>9.10日眼医黒沢潤三会長逝去。二代目会長に中泉行正氏 (東京) 就任。</li> <li>●物故：稲葉良康 (宇都宮市 S41.6.18)</li> </ul> |
| 昭42 (1967) | <ul style="list-style-type: none"> <li>日眼医役員改選：当県より稲葉六郎 (理事)、原蕃 (参与)</li> <li>日眼医会報 (季刊) が「日本の眼科」と改称し、月刊となる (7月号より)</li> <li>○開業：原たか子 (宇都宮市)</li> </ul>  |
| 昭43 (1968) | <ul style="list-style-type: none"> <li>6.23 (日) 栃眼医総会 (県医師会)<br/>眼科講習会：岐阜県立医大 清水新一教授「私共の眼科の実際」</li> <li>○開業：柏瀬宗弘 (足利市)<br/>室本亀吉 (宇都宮市)<br/>原 孜 (宇都宮市)</li> <li>●物故：福田忠作 (宇都宮市 S43.10.28)</li> <li>インターン制度廃止</li> </ul>                             |
| 昭44 (1969) | <ul style="list-style-type: none"> <li>6.15 (日) 栃眼医総会 (県医師会)<br/>眼科講習会：順天堂大 中島章教授「眼科診療上の誤診について」</li> <li>日眼医役員改選：当県稲葉六郎 (理事)、原蕃 (参与) 留任</li> <li>○開業：松島雄二 (佐野市)<br/>久保田芳雄 (宇都宮市)<br/>早津尚夫 (宇都宮市)</li> </ul>  |

|            |  |
|------------|--|
| 昭45 (1970) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6.21 (日) 栃眼医総会 (県医師会)</li> <li>眼科講習会：東京医歯大 大島祐之助教授「最近における細隙灯顕微鏡とその用途」</li> <li>○開業：稲葉光治 (宇都宮市)</li> </ul>   |
| 昭46 (1971) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5.29 (日) 30 (日) 第7回関東甲信越眼科学会 (稲葉六郎会長) 開催 (那須ロイヤルホテル)</li> <li>講師および演題</li> <li>1. 前東京大教授 鹿野信一先生<br/>「蛍光眼底撮影法から学び得た事ども」</li> <li>2. 東北大教授 桐沢長徳先生<br/>「白内障手術の問題点」</li> <li>・ 日眼医役員改選：稲葉六郎 (理事) S48まで</li> <li>○開業：井上成紀 (大田原市)</li> <li>●物故：井上 太 (大田原市 S46.12.4)</li> <li>・ 視能訓練士法成立 (5.14)</li> <li>・ 保険医総辞退 (7月)</li> </ul>      |
| 昭47 (1972) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9.17 栃眼医総会 (金鍋列館)</li> <li>眼科講習会：自治医大清水昊幸教授「最近の眼科手術療法の進歩」</li> <li>・ 日眼医3代目会長に三田弘氏 (埼玉) 就任</li> <li>・ 日眼医予備代議員に柏瀬宗弘就任</li> <li>・ 日眼医創立40周年記念式典 (10月)</li> <li>◎功労者表彰：稲葉六郎、吉沢清</li> <li>・ 関プロ会報創刊</li> <li>・ 自治医科大学開学</li> <li>○開業：深井 清 (足利市)</li> <li>田島幸男 (栃木市)</li> <li>斎藤明郎 (小山市)</li> <li>・ 県医会長に大西幸雄氏 (宇都宮市) 就任</li> </ul> |
| 昭48 (1973) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6.17 (日) 栃眼医総会 (県医師会)</li> <li>眼科講習会：獨協医大 関 亮教授「学童における色覚検査」</li> <li>・ 社保審査委員に三田政夫、国保審査委員に柏瀬宗弘就任</li> <li>・ 獨協医科大学開学</li> <li>○開業：斎藤信之 (佐野市)</li> <li>●物故：阿久津澄義 (今市市 4月)</li> <li>阿久津丈夫 (烏山町 7.26)</li> <li>青木嘉治 (足利市 11.4)</li> </ul>  |

|            |   |
|------------|---|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人医療費無料化実施 (1月)</li> </ul>   |
| 昭49 (1974) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7.21 (日) 栃眼医総会 (自治医大)</li> <li>自治・獨協両医大眼科スタッフ紹介および自治医大眼科見学</li> <li>○自治医大病院診療開始 (4.15)</li> <li>清水昊幸教授、嶋田孝吉助教授、内野允、内藤誠、山本裕子講師、柳沢仍子、青木和加、小暮正子先生</li> <li>○獨協医大病院診療開始 (7.1)</li> <li>関亮教授、野中杏一郎助教授、横井俊明、森山知英郎講師、新里研二先生</li> <li>・ 第1回栃眼医親睦ゴルフコンペ開催 (4.10 (日) 宇都宮C.C)</li> <li>(以降毎年2回開催、記録は、P122参照)</li> <li>○開業：小西恒夫 (鹿沼市)</li> <li>●物故：高田俊三 (宇都宮市 S49.7.16)</li> <li>宮下幸一 (宇都宮市 S50.3.19)</li> </ul> |
| 昭50 (1975) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.13 (日) 栃眼医総会 (県医師会)</li> <li>眼科講習会：自治医大嶋田孝吉助教授「難治性の眼感染症」</li> <li>・ 9.18 (木) 眼科顕微鏡手術の会 (清水昊幸世話人宇都宮グランドホテル) に協賛、栃木県におけるはじめての眼科の学会</li> <li>・ 獨協医大森山知英郎講師退職 (5月) 横井俊明講師退職 (51年3月)</li> <li>○開業：宮下 浩 (宇都宮市)</li> <li>関本俊男 (市貝町)</li> </ul>  |
| 昭51 (1976) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日眼医会長に須田経宇氏 (東京) 就任</li> <li>・ (財) 栃木県アイバンク設立</li> <li>○開業：斎藤武久 (黒磯市)</li> <li>室本雅夫 (宇都宮市)</li> <li>○獨協医大加藤晴夫講師着任 (4月)</li> <li>・ 獨協医大野中杏一郎助教授退職 (52年3月)</li> </ul>  |
| 昭52 (1977) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.3 (日) 栃眼医総会 (県医師会)</li> <li>映画「エンテロウイルスによる感染 (甲野礼作監修)」を上映</li> <li>●物故：斎藤信三郎 (小山市 S52.5.26)</li> </ul>   |
| 昭53 (1978) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6.25 (日) 栃眼医総会 (県医師会)</li> <li>眼科講習会：虎の門病院眼科部長福田雅俊博士「糖尿病性網膜症に対する手術療法」</li> <li>・ 栃眼医理事会 (54.3.6 (火) 宇都宮市医師会館)</li> <li>・ 第1回獨協医大眼科講演会 (54.1.20 (土) 獨協医大)</li> </ul>  |

|                  |  |   |
|------------------|--|---|
|                  | <p>講師および演題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>馬嶋慶直名古屋保衛大教授「超音波白内障手術」</li> <li>湖崎 弘大阪市湖崎眼科院長「緑内障手術」</li> <li>林文彦福岡市林眼科病院長「人工水晶体手術」</li> </ol> <p>(第2回以降の記録は、P102参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第23回国際眼科学会(中島章会長)京都で開催(5月)</li> </ul> <p>○小暮文雄獨協医大教授着任(8月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>獨協医大眼科との懇談会(11.17(金)宇都宮ロイヤルホテル)</li> <li>日眼医OMA教育事業はじまる。この年は当県OMA講習会開催せず</li> <li>眼鏡商との懇談会(9.27(水)宇都宮市医師会館)</li> <li>日眼医生涯教育委員に原孜就任(H4まで)</li> </ul> <p>○開業:亀卦川みどり(宇都宮市)</p> <p>●物故:川辺 豊(栃木市 54.2.12)</p>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>日眼医役員改選:早津尚夫(理事)就任S57まで</li> <li>第2回日眼医OMA試験当県28名受験し全員合格<br/>(以後のOMA関連記事はP116参照)</li> <li>自治、獨協両医大との親睦会(S56.3.17(火)宇都宮ロイヤルホテル)</li> <li>視力回復センター対策として、県教委あて要望書作成し、申し入れ(11.25)</li> <li>日眼医生涯教育講座開催(第1回緑内障のすべて)(56.2.14(土)25日(日)日本教育会館)</li> <li>日眼医創立50周年記念式典(10月)</li> </ul> <p>◎日眼医表彰:稲葉六郎、吉沢清、稲葉治三郎</p> <p>○獨協医大加藤晴夫助教授就任(6月)、退職(56年1月)</p> <p>○獨協医大鈴木隆次郎講師着任(6月)</p> <p>○自治医大大原國俊講師着任(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治医大嶋田孝吉助教授、内藤誠講師退職(56年3月)</li> </ul> <p>○開業:湯本 誠(宇都宮市)<br/>永田紀子(宇都宮市)<br/>矢尾板榮子(今市市)<br/>加藤晴夫(氏家町)<br/>室本雅夫(真岡市)</p> <p>●物故:加藤好夫(氏家町 55.6.17)<br/>松本 章(藤岡町 55.12.16)<br/>稲葉治三郎(宇都宮市 56.3.5)</p> |
| <p>昭54(1979)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5.20(日)栃眼医総会(獨協医大)眼科講習会</li> <li>獨協医大小暮文雄教授「眼科麻酔と白内障手術」</li> <li>名大市川宏教授「過酸化脂質と目(白内障に対する薬物療法)」</li> </ul> <p>第16回関東甲信越眼科学会準備委員会</p> <p>第1回9.11(火)中村、第2回11.13(火)宇都宮市医師会館<br/>第3回12.12(水)中村、第4回1.23(水)宇都宮市医師会館<br/>第5回55.2.26(火)宇都宮市医師会館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OMAに関するアンケート調査実施(4月)</li> <li>第1回日眼医OMA試験 当県より19名 東京の講習会に参加全員合格</li> <li>第2回日眼医OMA講習会 関東5県共催で開始<br/>(S55.1~4月、東京代々木国立オリンピック青少年総合センター) 当県より31名受講</li> <li>獨協医大1期生3名眼科入局(石崎道治、城山カキ、千葉桂三)(5月)</li> </ul> <p>○開業:阿久津行永(今市市)</p> | <p>昭56(1981)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5.24(日)栃眼医総会(獨協医大) 第1回栃木県眼科集談会開催(以降毎年春秋開催) 一般講演10題 特別講演:順天堂大中島章教授、曲谷久雄講師、百瀬隆行先生<br/>「コンタクトレンズの臨床応用」<br/>(以降の栃木県眼科集談会(春季)記録はP98参照)</li> <li>栃眼医理事会5回開催(4.21(火)、6.27(土)、8.21(金)、11.17(火)、57.2.23(火)稲葉眼科病院)</li> <li>10.18(日)第2回栃木県眼科集談会開催(自治医大) 一般講演11題 特別講演:自治医大沢 充講師「角膜の臨床検査法」<br/>(以降の栃木県眼科集談会(秋季)記録はP100参照)</li> <li>7.26(日)第4回獨協医大眼科栃眼医合同講演会(獨協医大)獨協医大眼科講演会を改称</li> <li>11.10(火)第1回栃眼医親睦麻雀大会(宇都宮市「竜」)<br/>(以後の記録はP123参照)</li> <li>10.18(日)健保研究会をはじめ開催(第2回栃木県眼科集談会と併催、自治</li> </ul>   |
| <p>昭55(1980)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5.24(土)25(日)第16回関東甲信越眼科学会開催(稲葉六郎会長)(那須ロイヤルホテル)</li> <li>清水昊幸自治医大教授「硝子体手術の方法、適応、問題点」</li> <li>小暮文雄獨協医大教授「眼科救急医療について」</li> </ul> <p>関東甲信越眼科学会準備委員会、反省会開催(第6回4.6(日)那須ロイヤルホテル、第7回4.22(火)第8回5.13(火)宇都宮市医師会館 反省会6.11(水)中村)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栃眼医理事会開催11.14(金)、56.2.20(金)宇都宮市医師会館</li> <li>栃眼医理事会だより発刊(第1号は56.2.20)</li> </ul>  |   |

|                   |  |  |
|-------------------|--|--|
|                   | <p>医大)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力回復センター対策として、県内小中高校あてに文書発送、待合室掲示用ポスターを全員に配布</li> <li>・日眼医学会 田中強氏 (東京) 就任</li> </ul> <p>○自治医大沢 充講師着任 (4月)</p> <p>○自治医大大原國俊助教授就任 (5月)</p> <p>○開業: 多賀谷逸子 (小山市)<br/>         山川高子 (宇都宮市)<br/>         小暮正子 (宇都宮市)</p> <p>●物故: 赤羽泰造 (足利市 5.25)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 県医師会あてに「名義貸し自粛のお願い」発送 (9月)</li> <li>* 毎月1回下野新聞にCL意見広告掲載 (9月より)</li> <li>* 目の愛護デーに朝日、読売、毎日3誌にCL意見広告掲載 (10月)</li> <li>* 県内小中高校あてにCL啓蒙文書発送 (12月)</li> <li>* CL眼障害例報告用紙作成し会員に配布</li> </ul> <p>○開業: 青木和加 (栃木市)</p>   |
| <p>昭57 (1982)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.18 (日) 栃眼医総会、第3回栃木県眼科集談会 (獨協医大)</li> <li>・ 栃眼医理事会開催3回 (6.29 (火)、9.21 (火)、58.1.25 (火) 稲葉眼科病院)</li> <li>・ 国保審査委員交代 柏瀬宗弘→宮下浩</li> <li>・ 日眼医役員改選: 日眼医学会長に羽生田進氏 (群馬)</li> <li>・ 7.10 (土) 11 (日) 第21回日本白内障研究会 (小暮文雄会長) 宇都宮市文化会館にて開催<br/>         7.10 (土) 大谷における懇親会を獨協医大と共催<br/>         7.11 (日) 第5回獨協眼科栃眼医合同講演会を白内障研究会終了後、宇都宮市文化会館にて開催</li> </ul> <p>○獨協医大鈴木隆次郎助教授就任 (4月)</p> <p>○開業: 鈴木 光 (小山市)<br/>         福田順一 (宇都宮市)</p> <p>●物故: 室本亀吉 (宇都宮市 8.16)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日医学会長武見太郎氏退任、花岡堅而氏就任</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.15栃眼医総会 (自治医大)<br/>         稲葉六郎会長鈴木常千代副会長退任、吉沢清会長、早津尚夫、柏瀬宗弘副会長就任</li> <li>・ 栃眼医事務局を稲葉眼科病院より早津眼科医院に移動</li> <li>・ 日眼医代議員に早津尚夫 (総務常任委員も)、予備代議員柏瀬宗弘</li> <li>・ 栃眼医理事会6回開催 (5.9 (水)、7.11 (水)、9.12 (水)、11.16 (金)、60.1.16 (水)、3.8 (金) 宇都宮市医師会館)</li> <li>・ 5.23 (水) 稲葉六郎名誉会長 (前会長)、鈴木常千代顧問 (前副会長) 慰労会 (宇都宮ロイヤルホテル)</li> <li>・ 栃木県眼科集談会の会場を春季は自治医大、秋季は宇都宮市医師会館に変更</li> <li>・ 第8回日本眼科手術学会 (小暮文雄会長60.1.25 (金) ~27 (日) 宇都宮市文化会館) に協力</li> <li>・ 第9回角膜カンファレンス (大原国俊世話人60.2.16 (金) ~17 (土) 日光金谷ホテル) に協力</li> <li>・ 栃木県アイバンク理事に清水昊幸、小暮文雄、早津尚夫就任</li> <li>・ 栃眼医非医師医行為対策委員会開催10.23 (火) 宇都宮市医師会館</li> <li>・ 栃木県眼科学校医実態調査</li> <li>・ 自治医大沢 充講師留学帰国講演会 (6.13 (水) 宇都宮市医師会館)</li> </ul> <p>○水流忠彦自治医大講師着任 (4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日眼専門医制度スタート</li> </ul> <p>○開業: 浅原典郎、浅原智美 (足利市)</p> <p>●物故: 浜田徹治 (宇都宮市 60.2.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日医学会長に羽田春免氏就任 (4月)</li> <li>・ 社保本人1割負担実施 (10月)</li> </ul> |
| <p>昭58 (1983)</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.17 (日) 栃眼医総会 (獨協医大)</li> <li>・ 栃眼医理事会5回開催 (6.14 (火)、8.26 (金)、11.8 (火) 稲葉眼科病院、59.1.24 (火) 宇都宮市医師会館、59.4.6 (金) 稲葉眼科病院)</li> <li>・ 日眼医社団法人となる (4月)</li> <li>・ 12.14 (水) 緑内障研究会 (持田製薬主催当会後援、宇都宮ロイヤルホテル) 新潟大学岩田和雄教授「緑内障に関する最近の話題」</li> <li>・ 白内障手術ビデオの会開催 (S59.2.14 (火)、2.28 (火)、3.13 (火) 宇都宮市医師会館)</li> <li>・ 県外某眼鏡量販店の県内におけるコンタクトレンズ取扱い問題への対策として<br/>         * 栃眼医非医師医行為対策委員会開催 (6.21 (火)、8.5 (金)、9.20 (火) 宇都宮市医師会館<br/>         * 県医師会、県医務課、薬務課に申し入れ (7月)<br/>         * 名義貸し医師への自粛申し入れ (7月)</li> </ul>                          | <p>昭60 (1985)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4.7 (日) 栃眼医総会 (自治医大)</li> <li>・ 栃眼医理事会6回開催 (6.5 (水)、7.16 (火)、9.20 (金)、11.20 (水)、61.1.24 (金)、3.12 (水) 宇都宮市医師会館)</li> <li>・ 社保審査委員交代 三田政夫より吉沢清に</li> <li>・ 栃眼医談話会開催 (第1回) 61.2.21 波奈正</li> <li>・ 栃眼医のあり方に関するアンケート調査実施</li> <li>・ 日本眼科医連盟設立 (6月)、決起大会 (10月)</li> </ul>   |

- ・ 7.28 (日) 栃眼医臨時総会(獨協医大第8回獨協眼科栃眼医合同講演会と併催)  
特別講演：宮本吉郎日眼医常任理事「最近の眼鏡コンタクトレンズ問題」
- ◎石崎道治獨協医大講師日眼医学術助成祝賀会開催(4.26(金)陽南荘)
- 石崎道治、千葉桂三獨協医大講師就任(6月)
- ・ 千葉桂三、坪田一男両先生ボストンへ留学(7月)62.6まで
- 自治医大坂西良 講師就任(4月)
- 開業：原裕、原道子(大田原市)
- 物故：稲葉六郎(宇都宮市 60.12.20)
- ・ IOLを医療用具「人工水晶体」として厚生省が認可

昭61(1986)

- ・ 4.13(日)栃眼医総会(自治医大)
- ・ 日眼医代議員1名増となり、柏瀬宗弘代議員に、原博、稲葉光治予備代議員に就任
- ・ 日眼医会長に有沢武氏(兵庫)就任
- ・ 栃眼医役員改選、理事室本雅夫に代り関本俊男就任
- ・ 栃眼医理事会6回開催(5.14(水)、7.9(水)、9.10(水)、11.7(金)、62.1.21(水)、3.18(水)1月のみ救急医療センター、他は宇都宮市医師会館)
- ・ 社保審査委員交代 三田政夫→吉沢清
- ・ 第21回日本網膜剥離学会(清水昊幸会長、東京)に協力
- ・ 第5回関東眼科学会、第4回日韓眼科ジョイントミーティング、第24回関東甲信越眼科学会合同打合せ会(12.2(火)宇都宮グランドホテル)
- ・ 栃眼医談話会(第2回)開催(11.28(金)小山市思水荘)
- ・ 「目の愛護デーによせて」下野新聞寄稿開始第1回早津尚夫(10月12日)(以降の記録はP121参照)
- ・ 「目の愛護デーについて」栃木放送出演(早津副会長)
- ・ 県医会長に片山一郎氏就任(4月)
- ・ 献眼顕彰碑建立(宇都宮市八幡山)
- 開業：室本雅夫(宇都宮市)
- 物故：三田政夫(黒羽町 6.1)  
小林千里(宇都宮市 8.29)  
斎藤三郎(佐野市 10.12)

昭62(1987)

- ・ 4.12(日)栃眼医総会(自治医大)
- ・ 栃眼医理事会5回開催(5.20(水)、7.22(水)、9.9(水)、12.9(水)、2.17(水)12月のみ小山市思水荘、他は宇都宮市医師会館)
- 3学会準備委員会開催、(6.2(火)、9.25(金)、63.1.8(金)、3.4(金)獨協医大)
- ・ 第24回関東甲信越眼科学会準備委員会開催(8.9(水)、11.6(金)、63.1.26(火)、3.16(水)1月のみ宇都宮市グランドホテル、他は宇都宮市医師会館)

- ・ 7.3(金)坪田、千葉両先生帰国講演会「アメリカにおける最新の医療状況」(宇都宮市医師会館)
- ・ 12.5(土)下野ビスコサージェリーセミナー(獨協医大)
- ・ 目の愛護デー記念行事目の無料相談開催(10月10日(土)宇都宮東武デパート)
- 事前打合せ会9.29(火)宇都宮東武デパート8Fニュートーキョー、反省会10.10(土)中村  
(以後の目の愛護デー行事記録はP118参照)
- ・ 栃眼医「献眼重点診療の日」実施(9月より)
- ・ 10.31(土)「日本の眼科」移動編集委員会に出席(鬼怒川金谷ホテル)吉沢、早津、柏瀬、稲葉
- ・ 社保審査委員交代 吉沢清より田口太郎に
- ◎日眼医定例総会における会長表彰：石川俊郎、糸井新次郎、柏瀬茂、中島十寸穂、成海朝輝
- 自治医大山本裕子助教授就任(4月)
- ・ 自治医大坂西良彦講師辞職(9月)
- ・ 獨協医大吉田顕照助手ボストン留学(2年間)
- 物故：渡辺昭司(宇都宮市 4.5)

昭63(1988)

- ・ 4.17(日)栃眼医総会(自治医大)
- ・ 栃眼医理事会6回開催(5.18(水)、3.15(水)、7.6(水)、9.7(水)、11.9(水)、H1.1.18(水)、3.15(水)宇都宮市医師会館)
- ・ 第5回関東眼科学会(関亮会長)第4回日韓眼科ジョイントミーティング(小暮文雄世話人)第24回関東甲信越眼科学会(吉沢清会長)開催(5.27(金)28日(土)29日(日)宇都宮市文化会館)
- 第24回関東甲信越眼科学会
  1. 独協医大鈴木隆次郎助教授「糖尿病と目」
  2. 自治医大清水昊幸教授「新しい概念の網膜疾患」
  3. 前日眼医副会長佐野充先生「日本の眼科医療の将来像」
- ・ 3学会合同打合せ会4.8(金)5.11(水)獨協医大
- ・ 関東甲信越眼科学会準備委員会および打上げ会4.27(水)救急医療センター5.18(水)宇都宮グランドホテル6.8(水)宇都宮ロイヤルホテル
- ・ 12.7(水)栃眼医談話会兼忘年会(ホテルニューイタヤ)
- ・ 栃木県眼科医会報創刊号発行(12月)
- 栃眼医会報編集委員会9.28(水)救急医療センター11.4(金)獨協医大
- ・ 国保審査委員交代、宮下浩より原孜へ(平成元年1月)
- ・ 日眼医会長に長屋幸郎氏(愛知)就任
- ・ IOL保険給付外として保険診療上の取扱い可能となる(4月)
- ・ 自治医大澤充講師東大角膜移植部助教授として転出(6月)

|            |   |
|------------|---|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日眼医「日本の眼科」編集委員に鈴木隆次郎就任（平4まで）</li> <li>◎日眼医会長表彰：原蕃、原孜</li> <li>○独協医大平岡利彦、横田章夫講師就任</li> <li>○開業：原 正（真岡市）<br/>城山カー（壬生町）<br/>大原 麗（西那須野町）</li> </ul>   |
| 平成元年（1989） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4.9（日）栃眼医総会（自治医大）<br/>吉沢清会長退任、会長に早津尚夫、副会長に柏瀬宗弘、田口太郎就任<br/>理事交代（退任）原博、斎藤明郎<br/>（新任）井上成紀、小西恒夫、福田順一、小暮正子、鈴木光、<br/>大久保彰、千葉桂三、柳沢仍子</li> <li>・社保審査委員交代 鈴木常千代→田島幸男</li> <li>・栃眼医理事会6回開催（5.17（水）、7.19（水）、9.20（水）、11.15（水）、<br/>2.1.17（水）、3.7（水）宇都宮市医師会館）</li> <li>・6.14（水）吉沢前会長慰労、関亮先生藍綬褒章、坪田一男先生日眼医受賞祝<br/>賀会（宇都宮ロイヤルホテル）</li> <li>・4.26（水）新税制研究会（宇都宮市医師会館）講師参天製薬眼科経営相談室<br/>長村山三郎氏「新税制への眼科医の対応」</li> <li>・栃眼医会則および施行細則制定<br/>会則検討委員会8.23（水）宇都宮市医師会館</li> <li>・9.13（土）第1回眼科医研究会開催（宇都宮グランドホテル）<br/>新潟大学大石正夫助教授「眼科における最近の抗菌剤の使い方」<br/>（以降の栃眼医研究会記録はP106参照）</li> <li>・10.9（月）近隣諸国眼科医との懇談会（宇都宮市おおき）</li> <li>・第1回日眼専門医認定試験（7月）</li> <li>・12.8（金）栃眼医忘年会（宇都宮ロイヤルホテル）</li> <li>・独協医大関亮教授退職（2年3月）</li> <li>◎日眼医会長表彰：鈴木常千代</li> <li>・独協医大太田誠一郎助手ボストン留学（2年間）</li> <li>◎独協医大関亮教授 藍綬褒章受章（4月）</li> <li>◎国立栃木病院坪田一男先生日眼医学術振興助成受賞</li> <li>○自治医大大久保彰講師就任（4月）</li> <li>●物故：糸井新次郎（佐野市 6.17）<br/>柏瀬 茂（足利市 2.2.16）</li> </ul> |
| 平成2年（1990） | <ul style="list-style-type: none"> <li>4.15（日）栃眼医総会（自治医大）<br/>栃眼医会則成立</li> <li>・栃眼医理事会6回開催（5.16（水）、7.18（水）、9.19（水）、11.21（水）、</li> </ul>   |

|            |   |
|------------|---|
|            | <ul style="list-style-type: none"> <li>3.1.16（水）、3.6（水）宇都宮市医師会館</li> <li>・日眼医予備代議員交代 原博→田口太郎</li> <li>・社保審査委員増員小西恒夫就任（6月）</li> <li>・独協医大主任教授に小暮文雄氏就任（4月）</li> <li>・4.6（金）関亮教授慰労、小暮文雄教授就任祝賀会開催（宇都宮ロイヤルホ<br/>テル）</li> <li>・「銀海」に眼科医会風土記（栃木県）掲載</li> <li>・第14回日本眼科手術学会（清水昊幸会長）開催（3.1.24（金）25（土）大宮<br/>ソニックシティ）に協力</li> <li>・第1回下野談話会開催（独協医大萬有製薬共催、当会后援、3.3.12（火）ホ<br/>テルサンルート栃木）<br/>（以降の下野談話会記録はP110参照）</li> <li>・3才児眼科健診実施への協力<br/>県健康対策課と打合せ（8.29（水）、10.3（水））<br/>県医師会、小児科医会、耳鼻科医会との打合せ（10.11（木）、12.17（月）、3.<br/>1.28（月））<br/>各郡市医師会代表への説明会（3.2.20（水）県医師会）</li> <li>・3.1.11（金）栃眼医新年会（ホテルニューイタヤ）</li> <li>・日医会長に村瀬敏郎氏就任</li> <li>・独協医大石崎道治講師サンフランシスコ留学（1年間）</li> <li>○自治医大林みゑ子講師着任（4月）</li> <li>◎日眼医会長表彰：大兼俊治、斎藤重弘</li> <li>○開業：大野研一（佐野市）<br/>宮沢敦子（真岡市）</li> <li>●物故：中島十寸穂（西方町 11.18）</li> </ul> |
| 平成3年（1991） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4.14（日）栃眼医総会（自治医大）</li> <li>・栃眼医理事会6回開催（5.23（水）、7.17（水）、9.18（水）、11.20（水）、<br/>4.1.17（水）、3.25（水）宇都宮市医師会館</li> <li>・第30回日本白内障学会、第6回日本眼内レンズ学会（小暮文雄会長、6.14<br/>（金）～16（日）宇都宮市文化会館）に協力</li> <li>・第14回独協医大眼科栃眼医合同後援会は日本眼内レンズ学会終了後同会場に<br/>て開催、同日同時間帯に市民公開講座開催<br/>1. 千葉桂三独協医大講師「角膜移植について」<br/>2. 林文彦日本眼内レンズ学会理事長「眼内レンズについて」</li> <li>・第28回日本感染症学会（嶋田孝吉会長、7.13（金）～15（日）東京医大）に<br/>協力</li> <li>・3才児眼科健診実施<br/>3才児健診（眼科・耳鼻科）に関する検討会6.5（水）県医師会</li> </ul>  |

- ・コンタクトレンズ量販店対策  
テレホンメガネ泉が丘店のCL取扱いに関し宇都宮保健所に要望書提出
- ◎日眼医学会長表彰：早津尚夫
- ◎勲四等瑞宝章受章：鈴木常千代
- 自治医大伊野田繁、釣巻穰講師就任（4月）
- 開業：旭 英幸（宇都宮市）  
斎藤春和（小山市）  
山口康三（国分寺町）  
吉沢徹、吉沢浩子（鹿沼市）
- 物故：関本 進（市貝町 9.29）

平成4年（1992）

- ・4.26（日）栃眼医総会（自治医大）
- ・栃眼医理事会6回開催（5.20（水）、7.15（水）、9.16（水）、11.18（水）、5.1.20（水）、3.17（水））
- ・6.26（金）～28（日）第48回日本弱視斜視学会（山本裕子会長 大宮ソニックシティ）に協力
- ・5.29（金）自治医大眼科18周年、清水昊幸教授還暦祝賀会（大宮パレスホテル）
- ・県医師会結核感染症サスペンション解析評価委員会に眼科代表も出席要請される（月1回）
- ・日眼医役員改選：会長に上岡輝方氏（神奈川）就任
- ・日眼医眼科スタッフ委員、日眼医OMA資格化検討委員長に早津尚夫就任
- ・日眼医創立60周年記念式典（10月）
- ・11.8（日）臨眼運営委員会にて平成7年度（第19回）日本臨床眼科学会の総会長小暮文雄教授、世話人早津尚夫が決定
- ・自治医大水流忠彦講師東大角膜移植部助教授として転出（6月）
- ・独協医大平岡利彦講師ワシントン大留学（2年間）
- ・IOLの費用が所定点数含まれる形で眼内レンズ挿入術8,000点新設、白内障手術との併施の場合16,100点と決定
- ◎日眼医学会長賞：鈴木常千代
- 開業：木村 純（宇都宮市）

平成5年（1993）

- ・4.25（日）栃眼医総会（自治医大）
- ・栃眼医役員交代  
理事 退任：久保田芳雄、柳沢仍子、大原國俊、関本俊男  
新任：永田紀子、原正、菊池武邦、林みゑ子、釣巻穰  
監事 退任：木村弘一  
新任：久保田芳雄
- ・栃眼医理事会6回開催（5.21（金）、7.21（水）、9.22（水）、11.17（水）、6.1.19（水）、3.16（水））

- ・臨眼学会準備委員会（第1回）6.29（水）ホテルフェアシティ
- ・社保審査委員交代 田口太郎、田島幸男に代り久保田芳雄、青木和加就任（6月）
- ・自治医大大原国俊助教授大宮医療センターに転出  
送別会開催（4.13（火））宇都宮ロイヤルホテル
- ・9.30（木）WHO西太平洋地域失明予防ワークショップ（県総合文化センター）に協力、懇親会（宇都宮東武ホテルグランデ）を主催
- ・独協医大横田章夫講師辞職（6年3月）
- 自治医大茨木信博講師就任（4月）
- 自治医大林みゑ子助教授就任（5月）
- 開業：広瀬裕子（真岡市）
- 物故：石川俊郎（栃木市 7.13）

平成6年（1994）

- ・4.24（日）栃眼医総会（自治医大）
- ・栃眼医理事会6回開催（5.18（水）、7.20（水）、9.21（水）、11.16（水）、7.1.18（水）、3.22（水）宇都宮市医師会館）
- ・日眼医役員改選：会長に佐野七郎氏（東京）就任
- ・日眼医理事に早津尚夫就任（平成8年まで）
- ・日眼医代議員予備代議員交代  
代議員 早津尚夫 → 田口太郎  
予備代議員 田口太郎 → 斎藤武久
- ・日眼医代議員会総務常任委員交代 早津尚夫 → 柏瀬宗弘
- ・臨眼学会準備委員会（第2回）7.3.8 宇都宮東武ホテルグランデ
- ・国保審査委員交代 福田順一 → 原孜
- ・目の愛護デー行事会場変更、この年から宇都宮市保健センターに
- ・目の健康講座開始（第1回）独協医大小暮文雄教授「目の成人病についてー白内障を中心にー」  
（以降の「目の健康講座」の記録はP120参照）
- ・栃眼医眼科手術談話会開催（第1回）7.3.30（木）国立栃木病院  
（その後の記録はP112参照）
- 自治医大川島秀俊講師着任（9月）
- 独協医大須田雄三講師就任（4月）
- ・独協医大松島博之助手ワシントン大留学（2年間）
- 開業：安藤 緑（足利市）  
大久保好子（宇都宮市）
- 物故：大屋吉司（葛生町 4.20）

平成7年（1995）

- ・4.16（日）栃眼医総会（自治医大）
- ・栃眼医役員交代

(副会長) 辞任 田口太郎  
 新任 稲葉光治  
 (理事) 辞任 阿久津行永、田島幸男、福田順一、釣巻穰  
 新任 青木和加、原裕、城山カウ、伊野田繁  
 (監事) 辞任 湯本誠  
 新任 田口太郎

・ 栃眼医理事会 6 回開催 (5.24 (水)、7.19 (水)、9.20 (水)、11.15 (水)、8.1.17 (水)、3.22 (水))

・ 第49回日本臨床眼科学会開催 (小暮文雄会長、早津尚夫世話人11.10 (金) ~ 12 (日) 県総合文化センター他)

臨眼準備委員会開催 7.12 (水)、10.6 (金) 宇都宮グランドホテル、10.27 (金) パセオ内北京

一般懇親会開催11.10 (金) 宇都宮グランドホテル

・ 小暮文雄独協医大教授退職 (8年3月)  
 小暮教授送別会 (3.27 (水)) ホテルニューイタヤ

・ 社保国保審査委員交代  
 社保 青木和加、小西恒夫 → 原裕、矢尾板榮子  
 国保 福田順一 → 原孜

・ 栃木県アイバンク設立20周年式典並びに慰霊祭 (10.15 (日))

・ 献眼募金箱を各眼科受付に設置

○自治医大釣巻穰講師退職 (5月) 茨木信博講師退職 (8月)

○自治医大山上聡講師着任 (6月)

・ コンタクト安売り広告対策  
 栃眼医医療対策部会10.18 (水) 宇都宮市医師会館

○開業: 小倉 修 (佐野市)  
 中丸周一 (宇都宮市)  
 苗加謙応 (宇都宮市)

平成8年 (1996)

・ 4.21 (日) 栃眼医総会 (自治医大)  
 栃眼医会則および施行細則一部改正

・ 栃眼医理事会 6 回開催 (5.22 (水)、7.17 (水)、9.18 (水)、11.20 (水)、9.1.29 (水)、3.26 (水))

・ 日眼医眼科医療従事者委員に早津尚夫就任 (4月)

・ 国保審査委員交代 原孜 → 稲葉光治 (1月)

○独協医大小原喜隆教授就任 (4月)  
 小原教授就任祝賀会 6.14 (金) 宇都宮東武ホテルグランデ

・ 栃木県緑内障カンファレンス (萬有製薬主催当会後援11.15 (金) ホテルニューイタヤ)

1. 新潟大学助教授沢口昭一先生「正常眼圧緑内障の管理」

2. 自治医大助教授林みゑ子先生「緑内障治療薬の実際-現在そして未来-」

◎日眼医表彰 感謝状 小暮文雄、早津尚夫  
 会長表彰石井章次、柏瀬宗弘

・ 日眼創立100周年

・ 日眼医C会員の資格が国試合格後2年未満より5年未満に、会費免除  
 年齢77才以上より80才以上に改正

・ 独協医大平岡利彦講師退職

○開業: 猪ノ坂貴子 (足利市)  
 井廻万里 (宇都宮市)

・ 日医会長に坪井栄孝氏 (福島)

平成9年 (1997)

・ 4.20 (日) 栃眼医総会 (自治医大)

・ 栃眼医役員交代  
 理事 辞任 原孜、青木和加  
 新任 旭英幸、吉沢徹  
 監事 辞任 久保田芳雄  
 新任 原孜

・ 栃眼医理事会 6 回開催 (5.21 (水)、7.16 (水)、9.17 (水)、11.19 (水)、10.1.21 (水)、3.18 (水))

・ 社保審査委員交代 久保田芳雄 → 早津尚夫

・ 第34回関東甲信越眼科学会準備委員会 6.18 (水)、10.29 (水) 宇都宮市医師会館 7.23 (水) 宇都宮東武ホテルグランデ

・ 栃眼医保険診療講習会開催 (9.26 (金)、10.22 (金) 宇都宮市医師会館)

◎日眼医会長表彰: 浅原うた子

・ 自治医大清水昊幸教授、山本裕子助教授退職 (3月)  
 清水教授、山本助教授送別会 (3.20 (金) 宇都宮ロイヤルホテル)

○独協医大吉田紳一郎講師着任

・ 自治医大茨木信博講師退職

○開業: 藤野由起子 (宇都宮市)  
 深井 徹 (足利市)

●物故: 深井 清 (足利市 9.7)  
 福田順一 (宇都宮市 11.26)  
 斎藤重弘 (黒磯市 10.2.26)

・ 健保本人2割負担実施 (9月)

平成10年 (1998)

・ 4.12 (日) 栃眼医総会 (自治医大)

・ 栃眼医理事会 6 回開催 (5.13 (水)、7.22 (水)、9.16 (水)、11.11 (水)、11.1.20 (水)、3.17 (水))

・ 日眼医代議員交代 田口太郎→稲葉光治

|   |   |
|---|---|
| <p>予備代議員交代 稲葉光治→加藤晴夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第34回関東甲信越眼科学会（早津尚夫会長）開催（11.14（土）15（日）<br/>県総合文化センター、宇都宮東武ホテルグランデ） <ol style="list-style-type: none"> <li>自治医大水流忠彦教授「屈折矯正手術をめぐる話題」</li> <li>独協医大小原喜隆教授「白内障の術後管理」</li> <li>日眼医佐野七郎会長「これからの眼科医療」</li> </ol> </li> <li>ほかに眼科医療従事者講習会（栃木会館小ホール）、懇親会（宇都宮東武ホテルグランデ）、ゴルフ（宮の森C.C）、関ブロ支部長会、連絡協議会、審査委員健担当理事連絡会、勤務医委員会、広報、学校保健、医療対策各担当理事連絡会（宇都宮東武ホテルグランデ）、観光「陶芸の里益子めぐり」</li> <li>関東甲信越眼科学会準備委員会 5.27（水）、6.24（水）、9.9（水）、9.20（日）、10.14（水）、11.11（水）6月10月は宇都宮東武ホテルグランデ、9月は県総合文化センター、他は宇都宮市医師会館</li> <li>栃木県緑内障研究会（参天製薬と共催）7.3（金）ホテルニューイタヤ <ol style="list-style-type: none"> <li>群馬大木村保孝助教授「緑内障と眼内循環」</li> <li>日大板橋病院山崎芳夫講師「緑内障の薬物治療」</li> </ol> </li> <li>○自治医大水流忠彦教授着任（4月）<br/>水流教授就任祝賀会 6.12（金）宇都宮東武ホテルグランデ</li> <li>○自治医大伊野田繁助教授就任（6月）清水由花、牧野伸二講師就任（4月）</li> <li>独協医大鈴木隆次郎助教授退職（5月）<br/>鈴木助教授退職記念パーティ 6.26（金）宇都宮東武ホテルグランデ</li> <li>日眼医眼科医療従事者委員交代 早津尚夫 → 柏瀬宗弘（14年まで）</li> <li>国保審査委員増員 水流忠彦就任</li> <li>○開業：高橋直人（岩舟町）<br/>井岡大治（足利市）<br/>落合憲一、落合万理（石橋町）<br/>福島一哉（宇都宮市）</li> <li>●物故：清水昊幸名誉教授（6.26）<br/>大兼俊治（茂木町 11.1.25）</li> <li>県医会長に宝住与一氏</li> </ul> | <p>新瀧県立がんセンター難波克彦先生「乳頭陥凹拡大と視神経乳頭の大きさ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9.24（金）レスキュラ発売5周年記念講演会（藤沢薬品主催、当会後援、ホテル東日本宇都宮）<br/>東大新家真教授「PG関連物質－緑内障治療における位置づけ－」</li> <li>10.15（金）ハイパジールコーワ発売記念講演会（萬有製薬主催、当会後援、ホテル東日本宇都宮）<br/>横浜市立大内尾英一助教授「眼アレルギー疾患の薬物療法」</li> <li>11.14（日）第22回栃眼医研究会（会員および医療従事者ためのプログラムとして主に眼科医療従事者向けの講習会（第1回）として開催）<br/>（2回目以降の記録はP117参照）</li> <li>栃木県社保国保審査委員連絡会開催 6.18日（金）、12.17（金）。以後毎年2回開催とする</li> <li>栃木県糖尿病診療情報提供書作成配布<br/>糖尿病網膜症対策委員会開催（7.28（水）、9.29（水）宇都宮市医師会館）</li> <li>自治医大川島秀俊講師退職（8月）</li> <li>自治医大林みゑ子助教授退職（送別会11.3.15（水）自治医大）</li> <li>○独協医大石崎道治助教授就任（6月）</li> <li>◎日眼医会長表彰：店網淳子</li> <li>○開業：斎藤哲也（栃木市）<br/>大久保彰（宇都宮市）</li> </ul>  |
| <p>平成11年（1999）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4.11（日）栃眼医総会（自治医大）</li> <li>栃眼医役員交代<br/>理事 辞任 原正<br/>新任 広瀬裕子</li> <li>栃眼医理事会6回開催（5.19（水）、7.21（水）、9.8（水）、11.17（水）、12.1.19（水）、3.22（水））</li> <li>5.28（金）トルソプト発売記念学術講演会（萬有製薬主催、当会後援、ホテル東日本宇都宮）</li> </ul>   | <p>平成12年（2000）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4.23（日）栃眼医総会（自治医大）</li> <li>栃眼医理事会6回開催（5.17（水）、7.19（水）、9.22（水）、11.15（水）、13.1.17（水）、3.14（水））</li> <li>栃木眼科セミナー（第2回）（自治医大眼科、興和新薬共催、当会後援、9.8（金）宇都宮東武ホテルグランデ） <ol style="list-style-type: none"> <li>新潟大学眼科阿部春樹教授「緑内障治療の最近の進歩」—</li> <li>秋田大学眼科桜木章三教授「実験的ぶどう膜炎の免疫学」</li> </ol> （第3回以降の記録はP111参照）</li> <li>ケタス点眼液発売記念学術講演会（千寿製薬主催、当会後援、5.12（金）宇都宮東武ホテルグランデ）<br/>慶応大真島行彦助教授「翼状片に対する外科的治療」</li> <li>栃木眼科学術講演会（ファルマシア・アップジョン主催、当会後援、11.10（金）宇都宮東武ホテルグランデ） <ol style="list-style-type: none"> <li>北里大鈴木雅信講師「屈折矯正手術の最近の話題」</li> <li>新潟大福地健郎講師「緑内障薬物治療の最前線」</li> </ol> </li> <li>日本網膜色素変性症協会JRPS栃木支部設立総会（8.6（日）宇都宮市総合福祉センター）</li> <li>厚生労働省がエキシマレーザー装置のPRKに対する使用を認可（1月）</li> </ul> |

- ・点数改訂でPEAをIOL挿入術併施の際安い方の点数が1/2となる(4月)
- 独協医大妹尾正講師就任(4月)
- 自治医大小幡博人講師着任(4月)

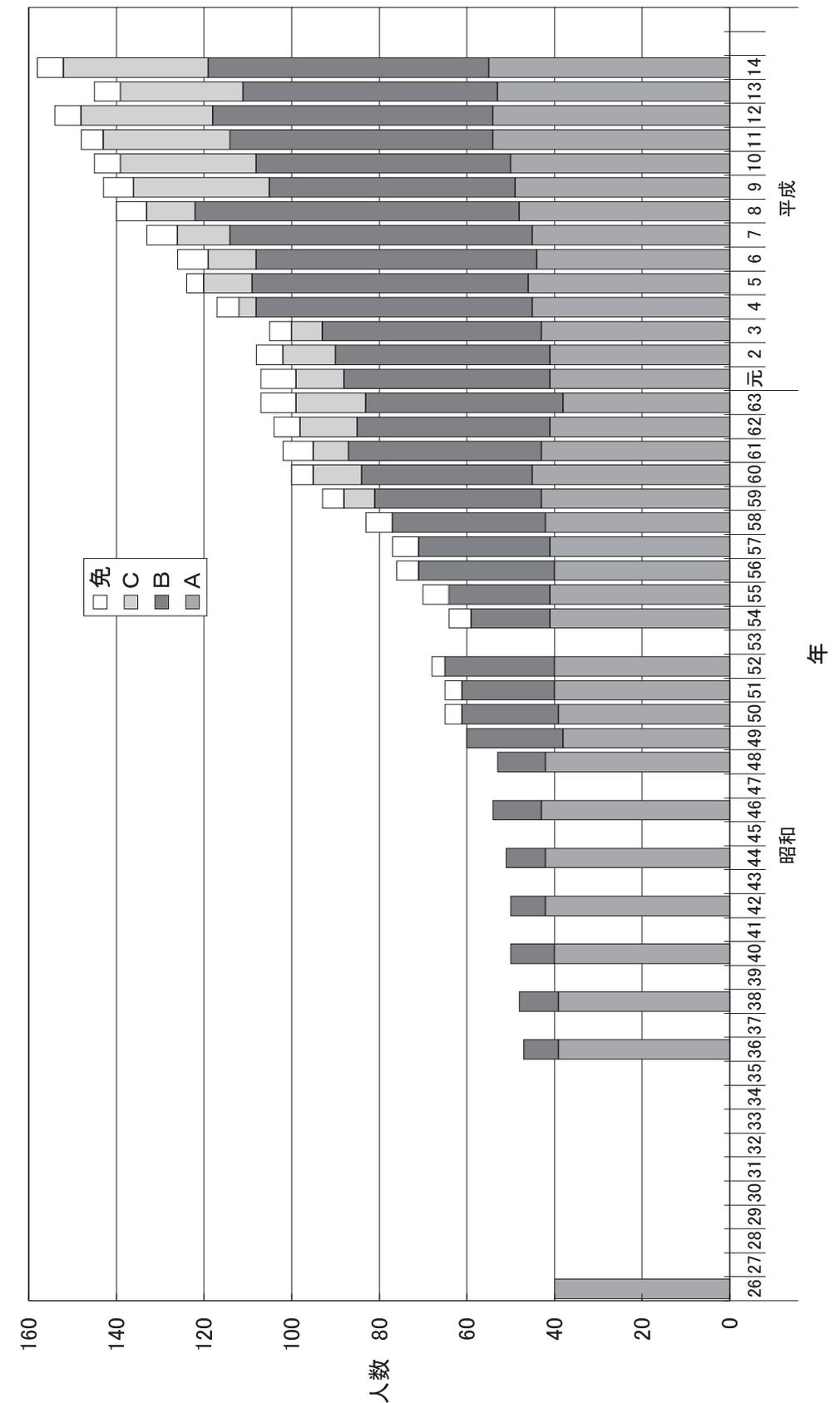
平成13年(2001)

- ・4.8(日) 栃眼医総会(自治医大)
- ・栃眼医役員交代
  - 理事 辞任 中静隆、小西恒夫、小暮正子
  - 新任 浅原典郎、木村純、苗加謙広
- ・栃眼医理事会6回開催(5.16(水)、7.18(水)、9.12(水)、11.21(水)、14.1.16(水)、3.20(水))
- ・社保審査委員交代 原 裕、矢尾板榮子→永田紀子、千葉桂三
- ・県、中学高校現場におけるコンタクトレンズ実態調査実施(4月~6月)
- ・石崎道治独協医大助教授退職(4月)
  - 石崎助教授退職記念パーティ4.24(火) 宇都宮東武ホテルグランデ
- 独協医大吉田紳一郎助教授就任(6月)
- 自治医大原 岳講師着任(4月)
- 開業:石崎道治(壬生町)
  - 蘇 洁訓(小山市)
- 物故:吉沢 清(鹿沼市 5.26)
- 木村弘一(宇都宮市 8.1)

平成14年(2002)

- ・4.14(日) 栃眼医総会(自治医大)
- ・栃眼医理事会6回開催(5.14(水)、7.17(水)、9.18(水)、11.20(水)、15.1.15(水)、3.12(水))
- ・眼科保険審査委員候補者推薦委員会開催(10.4(金) 宇都宮市医師会館)
- ・国保審査委員交代 稲葉光治 → 亀卦川みどり(1月)
- ・自治医大伊野田繁助教授、清水由花講師退職(12月)
  - 伊野田、清水両先生送別会(12.10(火) 宇都宮グランドホテル)
- ・自治医大山上聡講師 東大助教授として転出(5月)
- 自治医大森 樹郎講師着任(6月)
- 国際医療福祉大保健学部視機能療法学科新設(4月)
  - 同大に新井田孝裕教授、山田徹人助教授着任
- 独協医大妹尾 正助教授就任(8月)
- ・日眼医創立70周年記念式典
- ◎勲四等瑞宝章受章:浅原うた子(11月)
- ◎内閣総理大臣章受章:原 博(12月)
- 開業:柏瀬光寿(足利市)
  - 早津宏夫(宇都宮市)
  - 伊野田繁、清水由花(黒磯市)
- 物故:鈴木常千代(小山市 6.2)
- 浅原うた子(足利市 15.2.4)

会員数の推移



## 栃木県眼科医会歴代役員

| 年    | 会 長                      | 副会長           | 理 事   |
|------|--------------------------|---------------|---|
| 創立時  | 稲葉六郎                     | 鈴木常千代         | 三田政夫、斎藤信三郎  |
| 昭 40 | ”                        | 鈴木常千代<br>吉沢 清 | 三田政夫、斎藤重弘、井上太、原 博、阿久津澄義、室本亀吉、小林千里、関本進、石川俊郎、斎藤三郎、赤羽泰造  |
| 昭 48 | ”                        | ”             | (退任) 井上 太、阿久津澄義、関本 進、石川俊郎、赤羽泰造<br>(新任) 田口太郎、早津尚夫、木村弘一、原孜、稲葉光治、柏瀬宗弘  |
| 昭 52 | ”                        | ”             | (退任) なし<br>(新任) 久保田芳雄、渡辺昭司、関本俊男、田島幸男  |
| 昭 56 | ”                        | ”             | 早津尚夫、田口太郎、原 孜、柏瀬宗弘、久保田芳雄、小林千里、渡辺昭司、稲葉光治、○宮下 浩、田島幸男<br>○加藤晴夫、○大原国俊、○鈴木隆次郎、関本俊男、○松島雄二、原 博、三田政夫、斎藤重弘、室本亀吉、木村弘一 (○は新任)              |
| 昭 59 | 吉沢 清<br>(名誉会長)<br>(稲葉六郎) | 早津尚夫<br>柏瀬宗弘  | 田口太郎、原 孜、久保田芳雄、渡辺昭司、小林千里、稲葉光治、宮下 浩、大原国俊、鈴木隆次郎、加藤晴夫、○斎藤武久、○中静 隆、原 博、○阿久津行永、○室本雅夫、田島幸男、○斎藤明郎、松島雄二 (○は新任)                          |
| 昭 61 | 吉沢 清                     | 早津尚夫<br>柏瀬宗弘  | (退任) 室本雅夫<br>(新任) 関本俊男  |
| 平 1  | 早津尚夫                     | 柏瀬宗弘<br>田口太郎  | 稲葉光治、宮下 浩、原 孜、田島幸男、○福田順一、鈴木隆次郎、中静 隆、加藤晴夫、斎藤武久、松島雄二<br>○小暮正子、大原国俊、○柳沢仍子、○千葉桂三、○井上成紀<br>○鈴木 光、久保田芳雄、阿久津行永、関本俊男、○小西恒夫、○大久保彰 (○は新任) |
| 平 5  | ”                        | ”             | (退任) 久保田芳雄、柳沢仍子、大原国俊、関本俊男<br>(新任) 永田紀子、原 正、菊池武邦、林みゑ子  |
| 平 7  | ”                        | 柏瀬宗弘<br>稲葉光治  | (退任) 阿久津行永、田島幸男、福田順一<br>(新任) 青木和加、原 裕、城山力一、釣巻 穰   |
| 平 9  | ”                        | ”<br>”        | (退任) 原 孜、青木和加、釣巻 穰<br>(新任) 旭 英幸、吉沢 徹、伊野田繁   |
| 平 11 | ”                        | ”             | (退任) 原 正、大久保彰、鈴木隆次郎、林みゑ子<br>(新任) 広瀬裕子、高橋雄二、石崎道治、山上 聡  |
| 平 13 | ”                        | ”             | (退任) 中静 隆、小西恒夫、小暮正子、石崎道治<br>(新任) 浅原典郎、木村 純、苗加謙広、須田雄三  |

| 監 事           | 顧 問                                  | 代議員<br>(予備代議員)                   | 審 査 委 員               |              |
|---------------|--------------------------------------|----------------------------------|-----------------------|--------------|
|               |                                      |                                  | 社 保                   | 国 保          |
| 原 蕃<br>宮下幸一   |                                      | 吉沢 清<br>(井上太)                    | 鈴木常千代<br>井上 太         | 石川俊郎         |
|               |                                      | 吉沢 清<br>(柏瀬宗弘)                   | 鈴木常千代<br>三田政夫         | 柏瀬宗弘         |
| 原 蕃<br>加藤好夫   |                                      | ”                                | ”                     | ”            |
| 原 蕃<br>湯本 誠   | 清水昊幸<br>関 亮<br>小暮文雄                  | ”                                | ”                     | ”            |
| 湯本 誠<br>木村弘一  | 清水昊幸<br>関 亮<br>小暮文雄<br>鈴木常千代         | 早津尚夫<br>(柏瀬宗弘)                   | ”                     | 宮下 浩         |
| ”             | ”                                    | 早津尚夫<br>柏瀬宗弘<br>(原博)<br>(稲葉光治)   | 鈴木常千代<br>吉沢 清         | ”            |
| 湯本 誠<br>木村弘一  | 清水昊幸<br>関 亮<br>小暮文雄<br>鈴木常千代<br>吉沢 清 | 早津尚夫<br>柏瀬宗弘<br>(田口太郎)<br>(稲葉光治) | 田口太郎<br>田島幸男<br>小西恒夫  | 原 孜          |
| 湯本 誠<br>久保田芳雄 | 清水昊幸<br>小暮文雄<br>鈴木常千代<br>吉沢 清        | ”                                | 小西恒夫<br>青木和加<br>久保田芳雄 | 原 孜          |
| 久保田芳雄<br>田口太郎 | ”                                    | 柏瀬宗弘<br>田口太郎<br>(稲葉光治)<br>(斎藤武久) | 原 裕<br>矢尾板榮子          | 福田順一         |
| 田口太郎<br>原 孜   | 清水昊幸<br>小原喜隆<br>鈴木常千代<br>吉沢 清        | ”                                | 原 裕<br>矢尾板榮子<br>早津尚夫  | 稲葉光治         |
| ”             | 小原喜隆<br>水流忠彦                         | 柏瀬宗弘<br>稲葉光治<br>(斎藤武久)<br>(加藤晴夫) | ”                     | 稲葉光治<br>水流忠彦 |
| ”             | ”                                    | ”                                | 早津尚夫<br>千葉桂三<br>永田紀子  | ”            |

## 栃木県眼科集談会特別講演（春期）

| 回  | 年 月 日           | 会 場  | 講 師  | 演 題                                    |
|----|-----------------|------|--|--|
| 1  | S 56. 5 .24(日)  | 獨協医大 | 中島 章<br>(順天堂大教授)<br>曲谷久雄<br>(順天堂大講師)<br>百瀬隆行<br>(順天堂大) | コンタクトレンズの臨床的応用                         |
| 3  | S 57.4.18(日)    | 獨協医大 | 大石正夫<br>(新潟大助教授)<br>箕田健生<br>(東京大分院助教授)                 | 眼科における抗生物質の使い方<br>網膜芽細胞腫の診断と治療         |
| 5  | S 58. 4 .17(日)  | 獨協医大 | 高瀬正彌<br>(東京大講師)<br>清水弘一<br>(群馬大教授)                     | $\beta$ ブロッカー点眼剤について<br>糖尿病性網膜症の予後の読み方 |
| 7  | S 59. 4 .15(日)  | 自治医大 | 北野周作<br>(日大教授)<br>三島濟一<br>(東京大教授)                      | 角膜ヘルペス最近の話題<br>緑内障の最近の治療法              |
| 9  | S 60. 4 . 7 (日) | 自治医大 | 深道義尚<br>(昭和大教授)  | 眼外傷                                    |
| 11 | S 61. 4 .13(日)  | 自治医大 | 福田雅俊<br>(琉球大教授)  | 糖尿病性網膜症の臨床をめぐって                        |
| 13 | S 62. 4 .12(日)  | 自治医大 | 江口甲一郎<br>(江口眼科病院長)                                     | 眼科小手術の「こつ」及び術時の<br>感染予防について            |
| 15 | S 63. 4 .17(日)  | 自治医大 | 戸張幾生<br>(東邦大大橋病院教授)                                    | 老人性円盤状黄斑変性症の<br>色素レーザー治療               |
| 17 | H 1 . 4 . 9 (日) | 自治医大 | 塚原重雄<br>(山梨医大教授)                                       | 緑内障薬物療法の要点                             |
| 19 | H 2 . 4 .15(日)  | 自治医大 | 大野重昭<br>(横浜市大教授)                                       | 眼疾患の免疫療法                               |
| 21 | H 3 . 4 .14(日)  | 自治医大 | 佐々木一之<br>(金沢医大教授)                                      | 白内障・偽水晶体眼の観察法                          |

|    |                |      |                               |                                   |
|----|----------------|------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 23 | H 4 . 4 .26(日) | 自治医大 | 大庭紀雄<br>(鹿児島大教授)              | 遺伝性眼疾患の遺伝子の分析                     |
| 25 | H 5 . 4 .25(日) | 自治医大 | 馬嶋慶直<br>(藤田保健衛生大教授)           | 本邦における白内障手術と眼内レンズ<br>挿入術の変遷とその現状  |
| 27 | H 6 . 4 .24(日) | 自治医大 | 堀 貞夫<br>(東京女子医大<br>糖尿病センター教授) | 糖尿病網膜症の管理                         |
| 29 | H 7 . 4 .16(日) | 自治医大 | 澤 充<br>(日大教授)                 | 角膜の日常臨床                           |
| 31 | H 8 . 4 .21(日) | 自治医大 | 丸尾敏夫<br>(帝京大教授)               | 斜視の診断と治療                          |
| 33 | H 9 . 4 .20(日) | 自治医大 | 玉井 信<br>(東北大教授)               | 網膜疾患に対する最近の臨床研究と<br>基礎研究          |
| 35 | H10. 4 .12(日)  | 自治医大 | 竹内 忍<br>(東邦大佐倉病院教授)           | 網膜剥離と硝子体手術                        |
| 37 | H11. 4 .11(日)  | 自治医大 | 岸 章治<br>(群馬大教授)               | 光干渉断層計(OCT)の眼科臨床応用                |
| 39 | H12. 4 .23(日)  | 自治医大 | 山下英俊<br>(山形大教授)               | 糖尿病網膜症診療の現状と課題                    |
| 41 | H13. 4 .23(日)  | 自治医大 | 沖坂重邦<br>(防衛医大教授)              | 緑内障性視神経障害の病態                      |
| 43 | H14. 4 .14(日)  | 自治医大 | 大鹿哲郎<br>(東京大助教授)              | 眼光学と臨床<br>—ヒトの視力は<br>どこまでよくなるのか?— |

## 栃木県眼科集談会特別講演（秋期）

| 回  | 年月日           | 会場           | 講師                                     | 演題                                |
|----|---------------|--------------|--|-----------------------------------|
| 2  | S 56.10.18(日) | 自治医大         | 澤 充<br>(自治医大講師)                        | 角膜の臨床検査法                          |
| 4  | S 57.10.17(日) | 自治医大         | 川島洵二<br>(古河市)<br>石川 哲<br>(北里大教授)       | アオバアリガタハネカクシによる眼障害<br>瞳孔に関する話題    |
| 6  | S 58.10.23(日) | 自治医大         | 鈴木隆次郎<br>(獨協医大助教授)<br>東 郁郎<br>(大阪医大教授) | 糖尿病の眼合併症<br>緑内障診療の2、3の問題点         |
| 8  | S 59.10.12(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 大原国俊<br>(自治医大助教授)                      | スペキュラーマイクロスコープ                    |
| 10 | S 60.10.11(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 小原喜隆<br>(獨協医大越谷病院教授)                   | 白内障者の視機能                          |
| 12 | S 61.10.17(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 山本裕子<br>(自治医大講師)                       | 斜視及び弱視の診断と治療                      |
| 14 | S 62.10.16(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 石崎道治<br>(獨協医大講師)                       | アレルギー性結膜炎                         |
| 16 | S 63.10.14(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 清水昊幸<br>(自治医大教授)                       | 5度角度付後房レンズ開発の経験から                 |
| 18 | H 1.11.10(金)  | 宇都宮市<br>医師会館 | 宮下浩平<br>(獨協医大)                         | コンタクトレンズの基礎と臨床                    |
| 20 | H 2.10.12(金)  | 国立栃木<br>病 院  | 水流忠彦<br>(自治医大講師)                       | 目とプロスタグランディンズ                     |
| 22 | H 3.11.8(金)   | 宇都宮市<br>医師会館 | 高田 潤<br>(獨協医大)                         | 栃木県眼科地域医療計画について                   |
| 24 | H 4.10.16(金)  | 国立栃木<br>病 院  | 大久保彰<br>(自治医大講師)                       | 家族性滲出性硝子体網膜症(FEVR)<br>－診断と合併症の治療－ |
| 26 | H 5.10.22(金)  | 宇都宮市<br>医師会館 | 須田雄三<br>(獨協医大)                         | テクノストレスと眼                         |
| 28 | H 6.11.18(金)  | 宇都宮市<br>医師会館 | 釣巻 穰<br>(自治医大講師)                       | レーザーフレアセルメーター：臨床への<br>応用          |

|    |               |              |                     |                                  |
|----|---------------|--------------|---------------------|----------------------------------|
| 30 | H 7.10.31(金)  | 宇都宮市<br>医師会館 | 崎尾秀彰<br>(獨協医大麻醉科教授) | 眼科医に必要な麻酔の知識                     |
| 32 | H 8.10.4(金)   | 宇都宮市<br>医師会館 | 伊野田 繁<br>(自治医大講師)   | 硝子体手術の適応と手術成績<br>－最近1000眼の自験例から－ |
| 34 | H 9.10.24(金)  | 済生会宇<br>都宮病院 | 妹尾 正<br>(獨協医大)      | 角膜移植の現状                          |
| 36 | H 10.11.20(金) | 済生会宇<br>都宮病院 | 梯 彰弘<br>(自治医大講師)    | スリットランプによる硝子体検査                  |
| 38 | H 11.10.29(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 千葉桂三<br>(獨協医大講師)    | 知っておきたいコンタクトレンズの<br>使い方          |
| 40 | H 12.10.20(金) | 済生会宇<br>都宮病院 | 山上 聡<br>(自治医大講師)    | 角膜移植手術の臨床と免疫反応                   |
| 42 | H 13.10.26(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 鈴木重成<br>(獨協医大)      | 獨協医科大学におけるぶどう膜炎の<br>最近の動向        |
| 44 | H 14.10.25(金) | 宇都宮市<br>医師会館 | 小幡博人<br>(自治医大講師)    | 角結膜疾患の病態と病理                      |

獨協医大眼科栃眼医合同講演会 講師及び演題  
(第1～3回は獨協医大眼科講演会)

| 回 | 年月日            | 会場           | 講師  | 演題  |
|---|----------------|--------------|---|---|
| 1 | S 54. 1 .20(土) | 獨協医大         | 馬嶋慶直<br>(名古屋保衛大教授)<br>湖崎 弘<br>(大阪市)<br>林 文彦<br>(福岡市)      | 超音波白内障手術<br>緑内障手術<br>人工水晶体手術  |
| 2 | S 54. 7 .22(日) | 獨協医大         | 丸尾敏夫<br>(帝京大教授)<br>湖崎 克<br>(大阪小児保健センター)                   | 小児の屈折<br>小児検査法の問題点  |
| 3 | S 55. 7 .26(土) | 獨協医大         | 内田幸男<br>(東京女子医大教授)<br>田中直彦<br>(横浜市大教授)                    | 結膜感染症<br>角膜感染症  |
| 4 | S 56. 7 .26(土) | 獨協医大         | 岸田博公<br>(日眼医常任理事)<br>植村恭夫<br>(慶應大教授)                      | 眼科学校保健の歴史と現況<br>乳幼児眼科の実際  |
| 5 | S 57. 7 .11(土) | 宇都宮市<br>文化会館 | 船橋知也<br>(慈恵医大教授)<br>井上洋一<br>(東京都)                         | 眼科臨床落穂拾い<br>緑内障プライマリーケア   |
| 6 | S 58. 7 .24(日) | 獨協医大         | 嶋田孝吉<br>(前自治医大助教授)<br>大野重昭<br>(北大助教授)<br>増田寛次郎<br>(東大助教授) | ブドウ膜炎における感染と免疫<br>サルコイドーシス、トキソプラズマ症およびその他のブドウ膜炎<br>ベーチェット病、原田病の診療及び治療について |

|    |                |      |  |   |
|----|----------------|------|--|---|
| 7  | S 59. 7 .29(日) | 獨協医大 | 小原喜隆<br>(獨協医大越谷病院教授)<br>加藤桂一郎<br>(福島大教授)<br>田沢 豊<br>(岩手医大教授) | ステロイドによる眼の異常とその対策<br>眼成人病のスクリーニングよりみた視野<br>糖尿病性網膜症の電気生理現象 |
| 8  | S 60. 7 .28(日) | 獨協医大 | 鈴木隆次郎<br>(獨協医大助教授)<br>西信元嗣<br>(奈良医大教授)<br>中谷 一<br>(大阪厚生年金病院) | 糖尿病性網膜症の眼科管理<br>眼科臨床における光学的検査の問題点<br>眼圧測定とその問題点           |
| 9  | S 61. 7 .20(日) | 獨協医大 | 中村泰久<br>(富山医薬大助教授)<br>井出 醇<br>(山形市)<br>久富 潮<br>(東京都)         | 涙道再手術について<br>形成外科を含めた外来小手術<br>日常出会う眼瞼形成の症例                |
| 10 | S 62. 8 .2(日)  | 獨協医大 | 樋田哲夫<br>(杏林大助教授)<br>遠藤成美<br>(横浜市)                            | 角膜デストロフィーに関する最近の知見<br>今日の色々な自動視野計に関するノウハウについて             |
| 11 | S 63. 7 .17(日) | 獨協医大 | 千葉桂三<br>(獨協医大講師)<br>野寄喜美春<br>(埼玉医大教授)<br>旭 英幸<br>(獨協医大)      | 角膜内皮の臨床<br>レーザー治療と副作用<br>片眼性乳頭腫脹の4例                       |
| 12 | H 1 . 7 .23(日) | 獨協医大 | 星 兵仁<br>(郡山市)<br>折笠二三子<br>(郡山市)<br>平岡利彦<br>(獨協医大)            | 眼内レンズ移植術の条件<br>眼内レンズ手術の術前・術後の看護<br>初心者のための眼内レンズ挿入術        |

|    |                  |              |   |  |
|----|------------------|--------------|---|--|
| 13 | H 2 . 7 .22(H)   | 獨協医大         | 沖坂重邦<br>(防衛医大教授)<br>玉井 信<br>(東北大教授)<br>横田章夫<br>(獨協医大講師) | 眼内レンズ挿入に必要な解剖と病理<br>硝子体手術の臨床<br>色覚異常の基礎と臨床 |
| 14 | H 3 . 6 .16(H)   | 宇都宮市<br>文化会館 | 山口達夫<br>(聖路加病院眼科副部長)<br>小暮文雄<br>(獨協医大教授)                | 角膜屈折矯正の手術<br>眼科医事紛争のあれこれ                   |
| 15 | H 4 . 7 .24(金)   | 獨協医大         | 植村 攻<br>(参天製薬品質管理室)<br>鈴木利根<br>(獨協医大越谷病院講師)             | 点眼剤の製剤設計と開封後の留意点<br>外来診療における神経眼科           |
| 16 | H 5 . 7 .16(金)   | 獨協医大         | 金子行子<br>(東京女子医大・第二病院)<br>田中靖彦<br>(慶応大助教授)               | 難治性結膜疾患<br>先天性白内障の治療に関する諸問題                |
| 17 | H 6 . 7 .8(金)    | 獨協医大         | 八木恵子<br>(福島県立医大助教授)<br>米谷新<br>(埼玉医大教授)                  | 乳幼児の屈折矯正<br>I C G 蛍光眼底造影法と脈絡膜循環            |
| 18 | H . 7 . 7 .21(金) | 獨協医大         | 落合慈之<br>(獨協医大脳神経外科助教授)<br>佐藤幸裕<br>(日大駿河台病院講師)           | 眼窩腫瘍の診断と治療<br>糖尿病黄斑症の診断と治療                 |
| 19 | H 8 . 7 .12(金)   | 獨協医大         | 箕田健生<br>(帝京大市原病院教授)<br>水流忠彦<br>(東大角膜移植部助教授)             | 眼内腫瘍について<br>エキシマレーザー角膜手術と基礎と臨床             |

|    |                 |      |  |   |
|----|-----------------|------|--|---|
| 20 | H 9 . 8 .1(金)   | 獨協医大 | 白井正彦<br>(東京医大教授)<br>大橋裕一<br>(愛媛大教授)          | ぶどう膜炎治療の実際<br>よくある角膜所見とその考え方              |
| 21 | H 10 . 7 .31(金) | 獨協医大 | 東 範行<br>(国立小児病院部長)<br>樋田哲夫<br>(杏林大教授)        | 小児眼科疾患の診方と重傷網膜症の治療<br>硝子体接線方向牽引と網膜病変      |
| 22 | H 11 . 7 .30(金) | 獨協医大 | 米谷 新<br>(埼玉医大教授)<br>大原国俊<br>(日医大教授)          | 眼底病変のレーザー治療<br>眼サルコイドーシスの臨床               |
| 23 | H 12 . 7 .21(金) | 獨協医大 | 後藤 浩日<br>(東京医大講師)<br>恵美和幸<br>(大阪労災病院)        | 常よく見る前眼部腫瘍性病変<br>- 診断と治療のポイント<br>硝子体手術の進歩 |
| 24 | H 13 . 7 .27(金) | 獨協医大 | 若倉雅登<br>(井上眼科病院副院長)<br>鈴木利根<br>(獨協医大越谷病院助教授) | 視神経炎とその周辺<br>眼瞼異常の診断と治療                   |
| 25 | H 14 . 7 .26(金) | 獨協医大 | 山田昌和<br>(慶大講師)<br>北原健二<br>(慈恵医大教授)           | マイボーム腺機能不全の診断と治療<br>色覚の現状                 |

## 栃眼医研究会 講師及び演題

| 回 | 年 月 日          | 会 場               | 講 師   | 演 題  |
|---|----------------|-------------------|---|--|
| 1 | H 1 . 9 .13(土) | 宇都宮<br>グランドホテル    | 大石正夫<br>(新潟大助教授)  | 眼科における最近の抗菌剤の使い方   |
| 2 | H 1 .11.24(金)  | 宇都宮市<br>医師会館      | 吉田顕照<br>(獨協医大)<br>水流忠彦<br>(自治医大講師)<br>横田章夫<br>(獨協医大)          | 角膜内皮と表面成長因子<br>(epidermalgrowth factor:EGF) について<br>培養角膜内皮細胞を用いた眼科研究法に<br>ついて<br>暗順応とスタイリスクロフォード効果に<br>ついて |
| 3 | H 2 . 6 .10(日) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 塚原重雄<br>(山梨医大教授)<br>岩田和雄<br>(新潟大教授)<br>北澤克明<br>(岐阜大教授)        | 緑内障の疫学<br><br>緑内障の診断-眼底所見を中心に-<br><br>緑内障の管理と薬物治療  |
| 4 | H 2 .11.16(金)  | 国立栃木<br>病院        | 林みゑ子<br>(自治医大講師)  | UveoscleralOutflow   |
| 5 | H 3 . 3 .24(日) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 池沢善郎<br>(横浜市大皮膚科助教授)<br>百瀬隆行<br>(順天堂大講師)<br>大野重昭<br>(横浜市立大教授) | アトピー性皮膚炎の臨床とその抱える問<br>題点<br>コンタクトレンズ装用による巨大乳頭結<br>膜炎 (GPC) の診断と治療<br>アレルギー性眼疾患の診断と治療                       |
| 6 | H 3 . 7 .21(日) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 坪田一男<br>(東京歯大助教授)<br>戸田郁子<br>(東京歯大)<br>山本裕子<br>(自治医大助教授)      | ドライアイの診断と治療<br><br><br>3才児検診でスクリーニングされて<br>来院した児の検査  |
| 7 | H 4 . 1 .17(金) | 宇都宮市<br>医師会館      | 太田誠一郎<br>(獨協医大)<br>石崎道治<br>(獨協医大)                             | 角膜内皮の代謝と臨床<br><br>眼科領域におけるクラジミア  |

|    |                |                   |  |                                    |
|----|----------------|-------------------|--|------------------------------------|
| 8  | H 4 .12.18(金)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 桜井賢樹<br>(AIDS医療情報センタ<br>ー情報収集班長)                 | 世界におけるA I D Sの現状と将来                |
| 9  | H 5 .12.10(金)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 佐々木洋<br>(自治医大)                                   | アスコルビン酸と糖白内障                       |
| 10 | H 6 . 2 .13(日) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 佐藤 夫<br>(栃木県薬剤師会<br>常任理事)<br>小泉一弘<br>(日光市)       | 医薬分業について<br><br>スギ花粉アレルギーの診断と治療    |
| 11 | H 6 .12. 9(金)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 平岡利彦<br>(獨協医大講師)                                 | 白内障治療薬への探究                         |
| 12 | H 7 . 1 .20(金) | ホテル<br>東日本<br>宇都宮 | 塚田重雄<br>(山梨医大教授)                                 | 緑内障薬物療法の問題点                        |
| 13 | H 7 . 2 .17(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 島崎 潤<br>(東京歯大講師)<br>宮永嘉隆<br>(東京女子医大付属<br>第二病院教授) | 角膜手術による屈折矯正<br><br>最近の眼感染症の動向      |
| 14 | H 7 .12. 8(金)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 茨木信博<br>(自治医大講師)                                 | ヒト水晶体上皮細胞の培養<br>—水晶体の再生をめざして—      |
| 15 | H 8 . 2 .23(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 千葉桂三<br>(獨協医大講師)<br>雑賀寿和<br>(日本医大助教授)            | 角膜上皮疾患の治療<br><br>アレルギー性結膜炎疾患の診断と治療 |
| 16 | H 8 .12. 5(木)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 松島博之<br>(獨協医大)                                   | 水晶体の混濁と細胞骨格蛋白質                     |
| 17 | H 9 . 2 .14(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ | 大鹿哲郎<br>(東大分院講師)                                 | 超音波水晶体乳化吸引術を正しく学ぼう                 |

|    |                |                           |   |   |
|----|----------------|---------------------------|---|---|
| 18 | H 9 .11.21(金)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ         | 土坂寿行<br>(東京女子医大教授)<br>北野周作<br>(日大名誉教授)  | 個々の症例における緑内障治療薬の選択<br>眼感染症トピックス                       |
| 19 | H 10. 1 .23(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ         | 石崎道治<br>(獨協医大講師)<br>坪田一男<br>(東京歯大助教授)   | スギ花粉症とアトピー性角膜炎の治療と<br>コツ<br>ドライアイとアレルギー性結膜炎           |
| 20 | H 11. 1 .22(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ         | 森田博之<br>(川口市立医療<br>センター眼科医長)<br>田川義継<br>(北大部助教授)                              | 糖尿病性網膜症の診断と治療<br>難治性角結膜疾患の病態と治療                       |
| 21 | H 11. 6 .25(金) | ホテル<br>東日本<br>宇都宮         | 山上淳吉<br>(J R 東京総合病院)<br>朽久保哲男<br>(東邦大教授)                                      | 最近の緑内障薬投薬法について<br>トラベクトミーを中心とした緑内障手<br>術について          |
| 22 | H 11.11.14(日)  | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ         | 雨宮恵美<br>(保健医療福祉<br>サービス研究会)<br>佐渡一成<br>(順天堂大講師)<br>千坂徹彌<br>(参天製薬眼科経営<br>研究室長) | 眼科におけるこれからの患者接遇<br>コンタクトレンズ最近の話題<br>医療保険制度改革下における眼科医療 |
| 23 | H 12. 6 .16(金) | ホテル<br>ニュー<br>イタヤ         | 小椋祐一郎<br>(名市大教授)<br>三宅謙作<br>(湘山会眼科三宅病院)                                       | 白血球からみた網膜微小循環<br>半世紀を迎えた白内障/I .O .L 手術の問<br>題点        |
| 24 | H 13. 1 .19(金) | 宇都宮<br>東 武<br>ホテル<br>グランデ | 木下 茂<br>(京都府立医大教授)<br>清水公也<br>(北里大教授)   | OcularSurface疾患のマネージメント<br>LASIKにおける合併症とその管理          |

|    |                |                          |  |                                      |
|----|----------------|--------------------------|--|--------------------------------------|
| 25 | H 13. 6 .22(金) | ホテル<br>東日本<br>宇都宮        | 白土城照<br>(東京医大八王子<br>医療センター教授)<br>吉村長久<br>(信州大教授) | 現在の緑内障薬物治療実際<br>加齢黄斑変性症の基礎と臨床        |
| 26 | H 14. 1 .18(金) | 宇都宮<br>東武<br>ホテル<br>グランデ | 宮田和典<br>(宮田眼科病院院長)<br>本田孔士<br>(京都大教授)            | PRK、LASIKの角膜への功罪<br>網膜の再生研究はここまできている |
| 27 | H 14. 6 .14(金) | 宇都宮<br>東武<br>ホテル<br>グランデ | 福田昌彦<br>(近畿大講師)<br>井上幸次<br>(鳥取大教授)               | ドライアイの診断と治療<br>難治性前眼部感染症のマネジメント      |
| 28 | H 15. 1 .17(金) | 宇都宮<br>東武<br>ホテル<br>グランデ | 三村 治<br>(兵庫医大教授)<br>大野重昭<br>(北海道大教授)             | 明日から使える神経眼科診断法<br>眼科診療の安全管理          |

## 下野眼科談話会 特別講演 講師及び演題

| 回  | 年月日          | 会場                | 講師                    | 演題                                |
|----|--------------|-------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 1  | H 3.3.12(火)  | ホテルサンルート栃木        | 高村悦子<br>(東京女子医大講師)    | 前眼部感染症の臨床                         |
| 2  | H 4.3.4(水)   | 小山<br>グランド<br>ホテル | 若倉雅登<br>(北里大助教授)      | 神経眼科からみた緑内障                       |
| 3  | H 5.3.2(水)   | 小山<br>グランド<br>ホテル | 石橋康久<br>(東京女子医大第二病院)  | コンタクトレンズによる角膜障害の治療<br>—感染症を中心に—   |
| 4  | H 6.3.9(水)   | 小山<br>グランド<br>ホテル | 湯沢美都子<br>(日大講師)       | 黄斑部疾患<br>—老人性円板状黄斑変性<br>症の臨床について— |
| 5  | H 7.3.15(水)  | 小山<br>グランド<br>ホテル | 西岡清<br>(東京医歯大皮膚科教授)   | 皮膚疾患と眼                            |
| 6  | H 8.3.13(水)  | 小山<br>グランド<br>ホテル | 松島照彦<br>(筑波大臨床医学系講師)  | 脂質代謝と動脈硬化 —最近の話題—                 |
| 7  | H 9.3.11(水)  | 小山<br>グランド<br>ホテル | 大森健一<br>(獨協医大精神神経科教授) | 眼とこころ                             |
| 8  | H 10.3.10(火) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 栗原秀行 (羽生市)            | 眼科手術の現状と将来                        |
| 9  | H 11.5.18(火) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 坂井潤一<br>(東京医大助教授)     | 感染性ぶどう膜炎の診断と治療の実際                 |
| 10 | H 12.3.14(火) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 上野聡樹<br>(聖マリアンナ医大教授)  | 閉塞隅角緑内障の治療                        |
| 11 | H 13.3.30(火) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 八子恵子<br>(福島県立医大教授)    | 斜視弱視における光学的治療                     |

|    |              |                   |                            |             |
|----|--------------|-------------------|----------------------------|-------------|
| 12 | H 14.3.29(金) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 矢部比呂夫<br>(東邦大大橋病院助教授)      | 最近の眼窩・眼形成術  |
| 13 | H 15.3.28(金) | 小山<br>グランド<br>ホテル | 浜中輝彦<br>(日赤医療センター<br>眼科部長) | 続発緑内障の診断と治療 |

## 栃木眼科セミナー 講師及び演題

| 回 | 年月日           | 会場                       | 講師                                 | 演題                                 |
|---|---------------|--------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 | H 11.10.15(金) | ホテル<br>東日本<br>宇都宮        | 上野聡樹<br>(聖マリアンナ医大)                 | 緑内障の最近の話題                          |
| 2 | H 12.9.8(金)   | 宇都宮<br>東武<br>ホテル<br>グランデ | 阿部春樹<br>(新潟大教授)<br>桜木章三<br>(秋田大教授) | 緑内障治療の最近の進歩<br>実験的ぶどう膜炎の免疫学        |
| 3 | H 13.2.16(金)  | 小山<br>グランド<br>ホテル        | 八木恵子<br>(福島県立大教授)                  | 眼窩疾患への取り組み方                        |
| 4 | H 13.9.7(金)   | ホテル<br>東日本<br>宇都宮        | 中塚和夫<br>(大分医大教授)                   | 臨床E R G                            |
| 5 | H 14.2.15(金)  | 小山<br>グランド<br>ホテル        | 大西克尚<br>(和歌山県立医大教授)                | 眼内腫瘍の診断と治療<br>—眼底疾患での鑑別の重要性—       |
| 6 | H 14.9.6(金)   | ホテル<br>東日本<br>宇都宮        | 薄井紀夫<br>(東京医大八王子医療<br>センター助教授)     | ClearandPresentDanger<br>—術後眼内炎対策— |
| 7 | H 15.2.14(金)  | 小山<br>グランド<br>ホテル        | 澤口昭一<br>(琉球大教授)                    | 閉塞隅角緑内障の基礎と臨床                      |

栃木県眼科手術談話会  
(栃眼医勤務医部主催)

| 回 | 年 月 日            | 会 場      | 出席者数 |
|---|------------------|----------|------|
| 1 | H 7 . 3 . 30(木)  | 国立栃木病院   | 38名  |
| 2 | H 8 . 2 . 8(木)   | 国立栃木病院   | 38名  |
| 3 | H 8 . 11 . 14(木) | 済生会宇都宮病院 | 23名  |
| 4 | H 9 . 6 . 6(金)   | 済生会宇都宮病院 | 36名  |
| 5 | H 10 . 3 . 13(金) | 済生会宇都宮病院 | 32名  |
| 6 | H 11 . 2 . 19(金) | 済生会宇都宮病院 | 36名  |
| 7 | H 12 . 9 . 28(金) | 済生会宇都宮病院 | 25名  |
| 8 | H 14 . 2 . 22(金) | 済生会宇都宮病院 | 28名  |
| 9 | H 15 . 2 . 28(金) | 済生会宇都宮病院 | 26名  |

栃木県総合医学会眼科研究発表

No.1

| 回  | 年 度 | 演 者              | 演 題                         |
|----|-----|------------------|-----------------------------|
| 1  | S36 | 吉沢 清 (鹿沼市)       | 眼球内鉄片異物の永久磁石による摘出法          |
| 2  | 37  | 室本 亀吉 (済生会宇都宮病院) | 栃木県における高度視力障害の原因別調査成績 (第2報) |
| 3  | 38  | 高橋 益夫 (塩谷病院)     | 高血圧集団検診の眼底所見の考察             |
| 4  | 39  | 小松 伸弥 (日光精鋼所病院)  | 角膜移植手術について                  |
| 5  | 40  | 室本 亀吉 (済生会宇都宮病院) | 糖尿病性網膜症とビタミンB12の治療効果について    |
| 6  | 41  |                  | 眼科発表なし                      |
| 7  | 42  | 早津 尚夫 (国立栃木病院)   | 網膜動脈閉塞症と頸動脈系閉塞疾患との合併例について   |
| 8  | 43  |                  | 眼科発表なし                      |
| 9  | 44  |                  | 眼科発表なし                      |
| 10 | 45  | 岡田 信道 (上都賀病院)    | 眼トキソプラズマ症の診断と治療             |
| 11 | 46  | 小西 恒夫 (国立栃木病院)   | ステロイド緑内障の2例                 |
| 12 | 47  | 原 孜 (宇都宮市)       | 光凝固法について                    |
| 13 | 48  | 原 孜 (宇都宮市)       | プロカインショックと皮内テスト             |
| 14 | 49  | 田島 幸男 (栃木市)      | 流涙症の治療、特に鼻腔との関係             |
| 15 | 50  | 高塚 忠弘 (国立栃木病院)   | 未熟児網膜症について                  |
| 16 | 51  | 宮下 浩 (宇都宮市)      | 眼科領域におけるステロイド治療に対するFADの効果   |

栃木県総合医学会眼科研究発表

No.2

| 回  | 年度  | 演者             | 演題  |
|----|-----|----------------|---|
| 17 | S52 | 清水 昊幸 (自治医大)   | 糖尿病性網膜症による失明とその防止法                                  |
| 18 | 53  | 小暮 文雄 (独協医大)   | 新しい眼鏡について   |
| 19 | 54  | 原 孜 (宇都宮市)     | 眼科病院職員の生涯教育について                                     |
| 20 | 55  | 鈴木隆次郎 (独協医大)   | 視神経鞘原発のメニンギオーマの2例                                   |
| 21 | 56  | 大原 国俊 (自治医大)   | 眼底所見より発見されたサルコイドーシスの1症例及び眼サルコイドーシスの特徴と本疾患診断上の価値について |
| 22 | 57  | 菊池 武邦 (塩谷病院)   | 網膜中心静脈閉塞症の3例  |
| 23 | 58  | 坪田 一男 (国立栃木病院) | 当科における過去4年間の白内障手術例の検討                               |
| 24 | 59  | 種本 康之 (上都賀病院)  | Tonicaccommodationの1例                               |
| 25 | 60  | 原 孜 (宇都宮市)     | 水晶体嚢内超音波法と完全嚢内眼内レンズ固定法                              |
| 26 | 61  | 太田誠一郎 (独協医大)   | フロントガラスによる眼外傷                                       |
| 27 | 62  | 沢 充 (自治医大)     | 眼内レンズの品質チェック—残留エチレンオキサイド濃度の包装形態との問題について—            |
| 28 | 63  | 太田誠一郎 (独協医大)   | フロントガラスによる眼外傷                                       |
| 29 | H1  | 熊谷謙次郎 (佐野厚生病院) | 赤外線放射温度計の眼科領域への応用                                   |
| 30 | 2   | 須田 雄三 (独協医大)   | VDT作業者の視機能について                                      |
| 31 | 3   | 大久保 彰 (自治医大)   | 眼病変を主徴とするサルコイドーシス                                   |
| 32 | 4   | 苗加 謙応 (国立栃木病院) | 糖尿病と眼合併症  |

栃木県総合医学会眼科研究発表

No.3

| 回  | 年度  | 演者          | 演題                                  |
|----|-----|-------------|-------------------------------------|
| 33 | 5   | 飯田亨司 (独協医大) | 眼科における外国人医療の現状                      |
| 34 | H6  | 林みよ子 (自治医大) | 抗癌剤の緑内障手術への応用                       |
| 35 | H7  | 千葉桂三 (独協医大) | 獨協医大における角膜移植の現状について                 |
| 36 | H8  | 伊野田繁 (自治医大) | 増殖糖尿病網膜症の治療と成績                      |
| 37 | H9  | 高橋佳二 (独協医大) | 杉花粉症結膜炎の発症機序<br>—果たして花粉が目に入って起こるのか— |
| 38 | H10 | 川島秀俊 (自治医大) | 内因性ぶどう膜炎の罹患率の疫学的考察                  |

## OMA講習会およびOMA試験実績

| 回  | 年   | 講習会場              | 受講者数 | 受験者数 | 合格者数 | 備考           |
|----|-----|-------------------|------|------|------|--------------|
| 1  | 昭54 |                   | 19   | 19   | 19   | 東京都眼科医会主催に参加 |
| 2  | 〃55 | 国立オリンピック青少年総合センター | 31   | 28   | 28   | 関東各県眼科医会共催   |
| 3  | 〃56 | 〃                 | 26   | 25   | 25   | 〃            |
| 4  | 〃57 | 〃                 | 20   | 20   | 20   | 〃            |
| 5  | 〃58 | 〃                 | 20   | 20   | 18   | 〃            |
| 6  | 〃59 | 帝京大学              | 18   | 16   | 16   | 〃            |
| 7  | 〃60 | 〃                 | 17   | 17   | 17   | 〃            |
| 8  | 〃61 | 〃                 | 25   | 24   | 24   | 〃            |
| 9  | 〃62 | 〃                 | 20   | 20   | 20   | 〃            |
| 10 | 〃63 | 〃                 | 17   | 17   | 17   | 〃            |
| 11 | 平1  | 〃                 | 31   | 30   | 29   | 〃            |
| 12 | 〃2  | 〃                 | 22   | 35   | 32   | 〃            |
| 13 | 〃3  | 〃                 | 37   | 36   | 36   | 〃            |
| 14 | 〃4  | 〃                 | 53   | 53   | 53   | 〃            |
| 15 | 〃5  | 〃                 | 32   | 30   | 28   | 〃            |
| 16 | 〃6  | 〃                 | 48   | 46   | 45   | 〃            |
| 17 | 〃7  | 〃                 | 30   | 29   | 26   | 〃            |
| 18 | 〃8  | 〃                 | 25   | 24   | 24   | 〃            |
| 19 | 〃9  | 〃                 | 31   | 31   | 31   | 〃            |
| 20 | 〃10 | 〃                 | 23   | 23   | 23   | 〃            |
| 21 | 〃11 | 〃                 | 30   | 29   | 29   | 〃            |
| 22 | 〃12 | 〃                 | 28   | 28   | 28   | 〃            |
| 23 | 〃13 | 〃                 | 28   | 27   | 27   | 〃            |
| 24 | 〃14 | 〃                 | 37   | 36   | 36   | 〃            |

## 栃眼医眼科医療従事者講習会

| 回 | 年月日         | 場所      | 講師・演題   | 出席者数 |        |
|---|-------------|---------|---|------|--------|
|   |             |         |   | 会員   | コメディカル |
| 1 | 11.11.14(日) | Hニューイタヤ | (第22回栃眼医研究会として開催)<br>保健・医療・福祉サービス研究会<br>雨宮恵美氏<br>「眼科におけるこれからの患者接遇」<br>順天堂大学 佐渡一成講師<br>「コンタクトレンズ最近の話題」<br>参天製薬眼科経営研究所長<br>千坂徹彌氏<br>「医療保険制度改革下における眼科医療」 | 32   | 144    |
| 2 | 12.11.19(日) | H東日本宇都宮 | 獨協医大 千葉桂三講師<br>「眼鏡処方と苦情への対応」<br>新潟大学眼科 阿部達也先生<br>「眼科における院内感染対策」<br>(有)ミック研究所 佐藤貴明氏<br>「患者接遇について」  | 18   | 171    |
| 3 | 13.11.11(日) | Hニューイタヤ | 原眼科病院総務部長 橋本章氏<br>「眼科医療機関におけるリスクマネージメントーヒヤリハットを水際で防止するにはー」<br>自治医大 山上聡講師<br>「角膜、結膜疾患の治療」<br>(財)日本総合研究所高橋啓子氏<br>「患者接遇について」                             | 13   | 212    |
| 4 | 14.11.17(日) | Hニューイタヤ | 元聖路加国際病院ナースマネージャー<br>高井今日子氏<br>「クリティカルパスーその適用とプロセスと効果ー」<br>獨協医大 須田雄三講師<br>「網膜疾患の最新医療」<br>アドホック医療経営センター<br>深堀幸次氏<br>「患者接遇対応マナーのあり方」                    | 11   | 162    |

## 目の愛護デー行事实施状況

| 年度    | 開催日時                                   | 開催場所               | 事業項目             | 担当出務<br>医師数 | 協力<br>参加者 | 来場者数         |
|-------|--|--------------------|------------------|-------------|-----------|--------------|
| 昭和62年 | 10月10日（土）<br>午前10時～午後5時                | 東武宇都宮百貨店<br>5F大催事場 | 目の健康相談           | 10名         | 17名       | 168名         |
| 昭和63年 | 10月10日（月）<br>〃                         | 〃                  | 〃                | 13名         | 19名       | 122名         |
| 平成1年  | 10月10日（火）<br>〃                         | 〃                  | 〃                | 11名         | 21名       | 137名         |
| 平成2年  | 10月10日（水）<br>〃                         | 〃                  | 〃                | 11名         | 22名       | 147名         |
| 平成3年  | 10月10日（木）<br>〃                         | 〃                  | 〃                | 12名         | 19名       | 188名         |
| 平成4年  | 10月10日（土）<br>〃                         | 〃                  | 〃                | 11名         | 21名       | 100名         |
| 平成5年  | 10月3日（日）<br>〃                          | 〃                  | 〃                | 11名         | 21名       | 149名         |
| 平成6年  | 10月9日（日）<br>午前10時～午後4時                 | 宇都宮市保健センター         | 目の健康相談<br>目の健康講座 | 12名<br>3名   | 22名       | 110名<br>68名  |
| 平成7年  | 10月8日（日）<br>〃                          | 宇都宮市保健センター         | 〃<br>〃           | 13名<br>1名   | 23名       | 85名<br>51名   |
| 平成8年  | 10月6日（日）<br>10:00～13:00<br>13:30～14:30 | 〃                  | 〃<br>〃           | 8名<br>1名    |           | 65名<br>61名   |
| 平成9年  | 10月12日（日）<br>〃<br>〃                    | 〃                  | 〃<br>〃           | 8名<br>1名    |           | 85名<br>110名  |
| 平成10年 | 10月11日（日）<br>〃<br>〃                    | 〃                  | 〃<br>〃           | 8名<br>1名    |           | 58名<br>36名   |
| 平成11年 | 10月3日（日）<br>〃<br>〃                     | 〃                  | 〃<br>〃           | 9名<br>1名    |           | 91名<br>112名  |
| 平成12年 | 10月1日（日）<br>〃<br>〃                     | 〃                  | 〃<br>〃           | 9名<br>1名    |           | 32名<br>30名   |
| 平成13年 | 9月30日（日）<br>〃<br>〃                     | 〃                  | 〃<br>〃           | 9名<br>2名    |           | 105名<br>114名 |
| 平成14年 | 10月6日（日）<br>〃<br>〃                     | 〃                  | 〃<br>〃           | 7名<br>1名    |           | 98名<br>129名  |

## 目の愛護デー行事への参加状況一覧

| 年   | 下野新聞<br>寄稿 | 目の健康相談出務                               |              |               |                 | 目の健康<br>講座講師 |
|-----|------------|--|--------------|---------------|-----------------|--------------|
|     |            | 開業                                     | 自治           | 独協            | 国公立             |              |
| 昭61 | 早津尚夫       | -----                                  | -----        | -----         | -----           | -----        |
| 昭62 | 柏瀬宗弘       | 吉沢清、早津尚夫、柏瀬宗弘、稲葉光治<br>原孜、宮下浩、加藤晴夫、斉藤武久 | -----        | 鈴木隆次郎<br>鈴木康意 | -----           | -----        |
| 昭63 | 稲葉光治       | 河添和雄、亀卦川みどり、木村弘一、<br>小暮正子、久保田芳雄        | 宮本孝文<br>宮倉幹夫 | 石崎道治<br>木村 純  | (国立栃木)<br>劉家華   | -----        |
| 平1  | 加藤晴夫       | 田口太郎、永田紀子、原たか子<br>福田順一、室本雅夫            | 滝沢裕一         | 千葉桂三          | (済生会)<br>柳沢仍子   | -----        |
| 平2  | 田口太郎       | 山川高子、湯本誠、阿久津行永<br>矢尾板栄子、小西恒夫           | 佐々木洋         | 平岡利彦          | (上都賀)<br>福島一哉   | -----        |
| 平3  | 斉藤武久       | 吉沢京子、青木和加、田島幸男<br>店網淳子、斉藤明郎            | 清水由花         | 吉田顕照          | (下都賀)<br>近藤佳夫   | -----        |
| 平4  | 中静 隆       | 斉藤春和、鈴木光、多賀谷逸子<br>大野研一、松島雄二            | 荒川純子         | 横田章夫          | (佐野厚生)<br>加藤克彦  | -----        |
| 平5  | 宮下 浩       | 浅原うた子、中静隆、深井清<br>井上成紀、原裕               | -----        | -----         | (足利日赤)<br>榛村重人  | -----        |
| 平6  | 井上成紀       | 原裕、原正、宮沢敦子、大久保好子<br>城山力一               | 釜田恵子         | 須田雄三          | (塩谷)<br>菊池武邦    | 小暮文雄         |
| 平7  | 松島雄二       | 旭英幸、大原麗、広瀬裕子、苗加謙応<br>吉沢徹               | 井岡大治         | 太田誠一郎         | (大田原日赤)<br>上芝陽一 | 清水昊幸         |
| 平8  | 原 孜        | 山口康三、安藤緑小倉修                            | 大川多永子        | -----         | -----           | 鈴木隆次郎        |
| 平9  | 原 裕        | 吉澤浩子、猪ノ坂貴子、井廻万里                        | -----        | 妹尾 正          | -----           | 林みゑ子         |
| 平10 | 城山力一       | 井岡大治、落合万理、藤野由起子<br>高橋直人                | 田辺和子         | -----         | -----           | 石崎道治         |
| 平11 | 小暮正子       | 福島一哉、斉藤信之、関本俊男                         | -----        | 蘇 沾訓          | -----           | 伊野田繁         |
| 平12 | 菊池武邦       | 浅原典郎、大久保彰、木村純                          | 酒井理恵子        | -----         | -----           | 千葉桂三         |
| 平13 | 鈴木 光       | 斎藤哲也、落合憲一                              |              | 鈴木重成          | (塩谷)<br>上田昌弘    | 水流忠彦<br>原 岳  |
| 平14 | 永田紀子       | 石崎道治、蘇沾訓、宮下浩                           | 高橋尚子         | -----         | -----           | 小原義隆         |

## 目の愛護デー行事「目の健康講座」講師および演題

|     |                      |  |
|-----|----------------------|--|
| 平6  | 獨協医大 小暮文雄教授          | 目の成人病について                              |
| 平7  | 自治医大 清水昊幸教授          | 糖尿病と目の健康                               |
| 平8  | 獨協医大 鈴木隆次郎助教授        | ここまで進んだ目の手術                            |
| 平9  | 自治医大 林みゑ子助教授         | わかりやすい緑内障のお話                           |
| 平10 | 獨協医大 石崎道治講師          | 目のアレルギー                                |
| 平11 | 自治医大 伊野田繁助教授         | 飛蚊症と網膜剥離                               |
| 平12 | 獨協医大 千葉桂三講師          | 近視でお悩みの方へ<br>－メガネ・コンタクトレンズ・屈折矯正手術について－ |
| 平13 | 自治医大 水流忠彦教授<br>原 岳講師 | 緑内障ってどんな病気<br>－緑内障の成因と診断法－             |
| 平14 | 獨協医大 小原喜隆教授          | 白内障と緑内障のお話                             |

## 「目の愛護デー」下野新聞寄稿

|    |       | 掲載年月日          | 寄稿者  |
|----|-------|----------------|------|
| 1  | 昭和61年 | S 61.10.12 (日) | 早津尚夫 |
| 2  | 〳 62年 | S 62.10.4 (日)  | 柏瀬宗弘 |
| 3  | 〳 63年 | S 63.10.9 (日)  | 稲葉光治 |
| 4  | 平成1年  | H 1.10.8 (日)   | 加藤晴夫 |
| 5  | 〳 2年  | H 2.10.9 (火)   | 田口太郎 |
| 6  | 〳 3年  | H 3.10.6 (日)   | 斉藤武久 |
| 7  | 〳 4年  | H 4.10.4 (日)   | 中静 隆 |
| 8  | 〳 5年  | H 5.9.26 (日)   | 宮下 浩 |
| 9  | 〳 6年  | H 6.10.5 (水)   | 井上成紀 |
| 10 | 〳 7年  | H 7.10.2 (月)   | 松島雄二 |
| 11 | 〳 8年  | H 8.9.30 (月)   | 原 孜  |
| 12 | 〳 9年  | H 9.10.10 (金)  | 原 裕  |
| 13 | 〳 10年 | H 10.10.5 (月)  | 城山力一 |
| 14 | 〳 11年 | H 11.9.29 (水)  | 小暮正子 |
| 15 | 〳 12年 | H 12.9.25 (月)  | 菊池武邦 |
| 16 | 〳 13年 | H 13.9.24 (月)  | 鈴木 光 |
| 17 | 〳 14年 | H 14.10.2 (水)  | 永田紀子 |

## 栃木県眼科医会ゴルフコンペ歴代優勝者

| 回  | 優勝者    | 年月日        | 場 所         | 回  | 優勝者   | 年月日        | 場 所         |
|----|--------|------------|-------------|----|-------|------------|-------------|
| 1  | 横井 俊明  | S 49.4.10  | 宇都宮C.C      | 31 | 斎藤 武久 | H 1.3.21   | 宇都宮C.C      |
| 2  | 松島 雄二  | S 49.9.1   | 小山G.C       | 32 | 柏瀬 宗弘 | H 1.11.23  | 宇都宮C.C      |
| 3  | 柏瀬 宗弘  | S 50.3.16  | 唐沢G.C       | 33 | 斎藤 明郎 | H 2.4.1    | 唐沢G.C       |
| 4  | 小林 千里  | S 50.9.28  | 宇都宮C.C      | 34 | 熊谷謙次郎 | H 2.10.28  | 宇都宮C.C      |
| 5  | 内野 允   | S 51.4.18  | 那須G.C       | 35 | 熊谷謙次郎 | H 3.3.31   | 唐沢G.C、三好コース |
| 6  | 小西 恒夫  | S 51.9.12  | 芳賀C.C       | 36 | 苗加 謙応 | H 3.10.13  | プレステージC.C   |
| 7  | 内野 允   | S 52.4.10  | 宇都宮C.C      | 37 | 平岡 利彦 | H 4.3.29   | プレステージC.C   |
| 8  | 井上 成紀  | S 52.10.23 | 小山G.C       | 38 | 斎藤 武久 | H 4.10.25  | 皆川城C.C      |
| 9  | 斎藤 信之  | S 53.3.19  | 宇都宮C.C      | 39 | 千葉 桂三 | H 5.6.6    | 那須国際C.C     |
| 10 | 斎藤 信之  | S 53.10.10 | 唐沢G.C、三好コース | 40 | 高橋 佳二 | H 5.10.24  | 宮の森C.C      |
| 11 | 井上 成紀  | S 54.4.18  | 那須G.C       | 41 | 大竹雄一郎 | H 6.5.8    | ロベククラブ      |
| 12 | 井上 成紀  | S 54.9.15  | 宇都宮C.C      | 42 | 上芝 陽一 | H 6.11.27  | 宇都宮C.C      |
| 13 | 深井 清   | S 55.4.20  | 宇都宮C.C      | 43 | 斎藤 武久 | H 7.4.9    | 宮の森C.C      |
| 14 | 田口 太郎  | S 55.10.20 | 唐沢G.C、三好コース | 44 | 斎藤 静子 | H 7.11.23  | ロベククラブ      |
| 15 | 小西 恒夫  | S 56.3.28  | 宇都宮C.C      | 45 | 松島 優子 | H 8.6.2    | 西那須野G.C     |
| 16 | 小林 千里  | S 56.9.23  | 日光C.C       | 46 | 原 孜   | H 8.11.17  | 宇都宮C.C      |
| 17 | 稲葉 六郎  | S 57.3.28  | 小山G.C       | 47 | 稲葉 光治 | H 9.3.23   | 宮の森C.C      |
| 18 | 岡安 成尚  | S 57.10.10 | 宇都宮C.C      | 48 | 森 純一  | H 9.11.24  | 星の宮C.C      |
| 19 | 松島 雄二  | S 58.3.13  | 唐沢G.C       | 49 | 田口 太郎 | H 10.3.15  | 宮の森C.C      |
| 20 | 加藤 晴夫  | S 58.10.2  | 宇都宮C.C      | 50 | 松島 博之 | H 11.4.4   | イストウッドC.C   |
| 21 | 大久保 彰  | S 59.3.20  | 宇都宮C.C      | 51 | 斎藤信一郎 | H 11.10.31 | 宇都宮C.C      |
| 22 | A松島 雄二 | S 59.10.10 | 小山G.C       | 52 | 稲葉 光治 | H 12.3.12  | 小山G.C       |
|    | B嶋田 孝吉 |            |             | 53 | 斎藤信一郎 | H 12.10.29 | 宮の森C.C      |
| 23 | 深井 清   | S 60.3.21  | 皆川城C.C      | 54 | 石崎 道治 | H 13.3.11  | 東武富士が丘C.C   |
| 24 | 坂西 良彦  | S 60.10.13 | 唐沢G.C、三好コース | 55 | 斎藤 武久 | H 13.11.18 | 宇都宮C.C      |
| 25 | 斎藤 武久  | S 61.3.16  | 小山G.C       | 56 | 斎藤 静子 | H 14.3.24  | 大金C.C       |
| 26 | 田口 太郎  | S 61.10.10 | 宇都宮C.C      | 57 | 落合 憲一 | H 14.10.27 | 西那須野C.C     |
| 27 | 斎藤 明郎  | S 62.3.15  | 皆川城C.C      | 58 | 石崎 道治 | H 15.3.2   | 宮の森C.C      |
| 28 | 稲葉 光治  | S 62.9.15  | 白河高原C.C     |    |       |            |             |
| 29 | 嶋田 孝吉  | S 63.5.15  | 宇都宮C.C      |    |       |            |             |
| 30 | 原 孜    | S 63.11.3  | 宇都宮C.C      |    |       |            |             |

## 栃眼医麻雀大会実績

| 回  | 年 月 日 (曜)      | 会 場       | 参加者 | 優 勝   | 準優勝   |
|----|----------------|-----------|-----|-------|-------|
| 1  | S 56.11.10 (火) | 宇都宮市・竜    | 20名 | 室本 雅夫 | 田口 太郎 |
| 2  | S 57.10.16 (土) | 〃         |     | 関 亮   | 阿久津行永 |
| 3  | S 58.6.4 (土)   | 〃         |     | 関 亮   | 湯本 誠  |
| 4  | S 59.10.16 (火) | 宇都宮市・きぬ川  | 13名 | 坪田 一男 | 小暮 文雄 |
| 5  | S 60.4.7 (日)   | 〃         | 12名 | 湯本 誠  | 千葉 桂三 |
| 6  | S 61.6.13 (金)  | 〃         | 12名 | 石崎 道治 | 野村 昌弘 |
| 7  | S 62.4.12 (日)  | 壬生町・やまと飯店 | 12名 | 野村 昌弘 | 田島 幸男 |
| 8  | S 62.12.8 (火)  | 宇都宮市・きぬ川  | 8名  | 早津 尚夫 | 旭 英幸  |
| 9  | S 63.7.17 (日)  | 壬生町・やまと飯店 | 10名 | 関 亮   | 石崎 道治 |
| 10 | H 1.4.19 (水)   | 宇都宮市・きぬ川  | 9名  | 石崎 道治 | 湯本 誠  |
| 11 | H 2.2.7 (水)    | 〃         | 13名 | 高橋 佳二 | 田口 太郎 |
| 12 | H 3.2.15 (金)   | 〃         | 16名 | 田島 幸男 | 小西 恒夫 |
| 13 | H 4.2.14 (金)   | 〃         | 12名 | 千葉 桂三 | 田島 幸男 |
| 14 | H 5.2.12 (金)   | 〃         | 10名 | 田口 太郎 | 宮下 浩  |
| 15 | H 6.2.18 (金)   | 〃         | 9名  | 田口 太郎 | 田島 幸男 |
| 16 | H 7.2.24 (金)   | 〃         | 9名  | 千葉 桂三 | 湯本 誠  |
| 17 | H 8.2.28 (金)   | 〃         | 9名  | 田口 太郎 | 旭 英幸  |
| 18 | H 9.2.28 (金)   | 〃         | 9名  | 大久保 彰 | 田口 太郎 |
| 19 | H 10.2.27 (金)  | 〃         | 7名  | 湯本 誠  | 田口 太郎 |
| 20 | H 11.2.26 (金)  | 〃         | 6名  | 田島 幸男 | 湯本 誠  |
| 21 | H 12.2.25 (金)  | 〃         | 5名  | 湯本 誠  | 田島 幸男 |
| 22 | H 13.2.24 (金)  | 〃         | 5名  | 早津 尚夫 | 田島 幸男 |

(注) 第11回は関亮教授送別大会  
 第17回は小暮文雄教授送別大会  
 第22回は湯本誠先生送別大会

## 参 考 文 献

1. 稲葉 六郎：栃木県眼科医会史  
日本の眼科（特集日本眼科医会40年史）No144、P 166（昭49）
2. 早津 尚夫：眼科医会風土記（栃木県）  
銀海No127、P 30（平3）
3. 原 蕃：眼科医会創立当時の思い出  
栃木県眼科医会報No 3、P 24（平1）
4. 鈴木常千代：栃木県眼科医会をなぜ作ったか  
栃木県眼科医会報 No.3、P 26（平1）
5. 早津 尚夫：宇都宮市の眼科医会（その1宇都宮市眼科医会設立以前のこと）  
栃木県眼科医会報No18、P 51（平9）
6. 早津 尚夫：宇都宮市の眼科医会（その2宇都宮市眼科医会設立とその後のあゆみ）  
栃木県眼科医会報No19、P 46（平9）
7. 中静 隆・柏瀬 宗弘：足利市の眼科医会  
栃木県眼科医会報No21、P 45（平10）
8. 早津 尚夫：眼科医会30年のあゆみ  
宇都宮市医師会館建設30周年記念誌 P 145（平12）
9. 獨協医科大学眼科学教室紹介  
銀海No94、P 4（昭57）
10. 教室だより－獨協医科大学眼科学教室  
銀海No179、P 4（平15）
11. 教室紹介－自治医科大学眼科学教室  
銀海No101、P 4（昭60）
12. 清水昊幸教授還暦記念業績目録集  
自治医科大学眼科学教室（平4）
13. 清水 昊幸：網膜硝子体手術の三十年－自伝的記録－（平10）
14. 関 亮教授退職記念誌  
獨協医科大学眼科学教室（平2）
15. 小暮文雄教授退任記念業績集  
獨協医科大学眼科学教室（平8）

## ○ご投稿のお願い

会報編集委員会では、会員の先生方の原稿を募集しております。

エッセイ、旅行記、ご意見、趣味の話など楽しい原稿をお待ちしております。原稿に写真を添える事も可能です。但し、カラー写真で寄稿されてもモノクロ印刷になります。あらかじめご了承ください。

## ○原稿送り先

〒321-0202 下都賀郡壬生町おもちゃのまち1-9  
しろやま眼科 城山力一  
TEL 0282 (86) 3271  
FAX 0282 (86) 3716  
Eメール：riki4680@green.ocn.ne.jp  
パソコンをお使いの方は、データで投稿下さる事を歓迎します。

## ○原稿〆切

常時受け付けております。  
但し、第33号の〆切は10月末日です。

## ○編集後記

遅れ馳せながら「栃木県眼科医会の50年」を特集いたしました。創立当時の資料がほとんど無く、また、当時を知る人も驚くほど少なく50年の歳月の長さを感じました。それでも、早津尚夫前会長が沢山の資料を纏めて下さり、かなり詳しい栃木県眼科医会の歩みを資料編として巻末に掲載することが出来ました。今後、栃木県眼科医会の歴史を語る上でおおいに役立つものと思われま

す。また、栃木県眼科医会の発展に貢献くださった先生方に当時のことを思い出し一筆お書きいただきました。もうすっかり忘れてしまったことが、これを読むことによって克明に思い出せるのは不思議です。貴重な時間を割き執筆下さった事に、改めて感謝いたします。

薬事法改正による医療機器販売業の許可制度導入が、平成17年から施行されます。こうした法改正がはたして国民の目を守ることになるのか、旭英幸先生が寄稿欄に一石を投じてくれました。こうしたご意見をお待ちしております。（城山）

## 編 集 委 員

委員長 城山力一

副委員長 千葉桂三

委員 鈴木光

森 樹郎

早津尚夫

## 栃木県眼科医会報（第32号）

発行日：平成16年6月30日

発行所：栃木県眼科医会

〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷5-4-5

早津眼科医院内

発行人：栃木県眼科医会

稲葉光治

印刷所：有限会社 安野

〒321-0151 宇都宮市西川田町1092